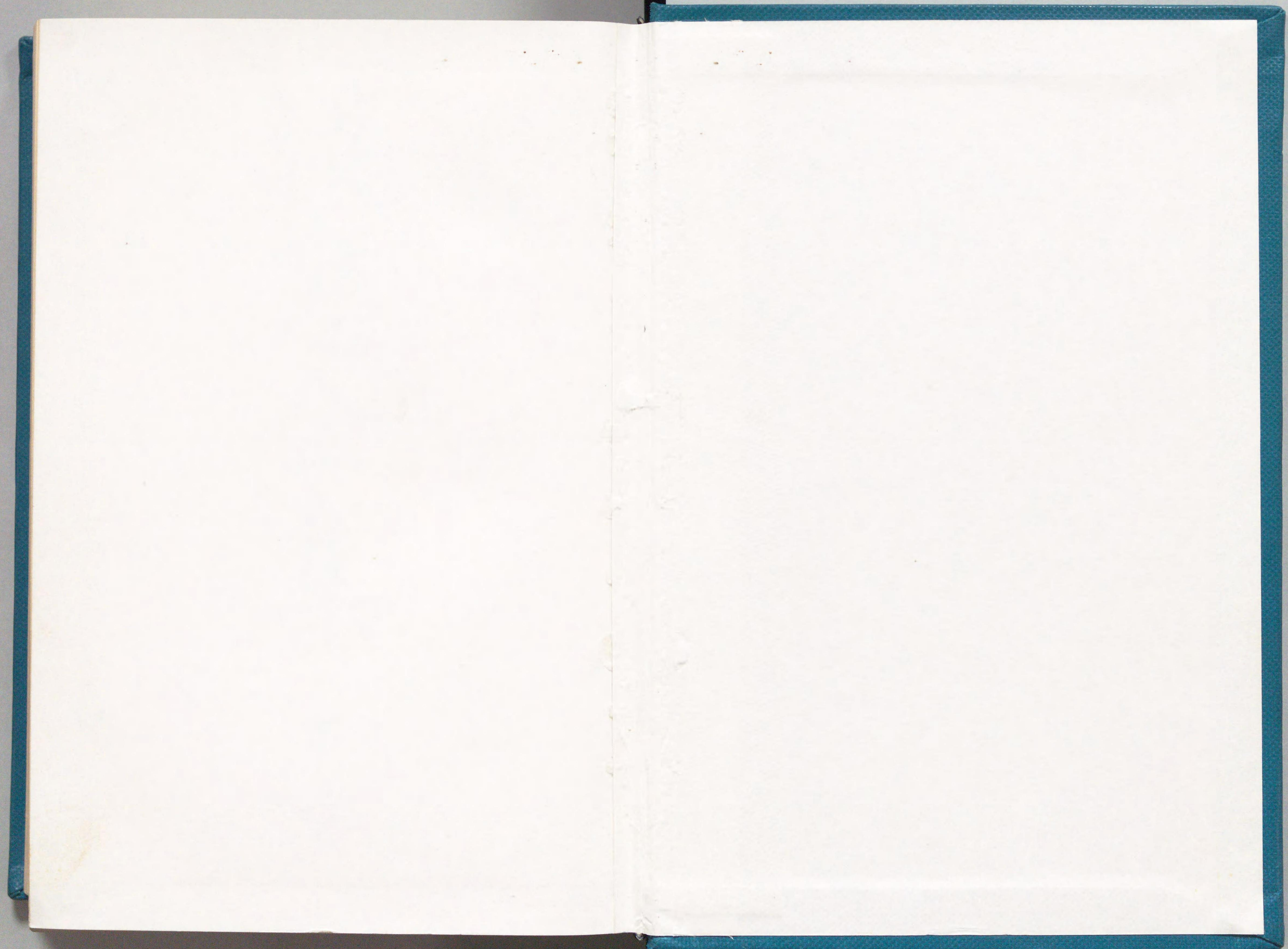


121.7  
H566t  
H









工 5T 70

淡窓全集

下卷







發願文

弟子源尚恐懼謹白其惡業  
滿盈因得重病命在旦夕自  
恐不聞聖道永後皆愚故於  
明日閉門絕物不啖葷肉信  
心依向者一七日持誦真言  
十萬遍若二十万遍至心發  
願願得

大聖慈悲攝受除諸障礙終  
此大願願得增我信心今生  
精進願得脫離病苦長享安  
穩願得示現吉祥預知畢滅  
願得一切眾生與我同覺普  
同清業誓同享安樂

昔

日本國享和三年癸亥閏正  
月七日之夕

廣瀨求馬源尚謹言

重作普願文

弟子源尚自奉教業前苦死期在  
途今至心發願願得延命住世為父  
母親親乃至一切眾生與我有緣  
獲皆此普願普救普度若無願得違引  
云四靈願一融發願故得終相。二  
信心增長自出新進三病苦漸消精  
神漸健四感得種。眾深之狀則決  
定知止若所願不違示亦四願一體  
破障壞不終期。二得破念起信心  
遂則三病等漸進精神漸衰四感得  
報。要務世等則決定知死此教願  
普以本月十四日朔期伏望

文 願 發 生 先 慈 澆

享和三年正月七日先生二十二歲病脫離祈願文



(一)の其) 編 書 生 先 慈 淡

其の二) 弟久兵衛先生(號南隆宗家第六世)に寄せたるものなり

其の一) 淡窓先生八歳の時詩經の句讀を受けたる長福寺十二世法幢聖印に寄せたるものにて先生の筑前龜井塾に在學中十六七歳の筆なり

其の二) 弟久兵衛先生(號南隆宗家第六世)に寄せたるものなり

其の一) 淡窓先生八歳の時詩經の句讀を受けたる長福寺十二世法幢聖印に寄せたるものにて先生の筑前龜井塾に在學中十六七歳の筆なり



淡窓先生幼時書

月下釣以清蒸字  
萬里涼風散  
背燕秋江  
兩岸露華凝  
東來明月  
垂綸處  
一片輕舟似雪  
膺

仲寅之助

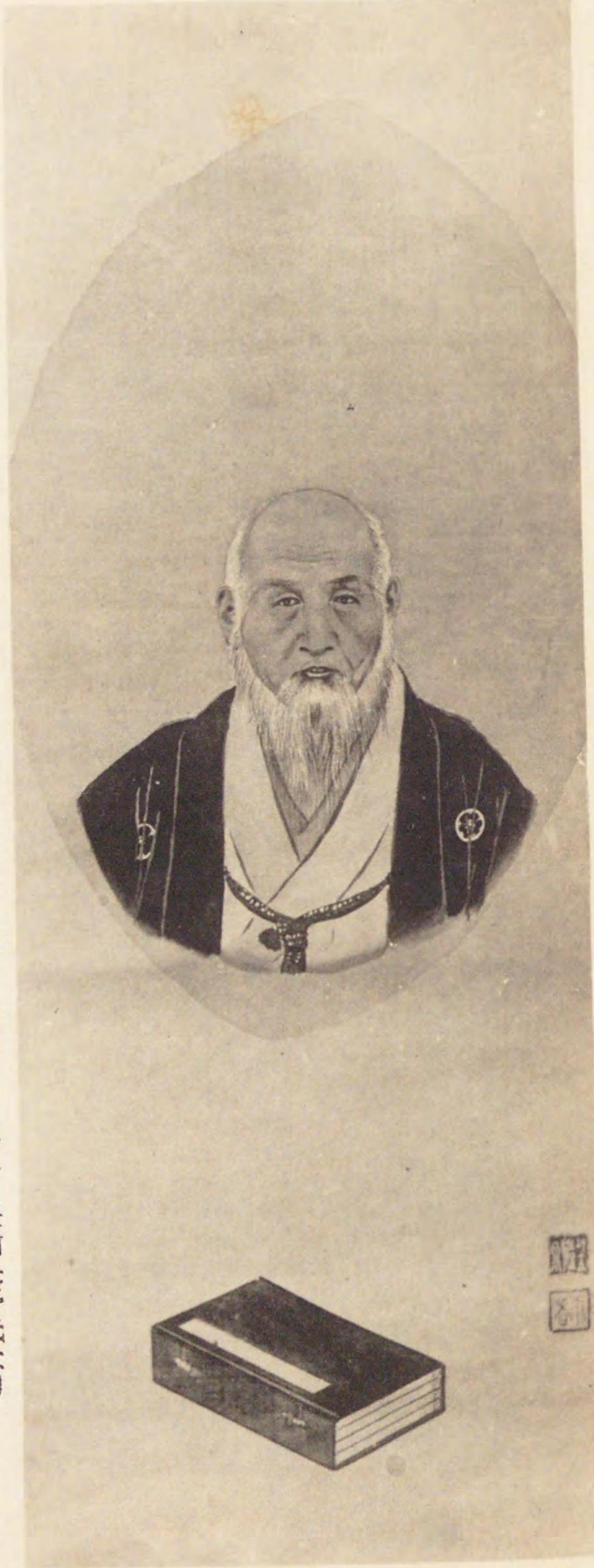
寅之助は先生の幼名、仲は當時揖斐代官より伯父月化先生に賜はりし姓なり







青邨先生肖像



林外先生肖像

淡窓先生の義子にして嗣子林外先生の成長まで塾務を督せらるる生家は豊前矢野氏なり



淡窓先生子なきを以て旭莊先生長男孝之助(號林外)を嗣子とせらるる世人淡窓、旭莊、青邨、林外の四先生を日田の四廣と稱せり

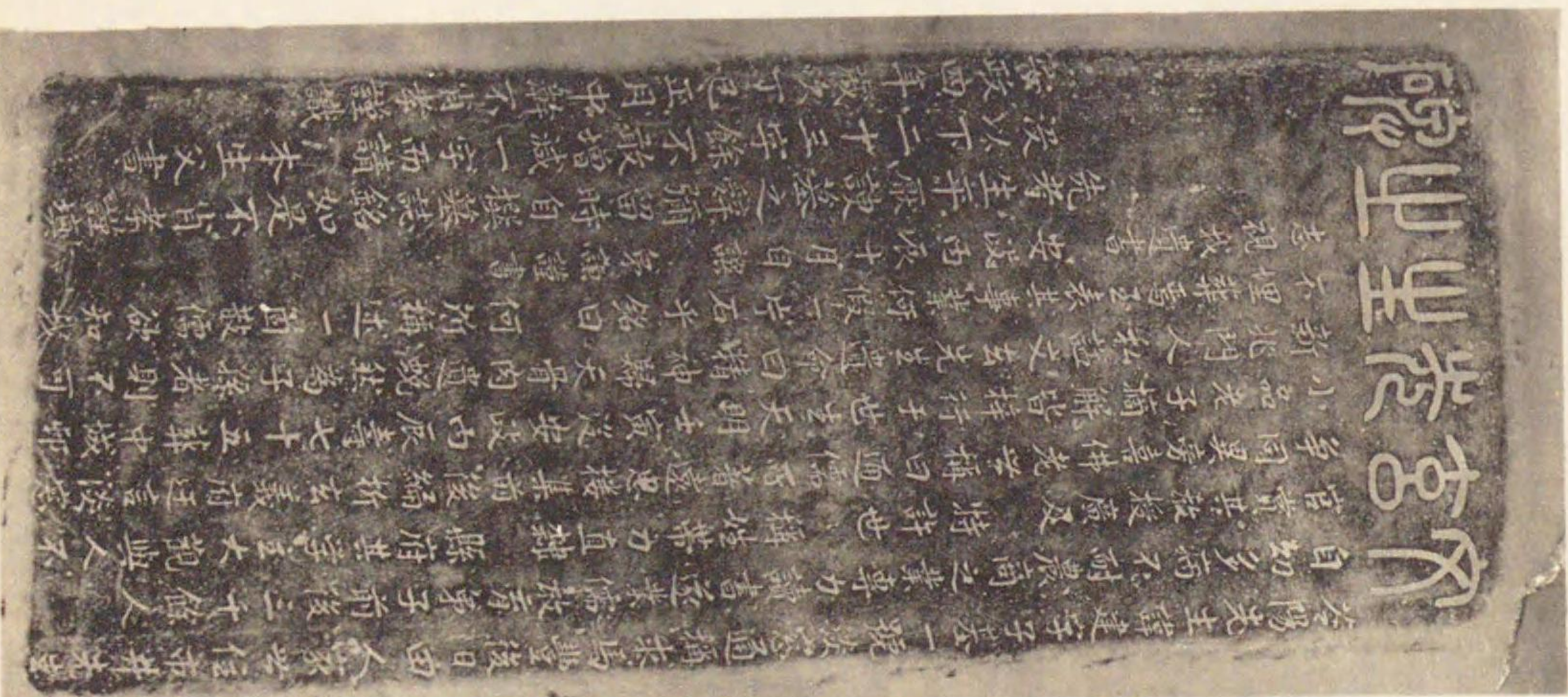




淡窓先生之墓

墓所は長生園と稱し豆田町下中城にあり

淡窓先生墓前自撰誌銘



淡窓先生平生誤墓の辭を厭ひ彌留の時自ら墓誌銘を撰せられたるものにて自ら通儒と稱し欲知我志視我遺書と曰へる皆是れ先生の精神の發露人格の顯現ならざるはなし



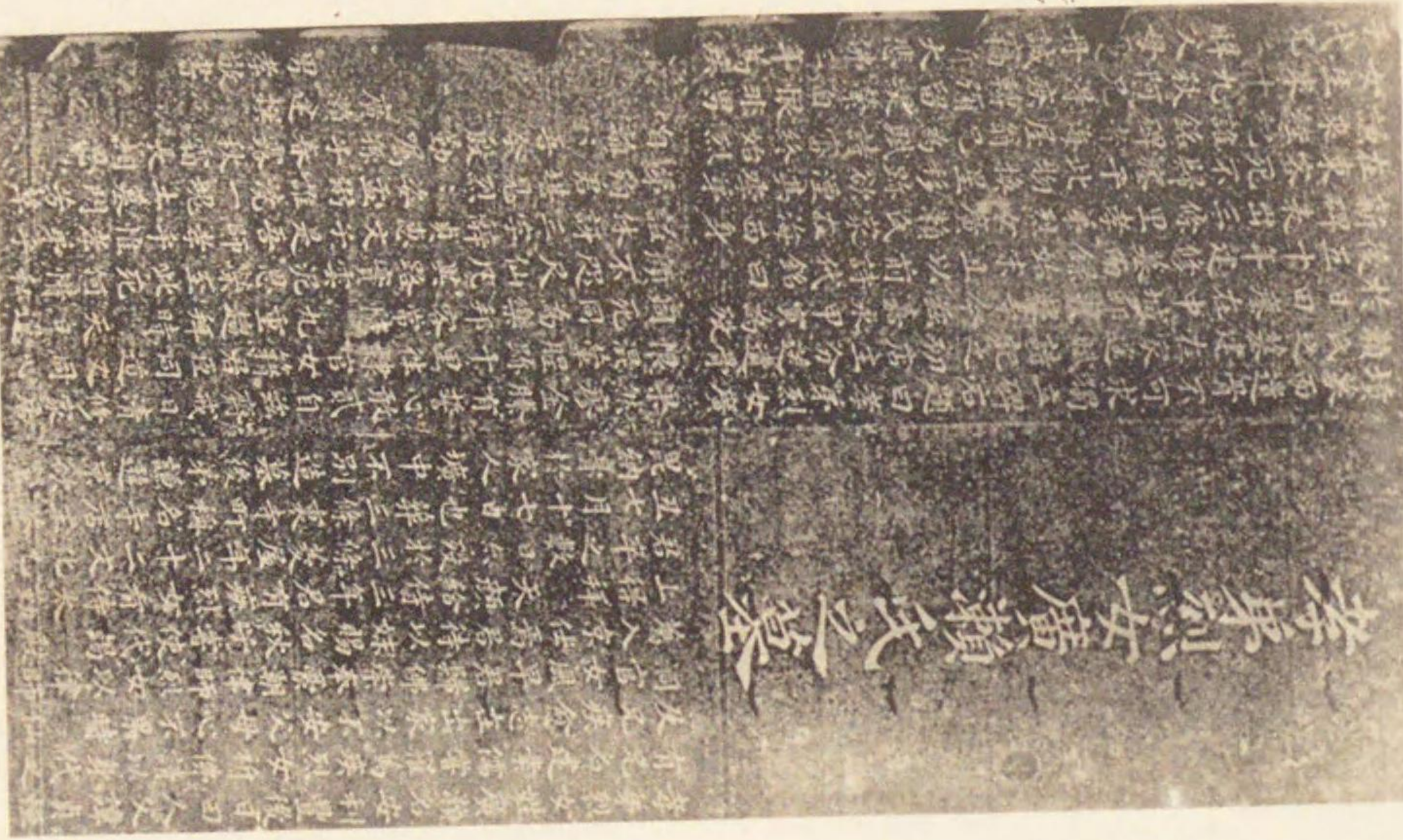


長生園墓所前景

墓所内には淡路、旭莊、青柳、林外の四先生及淡路先生夫人を葬る

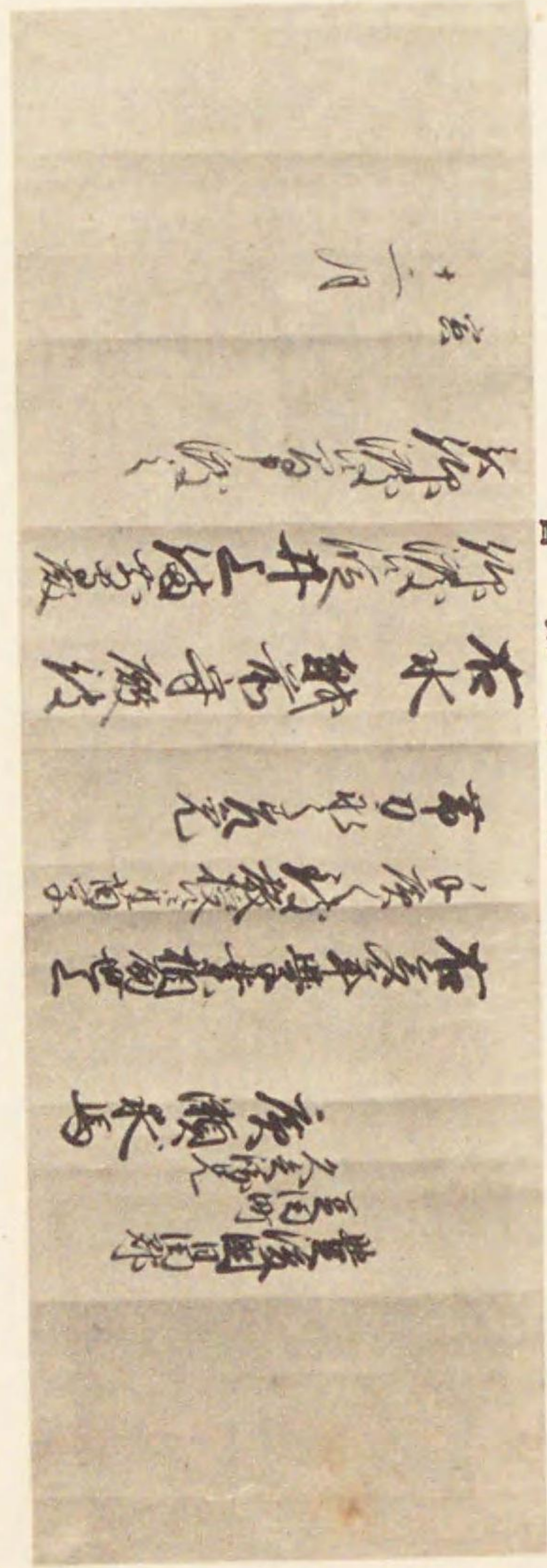
Faint, illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page.



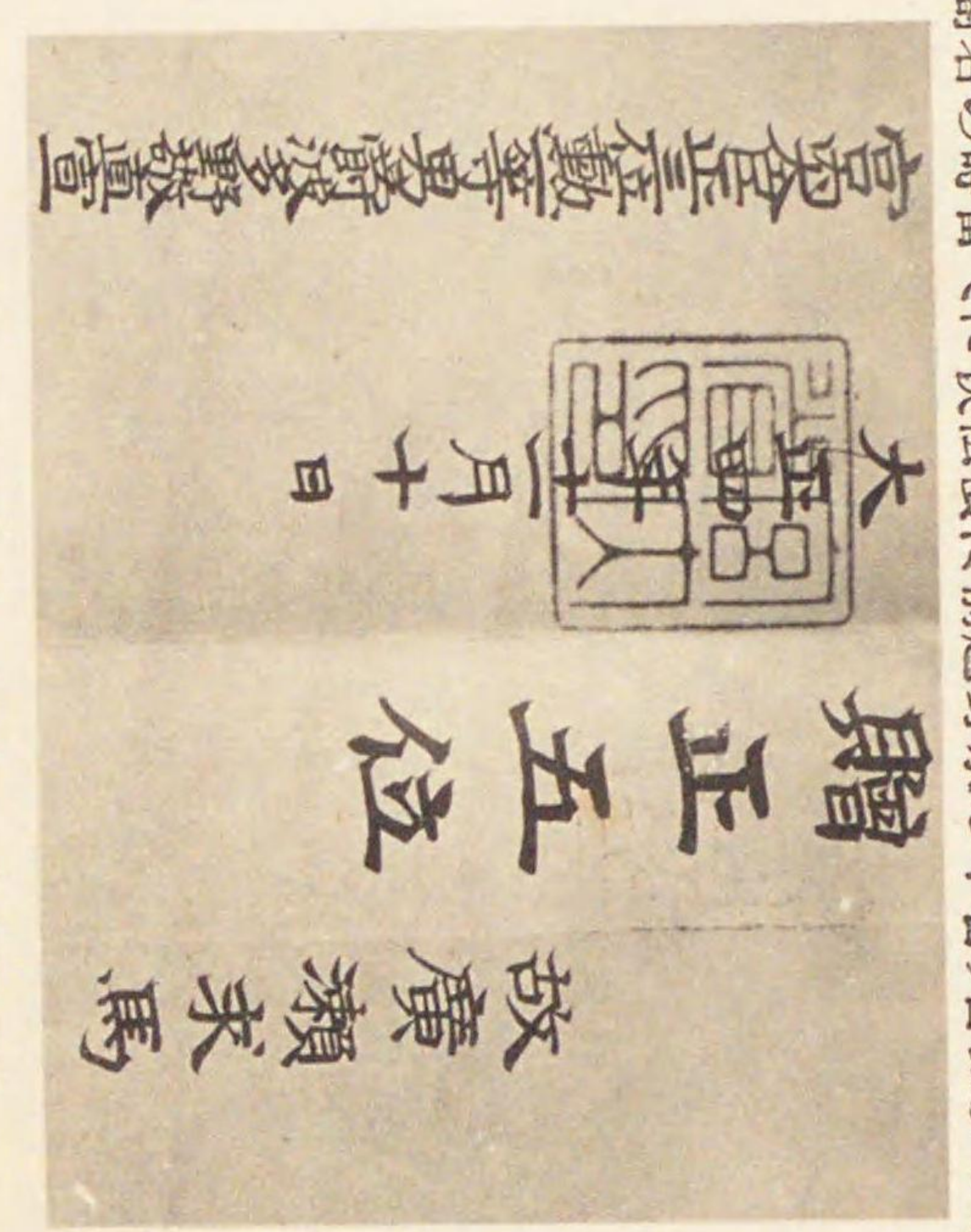


淡路先生令妹秋子の墓碑銘なり先生少時大病に罹り父母の憂愁一方ならず令妹誠を竭して看護し遂に兄の命に代らんとの大誓願を發せり後濠洲律師の推薦により宮中風早二位局に奉仕し妹を以て遇せられ天類に咫尺するに至れり

孝悌烈女墓碑銘



書法沙府菴



贈位沙汰書

淡路先生先慈 慶應十六年生 賜  
 天保元年十一月十六日 書法沙府菴  
 前越野水の中書(書) 松濱(侯) 侯松濱(侯) 侯松濱(侯)  
 永りよ 府菴月二十年三十(保)天慶一十六生先慈淡  
 刀帶字苗世永りよ 府菴月二十年三十(保)天慶一十六生先慈淡  
 前空名の時當てに 侯松濱(侯) 侯松濱(侯) 侯松濱(侯)  
 丸榮光の 前空名の時當てに 侯松濱(侯) 侯松濱(侯) 侯松濱(侯)  
 (り)な老聞名の時當てに 侯松濱(侯) 侯松濱(侯) 侯松濱(侯)  
 宮鬼堂彦動守男爵淡野敬置  
 大正四年三月十日  
 贈位沙汰書  
 故廣瀨求馬  
 贈正五位  
 書法沙府菴  
 大正四年四月一日



門第五岳翁書

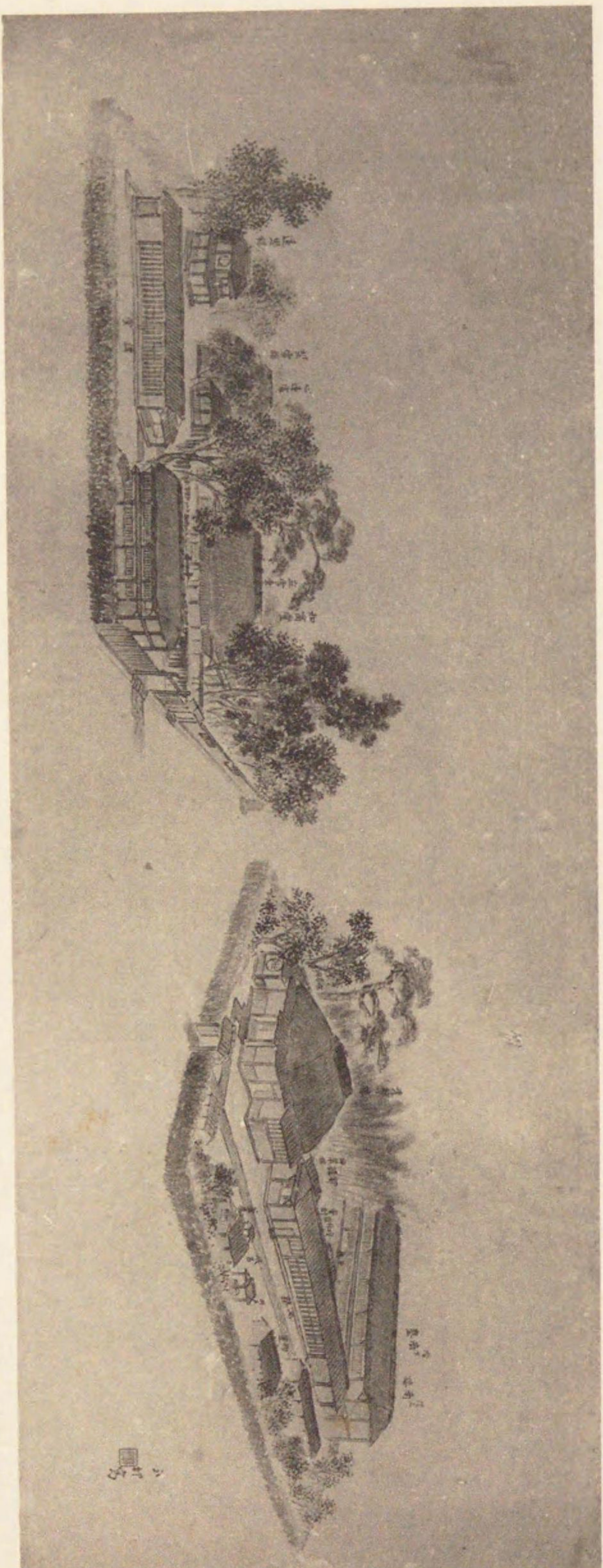
軍國自出<sup>上</sup>然<sup>上</sup>里<sup>上</sup>二十五年<sup>上</sup>安易<sup>上</sup>梅  
瓶<sup>上</sup>汲<sup>上</sup>空<sup>上</sup>泉<sup>上</sup>揮<sup>上</sup>殘<sup>上</sup>菊<sup>上</sup>白<sup>上</sup>以<sup>上</sup>軍<sup>上</sup>子<sup>上</sup>樂<sup>上</sup>  
先師  
明治十三年庚辰十二月二日祥  
文<sup>上</sup>言<sup>上</sup>先<sup>上</sup>聖<sup>上</sup>聖<sup>上</sup>法<sup>上</sup>然<sup>上</sup>有<sup>上</sup>先<sup>上</sup>外  
川人信五書

儼然<sup>上</sup>迷<sup>上</sup>象<sup>上</sup>拜<sup>上</sup>先師<sup>上</sup>行<sup>上</sup>佛<sup>上</sup>闕<sup>上</sup>在<sup>上</sup>  
侍<sup>上</sup>坐<sup>上</sup>時<sup>上</sup>冬<sup>上</sup>和<sup>上</sup>八<sup>上</sup>旬<sup>上</sup>於<sup>上</sup>是<sup>上</sup>世<sup>上</sup>宜<sup>上</sup>園<sup>上</sup>  
齋<sup>上</sup>日<sup>上</sup>讀<sup>上</sup>書<sup>上</sup>見<sup>上</sup>戊<sup>上</sup>多<sup>上</sup>亦<sup>上</sup>日<sup>上</sup>  
又<sup>上</sup>言<sup>上</sup>先<sup>上</sup>聖<sup>上</sup>三<sup>上</sup>十<sup>上</sup>三<sup>上</sup>回<sup>上</sup>忌<sup>上</sup>辰<sup>上</sup>法<sup>上</sup>然<sup>上</sup>有<sup>上</sup>先<sup>上</sup>心<sup>上</sup>川<sup>上</sup>生<sup>上</sup>長<sup>上</sup>和<sup>上</sup>南<sup>上</sup>

淡窓先生二十五回忌及三十三回忌辰宗家の法會に當り翁自ら舊師の佛前に供へられしものなり



圖之園宜威



記の時當が等弟選の生先爾外林邸青際之行舉祭徳綱生先慈淡て於に會青教郡田日二十月七年二正大は圖本  
りなのもるためしせ成作てしを邸永師畫り因に憶



## 例言

### 日記 五十一卷

本書の解題は、中卷の例言に記したるを以て、之を略す。本卷には、日記七編中、醒齋日曆二十卷、進修録十四卷、再修録十二卷、甲寅新曆五卷、計五十一卷を收めたり。

### 萬善簿 十卷 (義欲考三卷、敬怠考四卷、義欲敬怠兩考併記三卷、計十卷)

先生の萬善貫行の自筆日録にして、五十四歳の天保六年乙未閏七月九日より、七十三歳の安政元年甲寅八月十九日に終る。而して最初發願の一萬善は、六十七歳の嘉永元年戊申正月二十九日を以て完了し、歲月を要する十二年七ヶ月なりしが、更に同二月朔より再修せられ、七十三歳の卷末に「○舊二千五百三十二○萬功後○捨善二千」の累計あり。記載の方法及種目は、陰曆録並に功過格等に倣ひ、黑白の二點を以て善惡を表示し、毎月末に差引計算と通計を計記し、修養の進程を手記せられたるものなり。本書は素と先生の雜錄綴、詩文稿の餘白に記録しありしを、廣瀬宗家に於て發見し、之を年次月序に整理分冊して十卷としたるものなり。蓋し萬善實修は、先生の主義信條た



る敬天思想の具體化するものにて、崇高敬虔なる人格の發露と謂ふべきなり。先生の著懷舊樓筆記(本全集上卷四六一頁參照)に曰はく「八月二日再新錄一卷脱稿セリ。初メ前月九日ニ當リ、孫女ノ疾、極メテ重シ。予退隱以來、憂戚ノ事重リ至リ、際限アルコトナシ、此ノ後如何ナルベキヤ。憂歎ノ餘リ、心ノ置クベキ所ナシ。因ツテ又祖先ノ位前ニ至リ、一筮ヲ設ケタリ。遇ニ屯ニ益ニ。曰ハク乘馬班如。泣レ血漣如。象曰。漣如在レ上。何可レ長也ト。予コ、ニオイテ以爲ラク、運數已ニ盡キタリ、祖先モ亦力ニ及ビ玉ハズ、此上ハ憂歎益ナシ、如カズ聖人朝聞夕死ノ訓ヲ奉シテ、一日ニテモ道ヲ行ハンニハト。其日ヨリ斷然トシテ自新ノ志ヲ發セリ。十二年前、四十三歳ノ時、自新錄ヲ撰ス。然レトモ其言ヲフムコト能ハズ、故ニ再ビ改勵ヲ加ヘ、其旨ヲ述ベテ、再新錄ト稱ス。筮後三日、孫女歿セリ。コレ漣如ノ象に應スルナルベシ。時ニ憂戚甚シト雖モ、本志巖然トシテ動カズ。此時ヨリ功過格ヲ立テ、日聞ノ行事ヲ記シ、一萬善ヲ成就センコトヲ誓ヒタリ云々」と。(再新錄參照)

### 書簡 九通

先生の手束にして、宗家廣瀨貞治氏の舊藏せる巨多の中より選びて之を收む。聖印に宛てたるは、先生の筑前遊學中、十六七歳頃の筆にて、長福寺の所藏に屬す。

### 關係文書 二十二通

先生に關係ある書簡中より、(一)師友(二)旭莊先生(三)横田大給兩爵の部類に分ちて、其主なるものを收む。宗家廣瀨貞治氏の舊藏せる名家手束數千通中より之を選びしものなり。

### 略系圖 一枚

廣瀨家の系圖にして、安政三年春、淡窓先生病患の爲、旭莊先生大坂より日田歸郷中、林外先生に作成せしめられ、同四月二十四日完成せるものなり。序文は旭莊先生の撰に屬す。略系圖は、其中より關係ある主要の部分を抄録し、併せて後裔遺族の現在を調査加記せるものなり。

### 家譜 二卷

天保五年甲午十月五日、父君長春菴桃秋翁易簣せられ、其喪中に於て、先生及令弟南陔棣園旭莊三先生の兄弟合撰せられたるものにて、始祖淨貞君に始まりて、五祖淨喜君に終る。先生の著懷舊樓筆記(本全集上卷四六一頁參照)に曰はく「喪中魚町宗家ニ來往シ、兄弟一室ニ會スルコト毎日ニシテ、數句ニ及ベリ。因ツテ相議シテ、家譜ヲ作ル。予主トナリテ、久兵衛、伸平、謙吉之に與參ス。高祖五郎左衛門君ヨリ始メ、先考ニ至レリ。書法、高祖ヲ稱シテ始祖トシ、高祖妣ヲ始妣トス。曾祖ヲ二祖、王父ヲ三祖、伯父ヲ四祖、先考ヲ五祖ト稱セリ。高曾等ノ稱ヲ用ヒズ。是ハ十世ノ後ニ通用シテ、其稱ヲ改ムルコト無カラシカ爲メナリ。先考歿年ニ至リテ、筆ヲ絶テリ。是ヨリ以後ハ、後人ノ續



キ成スヲ待ツノミ。委シキコトハ、其書ヲ讀ンデ知ルベシ云々」と。

### 凶禮記抄略 一卷

先生の葬儀に關する記録にして、青村先生の筆録に係れり。會葬者は、當時官府要路の高官、各藩代表、及知己門人、縁故關係者等數千人。實に日田空前の盛儀たりしを想見するに足る。

### 淡窓先生年譜 附餘錄 二卷

先生の誕生より歿年七十五歳に至る間の年代録にして、淡窓日記、懷舊樓筆記等先生の自著に據り、一生の行事、塾舎、官府、親族、師友、知人等の出來事に就いて、大要を録出したるものなり。但し歿年七十五歳は、先生手記の日曆二月までなるを以て、其以後の記事は、林外日記、旭莊先生日間瑣事備忘録、南陔日記、凶禮記等を引用せるものなり。本書は日田編纂委員の起草に屬す。餘録は、先生歿後の重要事項を記載す。編述者、年譜に同じ。

### 入門簿 九十一卷

享和元年辛酉五月朔、先生二十歳の教授開始より、明治三十年丁酉六月に至る、九十七年間に於ける入門者名簿にして、(一)淡窓先生時代(二)旭莊先生繼承時代(三)淡窓先生再出時代(四)青村先生時代(五)林外先生時代の繼承年序に分類せるもの、及び其舊塾舎に於て、宜園の規約に隨うて子弟を教育せる、濠田・菽村兩師、並に勝屋氏の外、旭莊先生出遊時代の入門簿等の全部を載録せるものなり。蓋し本書は往年廣瀨家親族間に散在せしものありしを、同宗家に於て蒐集整理し、以てその完備を見るを得たりと雖も、簿冊の亡失破損等の爲め、入門者氏名の脱せるあり。此等は調査し得べきものは、先生の日記等によりて調査し、總て本編に收めたり。本名簿に載録するもの、總計四千七百九十八人なり。此外明治十三年より同十八年に至る間、先生の高弟村上姑南氏を招き、舊塾舎に於て教授に従はしめたりしが、當時の入門簿、今全く存せざるを以て、其在學生は此計算外に屬するものとす。

### 咸宜園藏書目錄 一卷

先生の家塾開始以來の藏書にして、(一)咸宜園藏書(二)唐本類(三)梅墩莊藏書に分類し、稀有の貴重書少からず。而して宗家廣瀨貞治氏の所藏なりしを、日田郡教育會に於て、淡窓先生圖書館設立に際し、同館現用の敷地と共に、大正五年三月、同家より其使用保管のことを同館に委託せられたるものなり。本藏書は明治五年林外先生東上後、塾事を他經營者に寄託して以來、其保管の方法宜しきを得ざる等のため、多少の散逸は免れざりしも、同宗家より圖書館に委託せし部數、五千五百七十六冊に及べり。



淡窓全集下卷 目次

一日記下

五十一卷……………八五二頁

醒齋日曆

二十卷

進修錄

十四卷

再修錄

十二卷

甲寅新曆

五卷

二雜下

萬善簿

十卷……………一五〇頁

三書簡

一卷(九通)……………九頁

附錄

關係文書

一卷(二十三通)……………二一頁

家譜

二卷……………三六頁

略系圖

一枚

凶禮記(抄略)

二卷……………二九頁

目次



淡窓先生年譜附餘錄 二卷……………四八頁

入門簿 九十一卷……………一七四頁

咸宜園藏書目錄 一卷……………三〇頁

淡窓全集總目錄 一卷……………五頁



# 醒齋日曆卷一

(五十歲)

文政十四年辛卯正月元日。予年五十。住堀田村。

傳家於謙吉。稱爲隱居。自是日始。子與妻移於東家樓上。

與謙吉異。始於去歲臘月五日。而隱居之稱。則始於今日。惟自府名稱依舊。結婚以後。西家多事。妻就婦所而居。故暫同。

全家无事。晝居東園。晝齋。書齋。所。在。夜寢。南樓。就飯。

於西家。以卯時一起。改服。拜聖像。在西家。餐糕。

飲屠蘇。謁家君。與謙吉詣府。伺候殆兩

時。拜賀。府君同座。近臣數人。一如舊例。既

畢。賜屠蘇。乃去。賀諸僚屬。又詣豆田親識數

家。歸拜。歲德。諸神。與在。神位設於東園。賦詩。

試筆。慈親變鑠解溫額。更有佳兒。身得閑。預識今年康且健。案頭著述積如山。讀天保

詩。遍詣諸塾及村中而賀。是日天氣清明。是日

府君命兩童子。入謙吉門。入門者。皆以謙吉。夜良爲師。始於是日。

策。輒以酒饗。謙吉與焉。

二日 陪家君及中村撫牛。詣府而賀。府君延

見。賜酒於前。升屋十次亦會至。既退。詣增田

氏。其岳母相見。時良作行役。供酒及鮓。及未時而

歸。

三日 起周易講。二日初講。謙吉行之。午時赴魚町節。同座

家君。丸屋與次兵衛。袋屋丑六。濱田屋喜右衛門。

叔父。魚屋長八。直太郎。丸屋久三郎。予妻。謙吉

及婦。久兵衛。伸平。

四日 合原幸六母死。年七十。夜往弔。

五日 與謙吉率門人詣府賀。凡四十七人。

府君受賀。畢。賜屠蘇。一如舊例。又別延見予。



夜送合原氏葬。到長福寺。幸六子身家族。其母童幼。所識。不能無關心。

六日

八日 家君之魚町有微恙焉。往視。陪酌。府君所賜酒。

八日 製御神輿山碑。府君命詣府因服部權六。請命。既還。府君有命召焉。再往觀着官服。賜酒及飯。同座。家君中村撫牛。諫山安民。服部權六爲主。

九日 同德冷。大榮詣府而謝。府君賜河漏麵於塾僧。故二僧往。見橋本亘。夜魚町以鉄之介與女吉結婚。全家皆往。二更後成禮。座客。家君。叔父。久三郎。魚屋長八。及妻。予妻。仲平及妻。謙吉及妻。飲至五更而散。

十日 謁龍馬森及大原山神祠。勳平。良策改稱轍從行。又上塚。轍。明壽從行。

山上有神祠。憩焉。喫飯及酒。及申而達家。

十八日 孟子開講。勇哲告別。詣官府賀。增田松尾二子奉使而歸。伊勢代參且謝賜物。見橋本亘。門司軍吾來訪。之魚町議田代事。荒木衛兵衛使軍吾來欲理也。議畢。供飯。同座。軍吾。丸屋久三郎。久兵衛。仲平。夜軍吾來別。

十九日 勳平還鄉。妹疾。寂忍爲侍者。代勳平也。於侍者三人。妙壽流。寂忍。

二十一日 石橋平藏來訪。之官府。詣服部。山本中村三子。謝其贈物。服部饋予山本。中村皆賀婚也。

二十二日 肥前加島醫生下河邊順益入門。來見。平藏所介二十三 筑後靈鷲寺住持義元來訪。與弟子及僕留宿。話自辰至戌。

廿四日 朝飯畢。義元辭去。敬吾告別。

廿五日 石橋平藏告別。

十一日

十二日 夜復與西家異爨。取飯於塾。如舊。

十三日 謙吉再觴門客於東新塾。放學。

十四日 移植楨樹。楨樹枯故

十五日 始聞改文政十四年。爲天保二年。改元蓋在去冬。今始聞之。天下大事。浪々若此。咄々怪事。詣府而賀。見橋本亘。再陪家君及中村撫牛而往。府君延見。是日服部權六猷膳於府君。以家君撫牛及予佐食。供備豐厚。入夜而歸。

十六日 詣府而謝。見橋本亘。遂詣服部氏。兒玉直次郎入門。入謙吉門也。以下敘此。來謁。松菴以疾還鄉。

十七日 梅策幸祐改稱告別。塾生還鄉。不必書。若久矣。遠別。有關情者則書。周易講卒業。已時與謙吉。欽哉。轍。春棣。俊亮。散步。過新原。訪兒玉茂。供酒。小酌而去。遂至三郎丸遊屋限。此俗所與永山龜山。稱爲三隈也。

廿六日 雪。改月旦評。明壽加四級上。寂忍。鳳兮。藤太加四級下。仙菴加三級上。掌珠加三級下。要作。春棣加二級上。大寂。淳加二級下。泰助。俊亮。和一郎。自客席。轉而加半級。加一級上。研之助。順二。加一級下。順益。虎之助。姓石松。予舊門人。府君以三元日改命。爲謙吉。流輔。姓財津。亦元日入門者。直次郎。富白。三松氏。順次弟。入席。虎之助。梁平。勇。松次郎。重八。彥太郎。榮八除名。凡一百四十七人。現在塾生四十六人。外來十九人。

廿七日 與謙吉遊高木豐水宅。寬次郎從行。供酒及蕎麥。足立文哉。釋門惠同座。及暮而歸。

廿八日 麻生伊織來訪。流雲罷侍者。藤太代之之。

廿九日 陪家君之魚町。會伯考祭。同座大超寺僧。叔父。麻生伊織。久兵衛。

二月朔 陪家君及中村撫牛。詣府而賀。府君



延見。賜酒及飯。服部權六。增田良作同座。

十日 妻疾愈。夜反雇婢。予歸臥樓上。

畫猶居東塾。

二日 詣府而謝。府尹延見。使作佩刀銘。賜酒及饅。

十一日 (初午)

三日 友吉還鄉。

十二日

四日 明壽還鄉。於是侍者寂。忍藤太二人。是日遊馬鞍山。名稱再考。

十三日 觀兩頭牛子。死而藏之者。形似鹿。或曰鹿與牛交所生。是日過暖如四五月候。夜暴雨雨徹曉。

伸平。謙吉。及門生行者三十餘人。辰而發。已而達。路蓋一里有半。道不甚險。風景快暢可賞。發行厨於神祠。祀八幡大神。日入而歸家。是日放學。

十四日 健作爲侍者。於是寂忍。藤太。健作三人。是日暖如昨。夜暴雷。春雷暴烈如是。故老所未親記。可謂天變。

五日 豐前內河野里正。佐田永三郎來見。爲右衛門子也。

十五日 以疾未全愈。不出賀。

六日 先是胸鬱頭重。又有微熱。是日稍甚。服藥。依屋。移出住東塾。樓上多烟故也。夜遂與妻留宿。

十六日 德令還鄉。叔父來訪。供飯。去冬。飲肥侯臣某某。掠他邦童男女十五人。載諸舟而歸。舟泊富岡。爲吏人所得。聞諸我官府。官府奏於東都。東都有命。生口到日田而上於大坂。遠近稱爲奇聞。叔父欲記其事。寄諸遠人。故就予謀之。以事不前記。故錄於此。爾。

七日 在東塾。休孟子講。疾如故。

十七日 玉井元純來訪。始梳髮。

八日 疾如故。服相卿藥。妻亦有疾。是夜歸臥樓上。

十八日 妻復有疾。服相卿藥。始剪鬚。夜微惡寒。漏口生硬。夜以下廿九日追記。

九日 起孟子講。

十九日 漏口腫痛。廢孟子講。兼用膏藥。俊煎藥。

卿相

二十日 疾勢益加。小便後痛甚。

三迪加一級下。清太郎。山真之進。福田。二子皆再級下。直之進二級下。皆復原席。良遂。田大悟。釋正純。釋寬什。伊文。釋伊八郎。西仙吾。藤琢磨。居三郎治。佐々會林。牧野。○十子皆新來者。予或見或未見。見。以在病中不能記於當日。入席。祐月。知元。堅住。善市。卯三郎。虎作。中將。大惠。典膳。鉄山。伊十郎。實言除名。凡一百四十七人。現在塾生六十一人。外來二十六人。

二十一日 疾勢益加。夜腫物潰。

二十二日 楚痛稍減。而頭痛胸鬱諸症未退。魚町作。先妣祭。不行。饋膳。

二十三日 疾勢稍減。

晦日 夜豐前香春人□□元彰來見。二十年前。嘗寄書贖於予者。以其狂妄不報。今乃過訪。供鮑及酒。談移時而去。

二十四日 未時忽發惡寒。服藥取汗。夜半發汗而苦胸惡。呻吟輾轉。至曉微睡。是五年來症也。今因腫物發云。

二月朔 以疾不出賀。元彰過謝。川西伊八郎。龜井道碩來謁。

二十五日 疾勢既退。而頭痛惡心未愈。雇婢。阿雪。

二日 聞釋靈祥及其母死。使藤太往弔。祥雲。靈祥亦予門人。發狂有年。至此而死。

二十六日 諸症益減。伸平來。供飯。

三日 以疾不出賀。門生數輩迎飲於遠思樓。家人亦與焉。先是疾勢殆息。至此復振。尿管腫痛。胸惡不食。

二十七日 疾益愈。步到淡函。伸平來。供飯。

四日 家君之石松。留宿松林菴。予與妻移座於

二十八日 伸平來。供飯。雇婢止於是日。凡四日。

二十九日 改月旦評。以疾遲留也。藤太改四級上。眞道加四級下。元治加三級上。春棟加三級下。文亮。壽八郎加二級上。泰助。俊亮。和一郎加二級下。辨之助。祐菴。爲吉加一級上。龍信。角藏。

級下。辨之助。祐菴。爲吉加一級上。龍信。角藏。



樓下。二婢皆從一家君往。

五日 德令歸塾。泉善三郎來訪。留塾。

六日 使下謙吉。德令之石松。候。家君起居。

七日 家君自石松歸。夜歸臥樓上。疾勢稍衰。

筑後醫生福井元益入門。來謁。

八日 加峯礮梁過訪。爲予診疾。謙吉饗礮梁。予

往陪客。

九日 麻生伊織過訪。來于魚町。行父祭也。

十日 彌六自豐前至。應官府召也。島原醫生寺

田壽貞入門。來謁。筑前醫生松藤玄泰入門。來謁。

始聞前田玄圭死。玄圭初稱志磨。予遊筑時。同僚生也。少於予一歲。以今春死。壽四十九云。玄泰從之遊。故得聞之。不堪悵然。

云。玄泰從之遊。故得聞之。不堪悵然。

十一日 相良文之進夫妻。歿後二十三年忌辰。妻忌辰九

月八日。今合祭也。富彌爲主。行祭於魚町。予以疾不

會。使妻往助事。饋膳。文之進妻予從姉。夫妻同年。皆以疫死。予十八才時也。光陰倏忽。回頭不堪懷舊之感。且思清記不在。更爲沾裳云。

回頭不堪懷舊之感。且思清記不在。更爲沾裳云。

郎。鉄之助改稱及諸婦諸孫。秋好巨來訪。供飯。

二十日 夜始設蚊帳。

二十一日 之魚町。宇佐人□□勝六入門。來謁。

居城内嘉藤治家。伊織來別。研之介母來訪。

二十二日 筑後人溝田榮叔入門居塾。來謁。

二十三日 敬吾入塾。

二十四日

二十五日 午時與謙吉。舜藏。宗之助。寬次郎。郊

行。訪森伊左衛門。及成策。遂引成策。渡江至穴

平。發行厨。山上。歸路過越原而歸。二所佛

菴。皆零落頽殘。使人悵然。申時到家。浴。入春初浴

純吾。鵬作歸塾。

二十六日 改月且評。加膳加五級上。謙三加五

級下。秀嚴。春棟加三級上。大榮。實幢加三級

下。世珉。宗之助。和一郎加二級上。善調。辨之

助。祐葦。爲吉加二級下。茂知藏。順次。研之助

十二日 攝州僧實道入門。

十三日

十四日 虎之助爲馬所齧。謙吉送還官府。移坐

醒齋。辰五郎過訪。有眼疾之須惠也。周防醫生角禎伯

入門。來謁。

十五日 以疾不出賀。健明來。居下道

十六日 相卿之藝州。萬齡。三迪還鄉。純吾之豐

前。晚招伊織。彌六。伸平。供飯。謙吉亦陪焉。

十七日 勳平還鄉。蒲池久市來訪。供酒及飯。夜

御堂方泰來候。家君相見。

十八日 開蘇文鈔講。健明告別。大歸也。健明入門至是九年。位次至五級上。爲人疎直。非俗士。予有所取。佐野宏母來訪。魚屋長八

行。其父母祭。父三十三年忌。母七年忌。母子祖考之長女。招予及妻。予

以疾不往。使妻往焉。贈膳於予。

十九日 魚町有合釀饗。家君之議。予與妻皆

往焉。同座。久兵衛。伊織。伸平。彌六。謙吉。五三

加二級上。順益。文秀。諦信。琢磨加二級下。十

三郎轉本席。善三郎。壽貞。玄泰。道碩。玄益。榮

叔。實道。禎白。勝六。淨薰入席。健明。欽哉。德成。

觀道。梅策。瀧江除名。凡一百五十一人。現在塾生

六十三人。外來二十六人。病後始詣官府。見橋

本亘。

二十七日 加登屋幸六來訪。釋義端。堅住改稱來請再

受業。留塾。介同鄉僧入門。亦居塾。

二十八日 村尾市次郎。勝田藤三郎過訪。彌六來

別。藤井深齋來。請再受業。留塾。島原醫生□

□□□入門。居塾。

二十九日 招幸六饗之。予與大人。謙吉爲

主。伸平陪客。漏口復痛。

四月朔 以疾不出賀。府君賜食於門生。會城

內永興寺。蓋八十餘人。伸平。謙吉等監其事。放

學。痛處益甚。



二日 腫痛益甚。招諫山安民。調湯藥。外治既託加藤俊民。

三日 痛甚。久留米士人佐田脩平過訪。句讀師夜多蚤。且加疾痛。失寐。自三日。至二十四日。皆十五日追記。

四日 腫潰。疾痛頗減。

五日 媳婦歸寧親。

六日 七日 八日

九日 數日來。疾痛未全除。或伏枕。或散步。而不能久坐。以其當日不記事。故事多遺失。

十日 行德富文過訪。秀藏改稱。供酒。

十一日 誕辰。先是門人相議。欲設賀宴。予辭之。及是贈詩及酒肉價。相率賀於東塾。予饗家君及謙吉。饗會不言處者。皆於長春寮也。贈酒於門人。往謁龍馬森 神祠。午時德令饗予於東塾。家君妻。謙吉與焉。

十二日 媳婦歸來。謙吉饗予及家君。妻。德令。十三日 美濃女僧二人來。請受業。居廣圓寺。十四日 佐田脩平再過訪。留於東家。三松元達

二十六日 和田一平來訪。請再受業。二十七日 二十八日 改月旦評。龍甫加五級上。了性。寂忍。鳳兮加四級上。逸記加三級上。謙作加三級下。直之進加二級上。多門。順益。文秀。琢磨加二級上。寬次郎。善三郎。三吉郎加一級下。辰五郎。自須惠。歸止塾。再深齋。原席加法林。辨藏。隆元。受業。加四級下。一級上。法林。辨藏。隆元。吉次郎。普觀。觀山。法岩。孝治。季松。直記。大音。

十一子皆新入門者。予或見之。或未見。入席。磯八。寬吉。自笑。愛法。觀海。惠白。代八郎。壽齋。壽山。敬策除名。凡一百五十四人。現在塾生六十三人。外來生凡三十五人。和田一平。及二尼。不在。夜家難作。官府之難二十九日 閉門不出。廢講誦。久兵衛。伸平。來訪議事。託丸屋幸右衛門。詣府陳謝。夜久兵衛與幸右衛門來訪。

五月朔 染風邪。

祭其先考。見招。以疾不往。使謙吉代往。小在七月。促之也。

十五日 脩平歸國。以疾不出賀。始著單衣。

十六日 起孟子講。夜放螢於庭上。

十七日 增田良策妻死。使謙吉往弔。勳平臥疾於魚町。使謙作往問。晚飯小酌。服安民藥。服安民藥。至是十六日。蓋四十貼餘。止於是日。松本來藏遊肥薩而歸。過訪留宿。松本以下廿八日追記。

十八日 漏口復痛。

十九日 疾進。再服安民藥。服安民藥。至五月十一日之後。蓋六十貼餘。

二十日 疾益進。松本來藏辭去。將之四國。

二十一日 以疾故禱神。

二十二日 廢孟子講。以疾進也。

二十三日 疾甚。終日不降樓。

二十四日 漏口膿潰。疾得半愈。

二十五日 膿汁猶出。始服山歸來。

二日 疾益加。

三日 疾益加。

四日 久兵衛來。以難解告。夜輿疾入府。詣增田。服部。長谷部三子而謝。先是。府君命使。上每月職。亦使上之。茂知藏本句讀師。位在第三階。今為使令。位在第五。而三吉郎以句讀師。進在第三。府君以為。无功而進。无罪而黜。意有私焉。乃盡呼三反府中來學者。於是予父子皆閉門自責。託幸右衛門。介增田氏而謝。府君意未解。然恐傷大人意。勉強寬容。使會端午。而予有疾。不得會。私請三子謝。且告不。會明日之故。良策相見。服部有疾。長谷部外出。皆歸路詣丸屋幸右衛門而謝。外出不遇。

五日 以疾不出賀。謙吉詣府賀如例。六日 講業復舊。唯予以有疾。不起孟子講。七日 八日 九日 龍甫。舜藏。敬吾。春平。多門。辨藏。以犯約黜位次。各黜半級。十日 吉田龜太郎來見。勸之允子也。十一日 從妹知惠。嫁筑前古賀醫師□□俊作。子舊門人使妻往送之。

四六七



十二日 招久兵衛。仲平。俵屋安兵衛。議秀嚴事。

先是純吾亡。物。塾生相議。斷罪於秀嚴。秀嚴不服。欲鳴之於官。故議。 午後使秀嚴與

德令真導對訟。仲平。安兵衛聽之。

十三日 久兵衛。仲平來。再議昨日事。

十四日 放秀嚴。辭屈故也。仲平來議黨人事。秀嚴事平。

十五日 詣府而賀。見宇市。三月二十六日詣府。其後始詣也。歸路過丸屋。二酢屋。袋屋。叔父。是日茂知藏入塾。前日得罪。塾生自府來者皆去。數日前。三吉郎。十三郎入塾。至是茂知藏亦至。府君有命也。

十六日 十七日

十八日 起孟子講。夜俊良頓疾。至塾看視。積氣上衝

十九日 俊良疾稍愈。移於中村氏。

廿日 予始監外塾事。諸生在外塾者日多。恐綱紀潰亂。改修規約。予始行監事。

廿一日 制外塾名。曰甲舍。長兵衛家 乙舍。五郎兵衛家 丙舍。下道政次郎家 立三監。清太郎甲舍監。龍甫直之進。琢磨。良途。三郎次。壽貞。屬焉。敬吾爲乙舍監。多門。辨藏。直記。犀之助。屬焉。舜藏爲丙舍監。純吾。勇哲。寬亮。寬次郎。屬焉。凡十七人。 作課程

懷道除名。谷三轉。客席。辨藏復原席。赦凡一百五十四人。現在塾生凡五十八人。外來凡三十四人。

一平。二尼。午後痛甚。夜中呻吟反側。及曉而潰。腫急而潰速。未有何故。此者不審何故。

廿七日 以腫物既潰。起居任意。但溺時尙痛。是日。放學。謙吉建議以每月廿七日爲休日。

廿八日 疾益愈。休孟子講。

廿九日 起孟子講。仲平來話。供飯。

六月朔 以疾不出賀。久留米人高松澤次入門。來謁。久兵衛設解厄賀宴。相招。使妻代往。

二日 起蘇文講。開遠思樓詩集講。爲寬亮也。壽貞歸塾。聞石井。一左衛門死。發弔和一郎書。一左衛門。初稱彌六郎。予聞其名。四十年。會面三度。母家與之親善。家君亦近年與之往復。謙吉妻母。乃其姪女也。

三日 藝州僧道宣入門。來謁。

四日 官命祈晴於大原 神祠。塾生亦有往者。淫霖害新苗。又不能種黃梁。連歲不稔。穀價騰貴。而今歲已有凶徵。兆民嗟懼。於是爲切。如近歲。所謂恒雨若者歟。

錄。使監司之。

廿二日 多門之田代。

廿三日

廿四日 起蘇文講。同久兵衛陪家君。觀插秧於醒齋。

廿五日 與妻朝飯於西家。謙吉請之也。追祝又觀。插秧於醒齋。引田水。灌之於石泓。去年鑿池。未嘗有淪漣之狀。昨今兩日。晴陰萬變。田水映籬。秧歌四聞。新居之景。於是美。漏口發痛。

廿六日 漏口益痛。廢蘇文講。改月旦評。清太郎加五級上。鵬策加四級上。春丁加四級下。與五郎加三級上。榮。惠海。直之進加三級下。貞丸。大寂。淳加二級上。深齋。茂知三。研之助。順益。文秀。琢磨加二級下。善三郎。龍信。圓備加一級上。良途。玄了。正純加一級下。仲吉。犀之助。難量。轍平入席。四子新入門。難量。秀嚴。俊平。道樹。轍平。予未見之。

五日 孟子卒業。正月十八日開業。至是百三十餘日。中間因病休業者數矣。故遲緩至此。 午後食鬱胸滿。廢遠思樓集講。夜飄風。

六日 疾如昨。服隆元藥。莊子開講。廢蘇文講。吉田龜之助入門。

七日 天氣快晴。晴雨不書。今書記喜也。憂農之志。誰敢忘哉。 發答岡研介。川田健明書。託鍋屋。

八日 雨。瀉下二行。四肢困悶。服瀉藥。故也。 兒玉茂來話。供飯。

九日 疾如昨。長門人和田順藏入門。來謁。得船越宇吉書。載四月六日。且三日並出之事。先是渡邊宗三郎書亦載其事。蓋見者多也。

十日 疾如昨。純吾歸鄉。

十一日 疾如昨。

十二日 以疾不愈。招諫山安民診視。服其藥。

十三日 疾如昨。



十四日 疾小愈。

十五日 魚町以祇園祭招。全家皆往。予以疾留

守。暴雨。岳林寺長老避雨來投。移時辭去。聞下

家君在魚町。有恙。夜往看視。食鬱之症也。家

君留魚町。

十六日 朝之魚町。候。家君安否。午時再往。至

夕而歸。三飯皆於魚町。菴南垣自倒。以垣下鑿溝。基本久

傾。加以風雨。故倒。

十七日 之魚町。候。家君。蓋小愈云。兩飯而歸。

媳婦歸寧。

十八日 之魚町。候。家君。益愈。一飯而歸。

十九日 家君自魚町。歸。尾張僧惠教入門。來謁。

惠秀弟也。夜腹微痛。瀉下。

二十日 暑甚。夜臥唯著一單衣。已三十年來。未以此事。以樓上過熱也。

二十一日 五郎兵衛母死。往弔。遂弔與兵衛。平作

死故也。

五郎兵衛母。童胤所熟。平作。塗西家及東園者。

次郎。直太郎。淨嚴除名。凡一百五十五人。現在塾

生五十七人。一平。在中。外來三十五人。總之助。在中。媳婦

自歸寧至。

二十七日 有事之官府。見服部權六。府君命書寫之事於塾生。

成功。上之。

二十二日 詣府。候。暑中起居也。見近臣某。遂

遍到諸僚屬。服安民藥。止於是日。

二十三日 夜移臥於東塾。以樓上大熱也。

二十四日 德令以兄疾還鄉。復服安民藥。

二十五日 初獄囚有夜遁者。命諸方追捕。仲平

亦奉命西行。同行之人。獲之於肥前平戶。是日

護囚而歸。獄囚也。罪蓋不至死。以遁重罪。可嘆也。仲平與府下官行。分路而進。獲之於平

戶者。下官也。仲平時在長崎云。夜陪家君之魚町。夜復歸臥

於樓上。以東塾多蚤。且喧鬧也。清太郎入塾。

任塾長。代德令也。關係之大者。故書。

二十六日 改月旦評。謙三加五級上。元治加四

級下。文山。掌珠加三級上。寬吾。文亮。加三級

下。泰助。俊亮。深齋。琢磨加二級上。順次。善三

郎加二級下。玄了。三吉郎。義端。再入而加半級。加一

級上。玄益。亘。辨藏加一級下。龍甫復原等。勳

平轉客席。義端。見友三郎。惠教。順藏入席。敬

二十八日 使賃僕利吉。之日出。齋食。

二十九日 夜。素山。摘山。畫師來見。皆奧人也。

晦日 心下水氣停滿。入夜小愈。丸屋久三郎妾。

其實妻也。故紀。齋止於是日。

醒齋日曆卷一終



醒齋日曆卷二

七月朔 以春來多疾。志意荒廢。更務自新克己

修勵。以祈天助。是日陪家君及中村撫牛。詣

府而賀。府君延見。同賜酒食。移時而退。利

吉自日出歸。

二日 詣府而謝。見近臣。

三日 清太郎歸甲舍。加膳爲塾長。

四日

五日 高祖考忌辰。魚町有祭。與家君。謙吉。往

焉。同座。大超寺二僧。住持大典有淫行。檀越廢之。今住持自筑前來者。此日始相見。

用松瀨兵衛。叔父。久兵衛。仲平。午後暴雷。蓋震

於豆田市中者數所。予輩所未嘗觀也。羽州行

脚。眠山來宿。相見。

六日 向曉發惡寒症。有渴。既而發熱。終日昏昧。

目不得開。又不得坐。夜間稍愈。一食。德令入

塾。

七日 熱氣全除。而胸腹苦滿。四肢困怠。以疾不

出賀。德令爲塾長。加膳轉講習監。即東塾監夜見

白虹。口占一詩。平生未見白虹蜺。夜半東山現

長梯。雲耶非雲。霧非霧。荆軻傳中認不迷。此

時亂荷鳴急雨。殘月半輪古松西。

八日 九日 十日

十一日 中村撫牛死。年六十七。陪家君往弔。

撫牛家君之執。妻之姑丈也。初稱善右衛門。後改平大夫。撫牛其俳號也。爲豆田町年寄。予自幼所熟。數日前來訪。家君病。一日一夜而終。嗚呼故老凋零殆盡矣。 潤藏告別 府君施在塾僧徒



十六人金。爲誦經於堂。

十二日 雷雨。使與五郎代往。送中村氏葬。府

君賜塾生麵。夜兩市醫生會讀痧脹玉衡於東塾。

有府命故。也。異事故記。 服安民藥。止於是日。

十三日 會祖考忌辰。會祭魚町。陪家君往。同

座。大超寺二僧。叔父久兵衛。仲平。謙吉。

十四日 與謙吉之魚町。遂與久兵衛諸人上

塚。歸路詣親識數家及村中。

十五日 詣府賀。見中村三郎。是日朝旭及新月。

皆無光輝。日淡黃月淡白。皆无影。蓋空氣蒙籠故也。蓋連日多然。是日无雲霧。故知。

十六日 訪仲平。午飯焉。同座。家君。久兵衛。仲

平。夜月蝕。

十七日 慈等法尼忌辰。供養二尼。

十八日 十九日

二十日 盆終於是日。連日市中絃歌。寂寥如常

日。府君惡之故也。

二十一日 逸記還鄉。

二十二日 宗之助來別。蓋大歸也

二十三日 自去臘退隱後。取飯於塾。事記於前。至是

使妻炊焉。仲平以爲不可。故也。 雷雨。

二十四日 家君之財津及石松。妻隨行。是日陳石

於塙中。逸記來。

二十五日 夜將寢。阿皆得疾。玉田淵來過。近鷄

鳴。即寢。

二十六日 改月旦評。清太郎加六級下。逸記加

四級下。猶之進加三級上。廉吾。深齋。琢磨加三

級下。文秀加二級上。玄了加二級下。正純。寬次

郎。辨三加一級上。吉次郎。三郎次。犀之助加一

級下。正海除名。凡一百五十四人。現在塾生五十

五人。外來生二十七人。二尼在。中 再考補入。龜太郎

凡一百五十五人。暮之魚町。迎家君。歸阿皆

與疾歸。田町。三更後。起至醒齋。俟月。得

以之府不會。饋肴。是日再陳石於庭。兩度皆德令任

四日 田代高橋萬雄入塾。來見。往年在。田代。入門者。 敬五去

之熊本。學醫。使謙吉代詣府謝。

五日 開論語講。以五十爲期。爲鉄之助及隈

町諸人。也。聽衆。鉄之助。日隈楯八。森彦作。□□

松次郎。重八。

六日 東塾詩會。前是有約。輪次爲主。无供宴事。 會者。森成作。兒

玉茂。釋門惠。玄海。惠禪。松本龍山。榮。蒲池久

市。塾生數輩。得一律。中秋調大原神祠。秋風獵々動。高旗。士女爭參古帝祠。本爲祈

年修故事。却因迎月得新詩。衣香飄野蝶將認。人影過橋魚亦知。鼓笛嘔吾倦矣。水輪早在老松枝。

七日 之魚町。申時。謁大原神祠。謙吉及門生往

者五十餘人。行三百拜。家難興時禱神。是日罷

監外塾事。

八日

九日 肥前入古賀大一郎。穀堂子 筑後人本庄恕吉。

律。假寐誰呼起。秋聲入曲敗。夜山低似剝。冷月細難升。愛。露降。風。露。愁。冥。點。石。燈。一。星。峰。頂。火。應。是。坐。禪。僧。 既而謙吉。德令。加膳。謙三。仙荈至。有酒肴茶飯

之供。是夜陰霾無月。及曉而散。

二十七日

二十八日 腹中不和。瀉下一行。以夜深飲食也。

二十九日 逸記還鄉。

八月朔 與謙吉詣府而賀。以時刻尙早。逍遙

永山。因失禮。謁期不見。府君。與安民。元達。凡四人。子於府

中未嘗有斯怠忽不敬。今乃若此。豈纔老而耄耶。嗚乎不可不戒。 二日 代家君詣府而謝。昨賜 府君延見。

賜酒及飯於前。服部權六。增田良作同座。是日。

爲渡邊子儉七回忌辰。供小祭。謙吉。德令。勳平。冷

秋。亦同時沒。然以冠笄。不在此。故不相關。 聞濱田屋新吉死於江戶。使

謙吉往弔其家。彼家蓋十餘子。今餘其三。耳。何天之不悔禍耶。

三日 再詣府謝。府君延見。賜酒及飯。服部。增田

二子同座。勳平設慶宴。自慶病痊也。 於魚町見招。



弟一郎 來見。

十日 清島藤右衛門忌辰。家君祭於魚町。予隨

行。同座。岳林寺長老。玄誦。京屋和右衛門。及其

母。久兵衛。清島子。掛妻。附尹時元占。家君少受其恩。申

時暴雷。

十一日 巳時會。城內觀音閣。謙吉。德令。加膳。森

成策。釋門惠。惠禪。玄海。松本龍山。榮。蒲池久

市。咏。秋蟬。得一絕。西風昨夜綠陰衰。庭上鳴蟬響更

占最。發。行厨。予與德令。先歸。途中雷雨。憩。城

內人家。又憩。魚町。乃歸。是日雷雨數作。入。夜不

止。

十二日 阿皆病愈而歸。

十三日 大原 神輿行幸如例。往拜於路。

十四日

十五日 詣府賀。見中村三郎。詣龍馬森。拜

神輿。夜與謙吉。德令。謙藏。元次。與五郎。賞。月

十九日 始食。餘熱尚在。時々自汗。胸鬱食无味。

廢。莊子講。村尾市次郎來訪相見。雇婢。予發此

三回。此番尤重。慎哉。防之如何。在節。飲食。

二十日 口中腫痛。餘熱不除。雇婢止於是日。

二十一日 疾如昨。

二十二日 服春安藥。止於是日。春安藥蓋

二十三日 白杵人佐藤多々壽來見。

二十四日 起。莊子講。新原有詩會。不往。

二十五日

二十六日 改。月旦評。加膳加。六級下。了性加。五

級下。元次加。四級上。與五郎加。四級下。勇哲。廉

五。深齋加。三級上。淳加。三級下。善調。弁之助。

爲吉加。二級上。龍信。圓備。三吉郎。義端。寬次郎。

辨。三加。二級下。玄益。吉次郎加。一級上。隆元。榮

叔。玄泰加。一級下。舜。三復。原席。救。要人。謙作兄。

請。再。受。業。 法山。三池。僧。 本立。嶺賢。參河兩。僧之一。萬雄入席。

小酌。是夜陰而不雨。時見月光。是日爲玉來

作。鶴贊。憑。凌明月。駕。丹霞。碧海青霄是我家。是日聞。

僧。一圭死。一圭。十五年前。來入我門。爾後去而又來者數

永訣也。是僧頗非凡品。予作送序。與益多。研介。並稱。近來稍

振。名於東都。惜哉。蓋年三十四五也。朝川善菴與之善。受其遺

託。赴於龜先生。先生報予云。

十六日 祖考忌辰。會祭魚町。同座。大超寺維僧。

叔父。伸平。謙吉。鉄之助。家君先食。故不。同座。 因修家譜年

表。午飯畢而歸。是日闕。莊子講。是日身上有熱。

十七日 肥後僧本立入門。來謁。先是長兵衛姉死。

至。是往弔。壽八十三。予幼鞠於伯父時。知之尤熟。村中一老也。 參河兩

僧入門。來謁。

十八日 巳時發。惡寒症。既而發熱。譫語。心下苦

甚。欲吐不吐。昏冥不辨。晝夜。入夜發汗睡眠

而解。招。諫山安民。不至。春安代來。謙吉夫婦。

塾生數輩看視。

相卿。敬吾。淨風。糺。知市。矢庭除名。凡一

百五十四人。現在塾生凡六十人。外來凡三十二

人。二尼。釋雲崖過訪。

二十七日 巳時與謙吉散步。德令。勳平。寂忍。

寶幢隨行。到。渡里。訪。松本龍山。釋玄海。惠禪。

登。吹上觀音閣。三子携茶菓來贈。發行厨焉。

未時下。山。過。新原。訪。兒玉氏而歸。夜釋雲崖

來話小酌。

二十八日 筑前人。口。玄丈。薩人。口。市之助入門。來

謁。

二十九日 合原氏饗。塾生於外。因遊。南山。謙吉

率。塾生三十餘人。而從行。伸平。森成策與焉。渡。

隈川。過。釜淵。訪。鬼城。憩。金毘羅祠。丑六來。

發行厨。既而雨。予與伸平。大榮。淳。先歸。金毘

羅祠所。未嘗詣。比於鬼城。更爲清寂。唯恨地

面狹耳。晚飯供伸平。



晦日 原元迪携弟直次來入門。與居塾。

九月朔 詣府賀。見菊池三郎。

二日

三日 與家君。謙吉。招德令。饗之。餞其大歸也。

四日

五日 長善寺集。會者謙吉。勳平。加膳。玄海。惠禪。

門惠。蒲池久市。松本龍山。榮。得高字。得一律。

孤雀呼。群鳴。九草。思人聊此。蓬蒿。野舍。冬色。霜初殺。樹帶。秋聲。風未。塵。才子明朝。推。七。後。詩僧。唐代。屬。三。高。老來自。愧無佳句。朱墨。敢辭。評。日。勞。是。日。會者。七人。僧。居。其。三。故。云。

六日 舜藏歸鄉。大歸也。席至五級下。其人頗有才。具。唯以遊蕩為累耳。

七日

八日 休莊子講。督茂知藏。三吉郎句讀。將應府。試。故也。

九日 與謙吉詣府賀。府君受賀如例。同座。

諫山安民。三松元達。遂赴才田會。蒲池氏。會者。釋玄海。惠禪。門惠。森成策。兒玉茂。松本龍

山。榮。賦得甘藷。不。發。行。厨。山。上。神。祠。日。入。達。家。

十日 休莊子講。督茂知藏。三吉郎句讀。

十一日 饗家君於魚町。與久兵衛。麻生氏妹。以前。仲平。彌六。數日。謙吉。合。釀。為。主。是。日。府。君。呼。塾。生。四。十。餘。人。觀。角。抵。戲。且。使。服。部。增。田。二。子。享。之。於。家。津。輕。醫。生。入。門。來。謁。

十二日 與謙吉詣府謝。見近臣。遂詣服部。增田二氏。

十三日 與謙吉。德令。赴松本龍山家會。會者。釋玄海。惠禪。門惠。蒲池久市。得七律一首。朝。閱。暮。味。詩。君。家。風。趣。幾。人。知。占。閑。要在。无。閑。處。養。老。須。從。未。老。時。殘。菊。香。浮。新。雨。徑。疎。砧。聲。隔。夕。陽。鐘。村。居。景。物。長。堪。愛。白。首。逢。迎。與。我。期。

十四日 鵬策之肥後。大歸也。席至四級上。自以家貧。決。意。去。家。云。動。平。之。筑。後。學。醫。於。中。垣。氏。也。

二十二日 詣府而謝。見中村三郎。

二十三日 移小石於池。田水盡而池乾。故移石實之。

二十四日 移南天燭二株於庭。

二十五日 改造石燈中心。供晚飯於德令。

二十六日 改月旦評。龍甫加六級下。藤太加五級下。春丁加四級上。掌珠。直之進。廉吾。深齋。加四級下。大寂。泰助加三級下。寬次郎。辨三。加三級上。吉次郎加二級下。三郎次。隆元加一級上。壽貞。法林。仙悟加一級下。元迪。加四。玄。丈。市。之。助。直。次。順。素。入。席。舜。三。寥。然。鵬。策。龍。音。萬。英。禎。助。龍。珉。春。育。宗。之。助。理。常。除。名。凡。一。百。四。十。九。人。現。在。塾。生。五。十。五。人。外。來。生。二。十。二。人。在。中。夜。謙。吉。自。筑。前。歸。市。平。加。膳。隨。來。先。是。數。日。聞。岡。茂。死。是。日。使。寬。次。郎。弔。又。聞。僧。海。藏。死。茂。所。謂。小。有。才。而。未。聞。道。者。也。終。不。能。致。遠。惜。哉。海。藏。釋。氏。之。後。近。拔。為。茶。主。聲。價。日。重。有。成。之。器。也。尤。可。惜。

十七日 媳婦歸寧。久兵衛得鶴饗。家君。子與。叔父。仲平。與焉。

十八日 改編遠思樓詩集。德令與焉。

十九日

二十日 秋月醫生江藤順素入門。居塾。順素。琢磨。同族也。始聞琢磨以去年死。門人物故者。相繼。哀哉。為吉。

隆元歸塾。彌六携辰之丞來相見。

二十一日 詣府。先是命畫贊。至是而成。先呈以稿。得命書。諸水岸寺。府君延見。

賜酒飯及朝鮮紬一匹。



二十七日 彌六與太嚶。幸六。麻生三藏過訪。

二十八日 德令還鄉。大歸也。德令自入門來十年。位次至六級上。職至塾長。其歸也。內自家君。予夫妻。久兵衛。謙吉。外及府君。諸屬吏。多有贈遺。蓋予門生千有二百人。而未嘗有斯人也。至其行事得失長短。則非此編所盡。故不贊一辭云。

加膳爲塾長。代德令也。招辰之丞。供飯。謙吉陪客。

二十九日

十月朔 二日 三日 四日 五日 六日 七日

八日 九日 十日 十一日 十二日 十三日

十四日 十五日 十六日 十七日 十八日 十九日

二十日 二十一日 二十二日 二十三日

二十四日

二十五日 自月初來。宿疾發者兩度。惡寒衝逆之症。頭痛者連日。風邪者連日。其他雜事紛紜。不能記。

日曆。至是把筆。事無倫次。十記一二耳。十五日。詣府賀。

未詳信否。聞德善寺賢杖母死。使人往弔。

予嘗寓長福寺寮。頗累此爐力。自後相識。

二十六日 改月且評。謙三加六級下。寂忍加五級下。淳加三級上。要作善調。寬次郎。辨三加三級下。順益。玄了加二級上。玄益。隆元加二級下。俊平。萬齡改稱。壽貞。仙悟加一級上。貫什。十三郎。直次加一級下。文仲。安藝。文哉。同芳洲。追寂。宴。攝州東洋。安滿達。後筑義庸。宗忍。考元春。柳入。席。清太郎。龍甫。俊助。賢之助。圓融。繁次郎。普明。三郎次。虎之助。義山除名。榮次郎貶三級下。

文亮。貶三級下。俊亮出塾。轉客席。三子及三郎出飲。故貶黜之事。在旬日之前。今記於此。凡一百四十八人。現在塾生五十六人。外來三十四人。知白在中。

二十七日

二十八日 城戶七次郎來見。俊亮生父也。謙吉西遊時訴俊亮過失於龜先生。爲之來謝也。

十六日 爲家君詣府謝。二十三日。夜力疾詣府奉別。以府君明日赴豐前也。莊子講卒業。大學新註開講。及卒業。講古大學一席。至誠意終正心首。朱子所謂錯簡者。皆從舊本之序。正心以下。舊新皆同。故不復講。大意以首章爲格物致知。二章爲誠意。而明德新民止於至善。皆入其條下。以誠意六條目之首。而大學之首。全在此也。余將別有編著。今不暇具載。二宮友貞東遊而歸。來訪。下田貢來訪。携弟辨之助。歸鄉。清太郎。直之進。三郎治歸鄉。大歸也。

清太郎學問行事。並稱老成。在我門下。不易得也。庶歸家之後。專力於學。不忘其初。以與吾黨周旋。實所望也。直之進。青梁子弟。恬靜好讀書。亦好人也。三郎治。在。家亡賴。在塾不甚悛。未知後年如何。龍甫。文友歸鄉。龍甫大歸也。龍甫亦才子。位次至六級下。其行開講。茂知三以疾歸家。家君得紅魚。與諸弟及諸婦。召而賜食。謁龍馬森稻生祠。以妻嘗禱予疾也。是月入門生頗多。不能具記。名列於下文。且詳下。故不必記。諸疾皆服深齋藥。日向人□□來見。供飯。中島益多。以書介之。嘗爲聖堂同僚云。爲予作約言跋。移梅於庭。聞岡研介發狂。

二十九日 訪丸屋七兵衛父子。及久三郎。媳婦歸寧。丸屋媒人。爲料理。其事。故往謝也。館城戶七次郎於豆田。不遇。

訪仲平。會筑後古賀寬次至。與飲。移時而歸。晦日。大阪人等。惠聞入門。來見。久留米人松尾善八入門。來見。午後與謙吉及門生數人散步。到橫屋。

十一月朔 以府君不在。不往賀。使謙吉獨往。二日 聞中垣淳庵來於豆田。使隆元館焉。

三日 淳菴使門人菅對門。字未詳。來謝。夜又使寬次郎往。

四日 以逆上轉甚。眼疾大起。精心攝養。五日 藤條三郎再來官府。來訪。以疾不見。時方困倦。就臥。非有重疾。聞榮有疾。傷使寬次郎往訪。

六日 之魚町。日隈彥助偶至。有供。而及予。久兵衛。仲平同座。移時而歸。聞釋大典死。退院之後。在永興寺。病。投而歿。



七日 痔疾大興。作老子第二章國字解。爲久使

十五日 以疾不出賀。老猫死。伯考時所畜。至是十一年。情所關也。今夏生一子。今存焉。

八日 役參議入塾。去山本院。請再受業。謙作以疾去塾。寓叔父鄰家。傷寒

十六日 (甲子)家君自隈町歸。夜魚町作甲子祭。見招。以疾不往。使妻代往。饋膳。

九日 逆上極甚。服泰助藥。行洗足法。是日下部腫痛。

十七日 服泰助藥。柴胡加龍骨牡蠣湯。以腹中急。動悸甚。

十日 腫物痛減。膿汁微出故。

十八日 十九日 (南至)晚飯小酌。

十一日 十二日 廢中庸講。以疾故也。春來疾病相繼。氣力衰損。將精心攝養。故廢百事云。

廿一日 謙吉招供酒。伸平同座。蒲池久市亦偶至。

十三日 十四日 家君之隈町。留宿魚屋長八家。予與妻守家。筑前行脚可榮亦留。招橋本出雲。大禪家內及塾中。除疫氣也。夜謙作死於上町。謙作子。從妹。致珠那長野祐藏現子也。來學於予。有年。以家資匱乏。不能專於學。然頗有才氣。優於其兄。苗而不秀。嗚乎哀哉。予以有疾。不能往視。使妻及門生往問。謙吉亦往來看視。近曉而歿。歿前其父母皆來。扶柩而歸。

廿二日 廿三日 廿四日 東壁穿戶。以便東園往來。

十四日 家君之隈町。留宿魚屋長八家。予與妻守家。筑前行脚可榮亦留。招橋本出雲。大禪家內及塾中。除疫氣也。夜謙作死於上町。謙作子。從妹。致珠那長野祐藏現子也。來學於予。有年。以家資匱乏。不能專於學。然頗有才氣。優於其兄。苗而不秀。嗚乎哀哉。予以有疾。不能往視。使妻及門生往問。謙吉亦往來看視。近曉而歿。歿前其父母皆來。扶柩而歸。

廿五日 廿六日 改月且評。鳳兮。春丁加五級下。廉五。深齋加四級上。勇哲加四級下。惠海。辨三加三級上。世民。和一郎加三級下。文亮。隆元加二級上。文亮見黜。今雖加。直次。玄泰加一級上。要人。中庸講。是日卒業。聞俊策死。從妹嫁在五月。手叔父老而多憂。筑前醫生。若此。命也夫。

民太郎加一級下。參議五級等。惠聞。善八。男也。日隈元亮子。先是數日入門。入席。直之進。東吾。謙作。道豐。

八日 詩經開講。

了周。松菴除名。凡一百四十七人。現在塾生凡四十七人。一平在中外來生凡三十人。知白在中

九日 府君從豐前歸。謙吉陪。家君迎於財津。

廿七日 夜陪話。家君同座。叔父。伸平。謙吉。一平。設食。至夜半而散。依舊例也。

十日 府君來檢官倉。陪。家君。拜於道左。午後詣府。賀歸府也。見勝田藤三郎。

廿八日 起約言或問艸。

十一日 府君賜益梅一株於予。詣府而謝。見增田良策。

廿九日 晦日

十二日 夜。齒痛。丸屋久三郎迎後妻於筑後。

十二月朔 約言或問成。以國字艸之。故速卒業。行當。以漢語改作矣。一卷廿八葉。

十三日 十四日 頭痛。使一平代往賀久三郎婚。

五日 定消除妄想法。盡止一切志願。唯餘兩條。一。平日作善。皆爲此兩條。一。廻向。誓守此法。

十五日 詣府賀。見綱次。長州醫生柳宗仙入門。來見。

六日 夜豐前人拜田哲藏來見。中津領拜田村大庄屋帆足里吉門人也。

十六日 府君有賜於家君。詣府而謝。見勝田藤三郎。德令來訪。留宿。



十七日 久兵衛來。供飯。拜田哲藏來別。

十八日 雪。與德令一小酌。謙吉與焉。祐菴告別。

大歸也。去之山陽。學醫也。

十九日 謙吉迎德令一小飲。予亦往焉。雪。二十四日

追記

二十日 德令辭去。日中有疾。入夜稍甚。頭痛惡

寒惡心。不能熟寐。是日淳還鄉。大榮代爲侍

者。

二十一日 病益甚。廢講。招諫山安民診視。服

藥。是日殆至絕食。家君去宿西家。

二十二日 移臥樓下南軒。病稍退。食稍進。安民來

視。供飯。

二十三日 病更退。始得起坐。命謙吉改來歲月

且評。加膳加六級上。藤太加五級上。辨二加四

### 醒齋日曆卷二終

## 醒齋日曆卷三

(五十一歲)

天保三年壬辰正月元日 予年五十一。住堀田村。

居長春菴樓上南軒。全家無事。以卯時起。改

服。拜聖像。在西 歲神 在菴 諸神 在中 祖先。

喫雜煮。飲屠蘇。寬次郎與焉。與謙吉

詣魚町謁家君。遂詣府。伺候殆兩時。府

君受賀。予爲上座。安民。謙吉。元達。及近臣二

人。賀諸僚屬。又詣豆田數家。歸。午飯畢。賦詩

試筆。笑着斑爛眼。趨陪白髮人。病色隨年減。詩思追日新。 讀天保詩。晚飯

於西家。同座。家君。妻。謙吉。是日。天氣初陰後

晴。

二日 爲吉得罪於府君。放歸東都。予父子亦

以教導失職。屏居自責。

級下。榮次郎。寬次郎。和一郎加三級上。龍信。吉

次郎加二級上。直次加二級下。寬什。要人加一

級上。惠教。玄文。宗仁加一級下。元叔。宗仙入

席。淨薰。原仙除名。凡一百四十七人。現在人數不能具錄。

二十四日 歸臥樓上。家君自西家歸。

二十五日 魚町搗餛。予不能往。饋膳。

二十六日

二十七日 兒玉玄龍自朝田歸。來訪。久兵衛亦

至。供飯。亦以婦事也。

二十八日

二十九日 服藥止於是日。

大晦日 諸生守歲於塾者。凡三十五人。予在長

春菴樓上南軒。隱居逢除夜。以是歲爲始。

三日 魚町作節。予父子以責不往。饋膳。行德

元遂來賀。且請講約言。爲講二則。

四日 官府有赦命。與謙吉詣府而謝。見增田

良策。遂詣服部。增田二氏。歸路賀村中。

五日 起毛詩講。移座於梅花塢。饗家君。謙吉

與焉。

六日 與謙吉率門人詣府而賀。凡四十二人。

府君受賀畢。賜屠蘇。歸遂宴門人。會者凡六十

三人。

八日 玉田淵藏將辭府而遊東都。來別。

八日 之魚町與淵藏爲別。夜釋密乘至。賀新

也。



九日 與妻謙吉。赴合原氏節。同座。中村平左衛門。醉屋佐左衛門。子之作。鉄之助。中村氏母。日暮予先歸。夜。家君作節。同座。叔父。仲平。謙吉。俳師可榮。及諸婦諸孫。

十日 釋密乘歸筑。

十一日

十二日 詣龍馬森 神祠。遂訪橋本出雲。釋祐俊來訪。

十三日 日隈善市入門。來見。出口村長子也。

十四日 與謙吉詣大原山 神祠。和一郎。藤太。寬次郎。壽貞。宗仙。善市從行。

十五日 詣府而賀。見近臣。是日久兵衛獻膳於府君。家君以下皆往。予獨在家。夜中。府君有命。乃往。陪酒於前。同座。家君。中村平左衛門。三松順平。服部權六。增田良作。夜半歸家。

十六日 與久兵衛。仲平。謙吉。鉄之助。詣府而

貞加二級下。十三郎。惠教。宗仁加一級上。文仲。文哉加一級下。作十郎轉本席。賢之助。上級劣亭。善市。德三入席。冲若。轍。明壽。友吉。進次。爲吉。文志。三廸除名。八百江轉客席。凡一百四十三人。現在塾生五十人。外來十九人。知白在中

二十七日

二十八日 起毛詩講。

二十九日 魚町行。伯考祭。陪家君往。同座。

大超寺兩僧。叔父。鉄之助。是日始與大超寺主相見。筑前人代大備中僧省我。阿波僧宜圓入門。來見。筑後醫宮原數馬。筑前醫九十九入門。來見。

晦日 有疾。與十六日症同

二月朔 以疾不出賀。休毛詩講。

二日 起毛詩講。

三日 渡邊周濟駿之進改稱來訪。止塾。

謝。見服部權六。午飯後疾作。胸鬱腹滿。四肢困怠。神魂蒙昧。眼不欲開。中津人久松劣亭入門。來見。

十七日 廢毛詩講。服諫山俊安藥。疾如昨。

十八日 疾如昨。

十九日 疾如昨。

二十日 疾如昨。

二十一日 疾如昨。

二十二日 赤馬關人山崎德藏入門。來見。疾如昨。

二十三日 疾如昨。府君賜瓶梅。名野路玉川

二十四日 疾如昨。府君賜鮭魚肉於家君及予。

二十五日 詣府而謝。見山鹿七郎。十六日來。疾雖不太急。然亦不愈。是日精心攝養。暫止服藥。服春安藥。蓋十五六貼。吉成賢之助來。請再受業。

二十六日 改月且評。三義加五級上。仙荳。和一郎加四級下。順益。隆元加三級下。圓知。俊平。壽

四日 五日

六日 陪家君之魚町。以鉄之助繼家。獲市親識也。故往接客。

七日 渡邊周濟告別。發與中須賀長左衛門書。包鉄默文稿。是日上塚。訪大超寺住持。不遇。訪諫山安民。乞診。近日患渴。腹中停滯。食不太進。小便減省。過仲平。有饗焉。同座。家君。叔父。

八日 服諫山安民藥。

九日 僧宗鈞入門。來謁。

十日 聞丸屋幸右衛門以昨夜死。壽四十五。丸屋街中巨室。而斯人太有幹局。爲衆望所歸。且嗜雅事。與伯考及子。頗相厚善。患疫旬日而歿。嗚乎惜哉。與寬次郎代往弔。是日寬次郎罷侍者。劣亭。元春代之。與大榮三人。府君賜魚於家君及子。

十一日 與謙吉詣府而謝。府君相見。賜酒於前。服部權六。增田良作同座。酒後賜飯於予及謙吉。是日使劣亭代往。會丸屋幸右衛門葬。不及。



十二日 再與謙吉詣府而謝。府君相見。賜酒於前。山本吉右衛門。服部權六。長谷部衆助。增田良作同座。

十三日 三詣府而謝。見近臣。筑前醫生小林禮三入門。來謁。

十四日 晚飯於西家。夜。家君有恙。招醫調藥。看視到深更。

十五日 家君疾愈。與謙吉詣府而賀。見近臣。遂率門生九人。詣長谷部氏而謝。以其施金於貧生也。

十六日 到新原。訪兒玉玄龍父子。小酌而歸。遂詣黑男祠。是日和一郎。劣亭隨行。

十七日 縣府有增地之命。怡土。天帥。五家。與謙吉詣府而賀。見近臣。退而憩魚町。午飯。得一

一律。二月十五日詣官府作。琴々城鼓動。朝輝。謝遣青杉。出。竹扉。漆水帆開輪。稅去。彦山人開餐。神。西堂。歸。

寺兩僧。家君。叔父。久兵衛。謙吉。遂上塚而歸。玉井元純來訪。供飯。

二十四日 朝。城內町失火。急詣官府。見近臣。府君命詣魚町。乃往朝飯焉。已時火止。再與謙吉詣府。又見近臣。是日延燒者。蓋五六家。歸家與謙吉小酌。散步村口。

二十五日 得高島四郎太夫書。寄清人遠思樓集序二篇。一為顧菴。一為韓封。皆彼中名家云。清

商萍香得之。萍香曰。顧在病中。其文蓋出他手。韓乃真物。我所親觀也。要之其真贋未可審也。須與有識議之耳。

改三月且評。廉吾加五級下。元迪。勇哲。辨三加四級上。榮次郎。寬次郎加四級下。大榮加三級上。文亮復三級下。

加二級上。仙吾。玄泰。宗仁加二級下。文仲。民太郎。文哉加一級上。宗仙。惠聞。劣亭加一級下。

肥。三。吉。直。復。舊。茂。知。三。三。吉。郎。直。次。復。舊。茂。知。三。三。吉。郎。直。次。

肥。三。吉。直。復。舊。茂。知。三。三。吉。郎。直。次。復。舊。茂。知。三。三。吉。郎。直。次。

肥。三。吉。直。復。舊。茂。知。三。三。吉。郎。直。次。復。舊。茂。知。三。三。吉。郎。直。次。

向詩中。秀。東閣梅從。借裏。飛。慚。愧。未時再詣府。府

君延見。賜飯及酒。及親賜爵行殺。使謙吉行酒。服部權六同座。初更歸家。是日休詩經講。

十八日 與謙吉詣府而謝。見近臣。是日。家君亦詣府。歸路有恙。憩魚町。與妻往視。過時有愈。陪從而歸。晚飯於魚町。

十九日 為家君詣府而謝。謙吉亦往。府君延見賜酒。服部權六。增田良作同座。

二十日 再詣府而謝。府君延見賜酒。山本吉右衛門。服部權六。長谷部周助。增田良作同座。

二十一日 與謙吉詣府而謝。見近臣。歸路遊城內觀音閣。宗仙。劣亭。元春。壽亭從行。既而諫山春安。和田一平亦至。喫飯及茶。遂詣上馬場善行寺。

再發行厨。喫酒乃歸。宗仙。元春。歸。先

二十二日 先妣忌辰。與妻赴魚町祭。同座。大超

宗鈞。宜圓。數馬。惟芳。藤平。麻生省我。禮二。小

神德。大圓。深誦。壽軒。津田入席。十一人皆相見。辰

五郎。琢磨。文友。雄菴。諱信。大悟。實道。大音。會

林。道碩除名。凡一百四十四人。現在塾生凡五十

六人。外來生凡二十四人。是日與謙吉往謁庄

手菅公祠。從行數人。

二十六日 之魚町。見中垣淳菴。時來。醉屋。至魚町。看久兵衛二女疾也。

二十八日 淳菴來訪。看家君及子疾。供飯。

二十九日 聞釋大舍來限町。使慧問往訪。三月朔 與謙吉詣府而賀。見近臣。大榮還鄉。於是。侍者一人。劣亭。得弁之書。聞下田貢死。貢

於。是。侍者一人。劣亭。得弁之書。聞下田貢死。貢

於。是。侍者一人。劣亭。得弁之書。聞下田貢死。貢

於。是。侍者一人。劣亭。得弁之書。聞下田貢死。貢

於。是。侍者一人。劣亭。得弁之書。聞下田貢死。貢



僧法輪來報法輪豐前僧。子舊門人。慧問使。森士人嶋崎仲入門。來見。研之介義弟也。

三日 與謙吉詣府而賀。伺候頗久。已時 府君

受賀如例。子安民。謙吉。七郎。吉作。八百江。石州醫生永左玄達

入門。來謁。

四日 五日……十四日

十五日 入春以來。志氣恍惚。事業荒頽。日曆多

成於追記。而近來殊甚。至廿三日。始服攝心之

法。乃理日曆。而十五日以前之事。多失其日。故

雜記於此。府君之豐前。不出送。日隈人森永

三郎。重八弟。佐伯士人今泉一助。僧惠了。國東人大

畑亭作。筑後人萬年此面。田中政太郎。肥後僧了

道。筑後人小野元劑。鷹見奎之助。春野泰藏。周防

僧英山入門。來謁。皆失其日。肥前人松永宗仙。滿岡仁

之助入門。來謁。仲平饗家君。併招予。久兵衛。

饗家君。招予及仲平。俵屋利吉死。妻往弔。

不眠。以心動也。戒哉。夜呻吟徹曉。慎哉。攝其心哉。

二十日 苦惱稍解。使謙吉代講論語。休毛詩講。

使泰助。玄泰調藥。使劣亭往會俵屋葬。利吉及其

妹葬也。幸六有疾故緩。

二十一日 使謙吉往館釋大舍。不遇。

二十二日 謙吉再訪大舍。相見。使玄泰改藥方。

半夏瀉心湯。玄益。元春。謙二皆移於新塾。元謙養疾。玄益看視。

宜圓為侍者。代玄益也。與劣亭。宗仙。善市移

於東塾。於是居東塾者五人。宗仙。劣亭。善市。宜圓。藤平。

二十三日 何相卿自安藝歸。來見。

二十四日 招釋大舍。享之於長春葦南軒。森成策

與焉。兒玉茂亦偶至。予與謙吉對客。及三更

而散。役敬中來訪。止宿。

二十五日 安藝人平田杏之助入門。來謁。使下加膳

詣釋大舍謝。

二十六日 役敬中辭去。改月且評。泰助加三級

蓋十樓前白桃盛開。與妻及婢小酌樓上。因招

劣亭。元春。謙二。和田一平亦偶至。是日謙二始

為侍者。與劣亭。元春。三人。蓋十一日。與仲平散步。圓智。劣亭

從行。到田島觀櫻。遂至大原。歸而飲於醒

齋。醉甚。起論語講。十日

十六日 與謙吉之才田訪蒲池久市。加膳。于

石從行。釋門惠。兒玉茂。釋祥雲亦會。近暮而歸。

口龍甫來請再受業。

十七日 豫州人神山元策入門。來謁。是日諸生宴

予及謙吉於大原山。神祠廻廊。併招仲平。久市。

諸生行者。蓋六七十人。是日天陰。時有微雨。予

先歸。宗仙。元春從焉。

十八日 中津人平田文亨入門。來謁。杏純弟也。釋

大舍與圓什來訪。供茶。談移刻而去。

十九日 玄益為侍者。元春。謙二皆疾故也。午後疾

作。以前夜不眠。今午過食。且對客困倦也。

上。賢之助加三級下。圓智加二級上。正純。貫

什。十三郎加二級下。宗仙。惠聞。劣亭加一級

上。元春。宗鈞。省我加一級下。龍甫。二級下。辰五

郎。四級自性。二級上。松永宗仙。仁之助。客謙二。此

面。政太郎。了道。元劑。仲。奎之助。英山。泰藏。元

策。亭策。文亨。惠良。永三郎。杏之助入席。純吾。

勳平。祭。祭之死蓋在本月初。鳴乎哀哉。日曆失記。宗仁。良遂。角二。多

門。文益除名。一郎轉客席。凡一百五十六人。現

在塾生凡六十四人。外來生凡二十七人。宗仙移

於新塾。

二十七日 渡邊轍來謁。請再受業。

二十八日 宗仙畫居東塾。單言宗仙。皆柳生也。松生書姓。以下倣此。

二十九日 之隈町。訪釋大舍。移刻而歸。夜飄

風。是日起毛詩講。之魚町。與久兵衛作別。

之豐不及。大舍使弟子來謝。

晦日 善市代宜圓為侍者。與劣亭二人。宜圓居東塾如故。



四月朔 謙吉詣府而賀。先是。百事荒廢。至是自新。脩理滯務。

二日 午後微恙。以夜間心動。不能熟眠也。

三日 昨症已愈。而頭痛胸塞。以拍背而氣上衝也。

四日

五日 謙吉遊津江。榮次郎爲導。一郎。世民。仙

吾從行。予與妻留守西家。予畫間居。梅花塢。善市以

疾移新塾。宗仙。元春爲侍者。與劣亭三人。

吉田友吉來訪。晡時散步。謁莊手菅廂。三侍者從行。

六日 吉田友吉來別。不遇。使元春往謝。是日飲

上等諸生及侍者酒。凡二十三人。加膳。謙三。龍甫。藤太。子石。了性。來真。春了。相卿。徹。元迪。真導。辰五郎。寬次郎。勇哲。元次。掌珠。和一郎。宗仙。劣亭。宜圓。壽貞。元叔。在西家爲之。自

巳至未。夜元春告別。

七日 講禮記。代謙吉也。謙二爲侍者。代三元

春也。與宗仙。劣亭三人。善市外祖來見。小畑莊屋隱居。

飯。起毛詩講。

十四日 毛詩卒業。復禮記講於謙吉。復服半夏瀉

心湯。兼用散。服部氏饋魚。晚與仲平。謙

吉。侍食。家君。

十五日

十六日 小野協。阿部文仲告別。文仲來見予也。本非受業。中

津醫生田淵亨入門。來謁。大江忠菴從弟也。

十七日 約言開講。

十八日 十九日

二十日 之魚町。久兵衛自豐前歸故也。遂弔袋

屋。弔子之作義。父死也。太田梁平自長崎來訪。

二十一日 妻之天瀨。胎毒膿瘡。每夏輒發。故浴溫泉也。謙吉率俊

亮。及婢。西家。僕嘉助。磯吉隨行。予寄食於菴。長谷

部衆助以天艸地圖寄示。請紀地名。蓋府命。既成。

親詣長谷部氏反之。

二十二日 考訂秋風菴遺稿。家君與中村泰右

復服姜桂湯。相卿調劑。聞醉屋佐左衛門死。儀平弟。子之作義。父也。故記。

八日 善市發痘。移於藤兵衛家。塾生病痘。已時病作。初惡寒。後發熱。得發汗。稍解。然心下痞甚。是日朝食而已。服相卿藥。

九日 苦惱已解。而心下苦滿。不欲食而渴。服半夏瀉心湯。

十日 氣力微生。步到梅花塢。兼服五苓散。勳平

自筑後過訪。

十一日 起禮記講。大和僧了正。安藝僧僧典入門。

來見。

十二日 洒掃。待謙吉。不至。中村松吉郎錄舊姓名。來

訪。

十三日 謙吉至自津江。予與妻歸東家。食息

西家。凡九日。是日海士野安碩。安部文仲入門來

謁。安碩有謙第二子也。小野協來訪。止塾。供晚

衛門。方山玄圃監之。終日而畢。與中村。方山

二子。之魚町議上梓事。仲平將之大坂。故欲託之以謀上梓。既歸。

三吉郎得疾。類痘症。乘輿而歸。予與相卿送

之到其家。

二十三日 之魚町。仲平東上故也。奉府命。從林賢八。送官銀於浪華。因遊京。及伊勢也。午飯而歸。夜再往焉。是日始講禮記。

代謙吉也。

二十四日 朝之魚町。朝飯焉。因送仲平到下町

橋。豐前人小林翠巴來謁。

二十五日 朝六出災。二宮慎齋友貞改稱。來訪。

二十六日 慎齋告別。改月旦評。辰五郎。和一郎。

寬次郎加四級上。文山。惠海加四級下。文亮加

三級上。壽八郎。龍信加三級下。壽貞加二級上。

惠聞。劣亭加二級下。宜圓。數馬。元叔加一級

下。松永宗仙。仁之助轉本席。而加一級下。轍。

四級。三吾。諦道。安碩。恒三郎。了性。僧典。真吾。

下。松永宗仙。仁之助轉本席。而加一級下。轍。

四級。三吾。諦道。安碩。恒三郎。了性。僧典。真吾。

下。松永宗仙。仁之助轉本席。而加一級下。轍。

四級。三吾。諦道。安碩。恒三郎。了性。僧典。真吾。

下。松永宗仙。仁之助轉本席。而加一級下。轍。



亭。冷然。一助。龜三郎。真人入席。諸子皆相見。日曆失記。直記。頑伯除名。凡一百六十七人。現在塾生六十八人。外來生二十三人。六十八人。相卿在中。

二十七日 三吾。亭還。釋忍梁。普明過訪。

二十八日 妻。謙吉及從者皆自天瀨歸。予寄食於菴。凡八日。

二十九日 加膳還鄉。大歸也。加膳。加峯橋梁弟子也。在塾三年。位次至六級。上。亦人。傑也。太田梁平告別。反。長崎也。

五月朔

二日 詣服部氏。訪三吉郎疾也。荒木吉次來訪。供餽及飯。夜釋密乘自筑後至。朝田婦已絕。故。議。再婚。

放螢於庭。是日始捕蚤。是日真人有急疾。移時而復。

三日

四日 善調發。疾頗急。

五日 朝飯後陪家君。詣府而賀。見長谷部作

與久兵衛書。前書云。將遣真道而議事。今其議中變。故託辰五郎報之。真道之吉井。以一事也。

八日 雷。雷震比。例頗早。

九日 真道自筑後歸。密乘議結婚於本鄉伴氏。伴氏許之。於是以六月五日納聘。

十日 詣大超寺。謁善調瘞埋處。

十一日 諸講皆作。

十二日 桑原純吾自熊本至。藤太到熊本。純吾偶在焉。即來奔喪。

十三日 約言卒業。約言自開講。凡二十六日。宗仙與疾移於河原町島屋壽助家。先是數日移於新塾。至是移紹介之家。

十四日 開老子講。家君誕辰。與謙吉從謁宮

太夫稻生祠。賜飯。同座。妻。謙吉。使文山訪宗

仙疾。外表之症。蓋誤而下之。遂成裏症。今得小愈云。

十五日 釋密乘與媒人吉松加賀守來訪。館諸東家。會議納聘事。有饗焉。

十六日 密乘加賀辭去。麻生勳平自筑後至。致

中村直衛書。書中所言。關於婚事。夜魚屋助七來。議婚事。

藏。時留守。受賀。遍詣諸僚屬。歸路詣親戚數家。聞善三郎女發痘。既歸。聞善調疾為痘。移於藤兵衛家。日暮宗仙得疾。為新暑。所中。是日始服絺衣。常製之於外。今乃單服。暑早可知。

六日 釋密乘再來訪。議婚事也。諫山安民來告。善調症太惡。予到藤兵衛看視。使下人到天草報其

家。未及發。日暮善調死。會葬服部氏小兒。時年二歲。病痘而死。謙吉往會。予在戶側。招諫山春安。足立可

中。皆不成功。因裁訃書。使入之天艸。嗚乎。哀哉。

七日 藤太還鄉。人皆勸而避。發與久兵衛書。託嘉助。約粗定。日暮葬善調於大超寺。請照蓮

寺住持僧一行其式。謙吉率內外諸生送之。予與妻至藤兵衛門。老來不堪死別。殆欲以哀傷體。故不至埋所。予持

齋一日。塾中放學。四日。是日辰五郎還鄉。再發

十七日 味爽。真道之筑後。勳平辭去。魚屋長八

來。久久牟田真卿過訪。秋月士人嘗在龜井先生塾。一面。移刻而

去。宜圓為侍者。代宗仙也。與劣亭。謙次。三

人。使劣亭往訪宗仙疾。夜釋密乘使至。以真道

未至也。再使要人往。真道蓋與來使。殊未至也。再使要人往。路。故不相遇。

十八日 放學。為釋善調一行葬祭。桑原純吾為

主。先是之天草。使回報。善調父兄。有事先來。故純吾攝喪主。予與家君及

家人。皆有供於東家。真道自吉井歸。

十九日 廢老子講。使要人之吉井。夜要人與釋

密乘。熊抱備前。本稱岩尾。舊門生也。至宿於西家。

二十日 招魚屋長八。直太郎。兒玉茂。與議婚事。

午後密乘。備前辭去。淋口腫痛。

二十一日 疾如昨。廢論語講。講。一六

二十二日 兒玉茂。魚屋利平之筑後。為婚。事也。疾少

愈。夜往訪久三郎疾。病發去冬。然不為意。近來漸進。兩三日來乃覺危篤。招中

垣淳菴。故力釋密乘書至。病往視也。



二十三日 府君自豐前使人賜鮮魚於家君。徹夜來也。

二十四日 兒玉茂。魚屋利平自筑後歸。茂來見。

招魚屋直太郎議事。皆供飯。

二十五日 使直太郎之吉井。夜直太郎自吉井

至。使止伴氏婚也。結束既定。而後聞其不可。躊躇不決。故二子往察之。於是決意絕之。予厭世事久矣。有事必託二弟。今二弟皆不在。而逢此梗事。往酬反復。中心苦甚。殆爲之得疾。至此而略定云。嗚乎。前事不忘。後事之師也。戒哉。慎哉。久兵衛自豐前歸。加峯礮梁過訪。善調之兄自天艸至。來見。

二十六日 桑原純吾。何相卿與善調之兄還天艸。

純吾至六級上。予嘗稱爲研介之流亞。相卿至四級上。頗解醫事。亦才子流也。二子既除名。而其大歸實在今日。爲之悵然。

作二月旦評。謙三加六級上。麟兮加三級下。劣亭

加二級上。自性加二級下。宜圓。數馬。元叔。松宗

仙加一級上。謙次。此面。政太郎加一級下。矢

庭。再入安藏。德音。顯赫。法雨。宥二。素心。義順。

淺江。素要入席。九子或前日相見。或此日相見。加膳。逸記。善調。

普觀。法岩除名。凡一百七十二人。現在塾生五十

五人。外來生三十七人。

二十七日 與謙吉小酌。一郎亦陪。直太郎後至。

二十八日 放學。例在前日。以三月且未成。遲二日也。朝飯後有恙。

以醉飲酒酒後喫飯過多也。以後酒不宜多飲。酒後不宜食。服安頌藥。桂枝加人參湯

二十九日 廢老子講。江戶畫師昂齋。携其子來見。

六月朔 放學。從諸生請也。建言欲調神而讓暑中疾病也。

二日 起老子講。阿皆以目疾歸家。伸平妻來

侍。家君。是日雨。始見插秧者。謙次還鄉。

三日

四日 采蘭。采蘭小史宗仙號也。以下書號別松生。病起。來見。

五日 采蘭歸塾。爲侍史。與劣亭。宜圓三人。聞

釋圓什有疾。下使寬次郎問之。因問久三郎疾。

六日 大超寺災。小燒而止。或云。狐祟也。詣府見稻川章助及

諸吏而歸。

安頌藥。

十七日 當開左傳講。以疾故止。廉吾之筑後。

關係家事故書。

十八日 疾稍愈。廉吾歸塾。

十九日

二十日 造籬於梅花塢籬外。籬外即巷厨外也。多汚穢。故更設一籬遮之。

真道監視。半日而畢。

二十一日 左傳開講。

二十二日

二十三日 連日猛暑。苦人。氣息僅存。苟且度日。百事拋棄。故所記亦略。

二十四日 妻有目疾。倩婢。阿茂女。種莎於石泓之

岸。移石莒於他所。廣圓寺住持來訪。答前日往訪也。

夜腹微痛。

二十五日 改講時。爲朝飯之前。改二月旦評。龍甫

加六級上。參議復舊。加六級下。廉吾加五級上。

寬次郎加五級下。大寂加三級上。劣亭加三級

七日 之魚町及袋屋久兵衛。善三郎。皆將旅行

故也。之白。聞昨日火災所由。小僧火。是日籬外。杵也。

插秧。風景一如去年。

八日 鍋屋善藏來。請勸于石歸院。與謙吉小酌東樓。

酌東樓。

九日 于石歸于山本院。不與義父和而。至。是居間者多。終復歸云。

十日 引田水於石泓。

十一日

十二日 阿皆自關村歸。伸平妻辭去。

十三日 之隈町館中垣淳庵。來應久三。郎請也。遂訪久

三郎。釋圓什疾。又訪廣圓寺真蓮坊。魚屋直太

郎。不到廣圓寺。蓋十餘年。直太郎今宅亦始到也。

十四日

十五日 祇園祭同。家君及妻。謙吉。赴魚町招。

日暮歸家。是日雨。然亦畢祭。祇園祭近年必雨。不知神意如何。

十六日 老子卒業。自開講。凡病作。因飲食動服。腹疾也。



下。玄益。正純加二級上。文哉。榮蘭。宜圓。元叔。宗仙。秘承也。以下做此。加二級下。仁之助。政太郎加一級上。元劑。英山。東洋加一級下。八百江復原席。勇哲轉客席。繁雄。良助。皆相見者。入席。寬了。圓

備。義端。巨。犀之助。惠實。觀山除名。凡一百六十七人。現在塾生凡五十四人。外來生凡三十一人。二十六日 二十七日 二十八日 二十九日 夜寢於東塾。以樓上大熱也。

### 醒齋日曆卷三終

### 醒齋日曆卷四

七月朔 謙吉之珍珠。訪伊織疾也。中暑帶疫邪之症云。

二日 釋薩琉來訪。請再受業。

三日 招兒玉茂議婚事。小酌於東塾。

四日

五日 之官府。候暑中安否也。已時聞久三郎疾。病奔走而往。則已逝矣。壽四十六。嗚乎哀哉。予少從兄弟。唯有叔父三男。久三郎尤長。自初生及十餘載。極相親昵。既而為千原氏贅婿。限豆離隔。且以所業不同。逢迎亦疎。然恩情則無倫。一旦溘焉。感可言哉。且叔父諸子。此為最良。天喪之嘆。實不忍聞。嗚乎哀哉。移刻而歸。塾中廢業。過密三日。夜又之丸屋。陪侍靈柩。與七兵衛及諸弔客。談話。及三更而歸。是日德令來訪。留宿。

六日 朝往弔叔父。炎威尤甚。氣息僅存。日暮往

會丸屋葬。德令。采蘭從行。諸生行者。亦數十人。

日入行葬式於中洲。

七日 以忌不出賀。家君所雇永作得疾於菴中。頗急。夜輿而送之。暴痢之症

八日 起諸講。夜諫山安民自珍珠歸。聞伊織及謙吉消息。伊織疾稍間。謙吉患亂。數日來稍愈。將以近日歸。使龍甫。寬次郎詣諫山氏問訊。

九日 兒玉玄龍移寓此村。來見。宜圓以疾罷侍者。政太郎代之。與采蘭。劣亭三人。

十日 詣兒玉玄龍僑居。賀。德令辭去。

十一日 謙吉乘馬自珍珠歸。疾益愈云。

十二日 劣亭罷侍者。玄益代之。與采蘭。政太



郎三人。

十三日

十四日 暮上塚。遂詣豆田數家。

十五日 朝詣府中。賀。歸路遍賀村中。

十六日

十七日 招英山供齋。為慈等法尼忌。家君為主。子亦與焉。

夜伸平自東上歸。相見。是日心下停滯。加以淋

口腫痛。

十八日 用宗仙蒸藥。有効。

十九日 初山本吉右衛門自天艸歸。有遺予。

是日謙吉往謝。夜豆田災。未及一家而止。

二十日 朝之魚町。賀伸平歸宅。且有謔久兵

衛故也。自不雨來已三十五六日。雲祭競舉。且

警火極急。豆田大災實為七月二十日。至是六十一。甲子再周。人心洶懼。

二十一日

二十二日 初 府君自奈良瀉。寄示其所作文。

夜天氣清明。獨山頂有淡霧。不見月出之狀。既

上始知。近曉而散。

二十七日

二十八日 自六月十五日雨。而至昨二十七日不

雨。凡四十二日。炎威酷烈。人穀俱瘁。无處不

祈。至是始雨。然雨力甚微。人以爲憾。

二十九日 晚飯後與謙吉散步。過兒玉氏。玄龍

要而供酒。政太郎。謙三。來真。亦陪焉。二更歸

家。

晦日

八月朔 謙吉詣府賀。予不往。宗仙來居東塾。采

蘭改稱浪江。以其稱相混也。夜之魚町。以久

兵衛之筑前爲別也。發與龜井鉄次郎書及

鹽香魚。託久兵衛也。

二日 小兩。亦不潤物。

三日 發下答。府君書。久兵衛之自奈良瀉歸。府君賜書。謝改竄之事。且有後

是日改竄畢。託久兵衛。初村尾市次郎自天艸歸。有贈物。是日謙吉往謝。夜三更住吉災。起詣官府。見僚屬數子而歸。龍馬森小屋亦災。

二十三日

二十四日 朝之魚町。與久兵衛別。之奈良良瀉。遂詣

官府。訪山本村尾二氏相見。聞何相卿死。山本何道伯弟有死者。然則相卿也。此人在塾數年。情所熟。今夏自山陽歸。亦留塾。不圖成永訣。嗚乎惜哉。嗚乎哀哉。

二十五日 改月旦評。辰五郎加五級下。淳加四

級下。世民。劣亭加三級上。俊平。宗仙加三級

上。仁之助改二級下。此面。英山。東養加二級

上。繁雄。了道。恒三郎加一級下。俊亮復原席。

撮龍。加三級下。法圓入席。仙菴。德音。二子有潤藏。除名。凡一百六十六人。現在塾生五十人。外來生

三十九人。

二十六日 夜半後起至醒齋。俟月。謙吉率謙三。

龍甫。一郎。淳。劣亭。至。妻亦起設酒茶及飯。是

命。故贈謙吉。文山。劣亭。散步村南

田間。

四日 唐津僧開闡弟丸入門。來謁。午時陪家君

赴伸平招。同座。伸平。謙吉。予覺不快。先歸。既

而惡寒惡心。相次而發。玄龍。安民。先後調藥。謙

吉及諸門人看視。凡嘔吐者十餘回。至夜半而

止。蓋臙亂症云。近曉得眠。是日大雨。入夜而

雷。家君止伸平宅。予臥南軒。

五日 邪毒既除。腹心未和。微進飲食。是日雨。

六日 益愈。降堂小步。是日雨。至是成霖。人情

歡躍。百物蘇息。是日得下道萬兵衛屍於田間。數

失。其所在。搜求不得。至是得之。蓋急疾頓死也。或

云。狐魅死之。予自幼時所目識。故書且記。異也。

七日 轉居東塾。命謙三。龍甫。以之筑事。發

與昭陽先生父子。杉山威八郎書。昭陽書中包玄

益還鄉。世珉爲侍者。與菜蘭。政太郎三人。

八日 腹微痛。瀉下兩行。以喫團子。及飲未

茶也。慎飲食哉。麻生伊



織至。養病於魚町也。

九日 病來始浴。

十日 暮謁龍馬森稻生祠。世珉隨行。以病中妻祈神也。

十一日 雷雨。撮龍告別。服醫藥止。於是日。服安民藥。

蓋十六七貼

十二日 長兵衛死。年六十五。幼時所熱也。爲人篤實。嘗受縣府賞賜。今无復此人。惜哉。

十三日 午飯後。胸膈停滯。如下欲惡寒狀。服安

碩藥。采蘭有疾。招兒玉玄龍診視。久兵衛自

筑前歸。

十四日 伊豫大洲士人。瀧野三郎助。野村孫二郎。

岩井常也入門。來謁。開下升屋源次以昨夜一死。

十五日 朝詣龍馬森。拜大原 神輿。宗仙隨行。

津江醫生□竹太郎。僧圓式入門。來謁。采蘭疾愈。

府內久保彌七郎二男來見。導引師□□來見。夜謙

吉率廉吾。來真。文山。劣亭。宗仙。仁之助。繁雄。

宜乎疾之易入。伊織還魚町。隆元來訪。也。慎哉。慎哉。

二十五日 島原醫生青木芳卿入門。來見。移寢於

樓上。以涼生也。臥東塾者五十二夕。臥南軒者三夕。 仙吾赦過

來見。

二十六日 之魚町。以家君夙往。往而候之。 藤條三郎來訪。

改月且評。劣亭加四級下。茂知三加三級下。宜

圓。仁之助改二級上。惠教。數馬。政太郎。此面

加二級下。繁雄。了道。恒三郎加一級上。肩吾。

法雨。開闡加一級下。肩吾。元策改稱。 仙吾。開闡。三郎助。

常也。竹太郎。圓式。孫三郎。芳卿。秀丸入席。流

雲。文秀。辨之助。善三郎。一之助。本立。萬雄。仲

吉。法山。流助。友三郎除名。凡一百六十三人。現

在塾生凡六十人。外來生凡三十三人。

二十七日 二十八日 二十九日

九月朔 遊羽野原。同行。伊織。伸平。丑六。謙吉。

及門生六十餘人。既至。憩松樹下。逢雨奔投。一

來賞。月于塢中。小酌。是夜始微陰。後極晴朗。及三更而散。

十六日 仙吾有過削籍。魚町作祖考祭。相招。

以疾不行。

十七日

十八日 謙三。龍甫自筑前歸。得昭陽先生父子

報書。

十九日

二十日 起左傳講。

二十一日

二十二日 釋大舍過訪。伊織自魚町來宿。

二十三日 使惠問詣釋大舍館。謝。且託遠思樓

詩集一部。及謙吉稿。求評於賴子成也。 荒木吉次來魚町。

使龍甫往館焉。訪兒玉玄龍疾。

二十四日 荒木吉次過訪。午後與妻小酌。是日秋

涼頓生。襲服一綿二裕及外套。昨著綿衣。至暮炎。衣相代。其變如此。

古祠。菅天神祠也。 門生別憩。知區羅妙見祠。各發一行

厨。及午予與二侍者先歸。是日擇日放學。然

以雨破興。人以爲憾。暮詣隈町。訪釋大舍。

不遇。

二日 釋大舍過訪。告別。

三日 之新原訪兒玉茂。其妻有疾。故訪之。 龍甫。來真。浪

江從行。遂謁黑男祠。過淨明寺而歸。與三子

小酌齋中。移時而散。

四日 三吉郎將之東都。詣其家。作別。

五日 陪家君。送三吉郎。憩河原町元養家。遂

送至隈取而歸。此子才氣非常。後年必發達矣。 歸路過城內。避

來路也。是日寬次郎亦歸京師。託與小林安

石。釋惠學。龍潭。川崎健明。糸屋久兵衛書。寬次

六日 柳川醫生堀江宗哲入門。來謁。塾二十餘月。位次至五級下。佳才子也。功虧一簣。惜哉。自京來者。以僧秀諦及此子爲魁云。

七日 與伊織。謙吉。散步。文山。世珉從行。過兒



玉茂。拉之同去。渡橋至中鶴。憩菅天神祠。發行厨焉。平左衛門家給茶。遂至下德瀨。謁善神王祠。歸路又憩兒玉氏。供茶酒及飯。近晚而歸。得

二詩焉。散步。入村无酒店。憩息指祠堂。步緩途難盡。談多詩易妨。孤松蒼相國。叢竹善神王。恐累倚門老。閑遊亦有方。訪有臺。家人不在。使少女供具。賦謝。禾黍離々雀可羅。圪橋西去下長坡。疎篁隔舍陶烟近。流水通邨確響多。絡秀逢忙能自辨。子猷乘興好相過。憐君青眼長依舊。世上人心易作波。

八日 中村直衛來訪。  
九日 與謙吉詣府而賀。見長谷部作藏。遂遍詣諸僚屬。了道父來見。

十日 家君饗中村直衛。使子伴食。夜始講自新錄。應勇哲請也。

十一日 招中村直衛供食。謙吉陪客。  
十二日 與茂知藏詣長谷氏。拜府君命也。勉茂知三。餘致意於子父子。

十三日 夜月色極朗。龍甫來真。仁之助來候。與賦詩。予賦題。關原秋花圖。詩今不載。

二十日 久兵衛。伊織來。議謙吉婚事。及秋風菴遺稿上梓事。春丁與別府加膳來訪。蒲池久市來訪。供晚飯。夜伊織來告別。

二十一日 起論語講。一月六回之講。自夏久廢。

二十二日 代家君草與八千坊書。專言秋風梓事。草就。家君自書使久兵衛託諸官府。

二十三日

二十四日 伯母忌辰。赴魚町祭。同座。大超寺兩僧。家君。叔父。久兵衛。仲平。謙吉。久保彌七郎

二子過訪。微雷。記氣候異也。上塚。世珉。采蘭從行。政太郎還鄉。

二十五日 伸平來話。供飯。

二十六日 改月旦評。謙三。龍甫加七級下。來真加五級上。轍。辨三加五級下。要人野世珉加四級下。正純。宗仙。仁之助加三級下。研之介。仙吾。采蘭加二級上。繁雄加二級下。元春。法雨。

十四日 夜自新錄卒業。

十五日 應長谷部衆助招。家君。謙吉。久兵衛。伸平。鉄之助同往。山本吉右衛門。諫山安民。長谷部作藏伴客。午而往。申而歸。是日中村直衛告別。夜家君守夜於龍馬森稻生祠。家人多陪焉。予往。移時而歸。

十六日 與家君以下。詣長谷部氏而謝。

十七日 藤條三郎來訪。告別。真道之日向來別。

十八日 巳時陪家君遊山。伊織。仲平。謙吉。鉄之助。及諸家眷皆往。蓋二十餘人。諸生政太郎。藤平。至中尾村松林中。發行厨焉。中尾莊屋。長尾中膳。堅吾來候。是日獲簞頗多。及申予先歸。得一

律。秋山紅葉落紛紛。採菌人來徑路分。木屐双々携。勸客。籃與綰。綰々伴。微君。煎茶竹塢朝翻雨。炊飯松林午出雲。遊賞恰逢和暖好。家歡意亦氣氣。

十九日 遠思樓詩抄開講。應勇哲及諸子請也。於集中抄其半。

開闡加一級上。等顯。深諦。真人加一級下。德令轉客席。宗哲。琳平。無物入席。琳无二字皆嘗來見。鳳兮。深齋。與五郎。周次。法林。嶺賢除名。凡一百六十人。

現在塾生凡六十人。外來凡二十一人。位至七級。唯益多。八級唯謙吉。其他未有超六級上者。今得二子。可謂盛矣。抑試業之設。使之然也。試業科建。然至六級而止者。雲平。德令。純吾。加膳。凡四人。雲平。德令。德令。拙。純吾。懶。加膳。皆虧一簣之功者。

二十七日 筑前寶珠山醫生北村順泰。初稱□□□。嘗來聽講者。

携男傳來。入門。父子皆一見而歸。謙三。龍甫享予及謙吉於西爽閣。西家西樓。近加修理。慶三升進也。

二十八日 熊懷右膳來訪。為婚事也。西家饗焉。

子伴客。移時而歸。三吉郎來。請再受業。居塾。將赴東都。到奈良湯。府君有再命。故歸家云。

二十九日 俊亮還鄉。大歸也。此人无賴。百態不俊。且註誤後進。今去不來。真大幸也。移植竹數竿。始聽會讀。檢會讀。治不也。

晦日 謙吉之山國。高木鳳水。別府加膳。轍同行。欲探其勝。作圖題詩也。予與妻往守西家。□□松菴來訪。



講<sub>二</sub>再受<sub>レ</sub>業。居<sub>レ</sub>塾。移<sub>二</sub>植竹樹<sub>一</sub>。

十月朔 釋慶端入門。大含子也。法洲赦<sub>レ</sub>過。來見。

先是有<sub>レ</sub>罪見<sub>レ</sub>擯。未<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>削<sub>レ</sub>籍。至<sub>レ</sub>是再入<sub>レ</sub>塾。易<sub>二</sub>石燈及橋位置<sub>一</sub>。宵明洞石橋元春

爲<sub>二</sub>侍者<sub>一</sub>。伴<sub>二</sub>政太郎<sub>一</sub>也。與<sub>二</sub>世珉<sub>一</sub>。采蘭<sub>二</sub>三人<sub>一</sub>。

二日 移<sub>二</sub>植木賊<sub>一</sub>。及易<sub>二</sub>石位置<sub>一</sub>。神原敬吾來訪。

三日 新<sub>二</sub>醒齋席<sub>一</sub>。

四日 陪<sub>二</sub>家君<sub>一</sub>。應<sub>二</sub>仲平招<sub>一</sub>。久兵衛。妻。亦伴食。

五日

六日 白杵人□□愛五郎來謁。請<sub>レ</sub>受<sub>レ</sub>業。置<sub>二</sub>之於

塾。時年十四。無<sub>二</sub>紹介。又不<sub>レ</sub>齋糧。憐<sub>二</sub>其幼。故始食<sub>レ</sub>之。世珉有<sub>レ</sub>疾。法

兩代爲<sub>二</sub>侍者<sub>一</sub>。與<sub>二</sub>采蘭<sub>一</sub>。元春<sub>二</sub>三人<sub>一</sub>。塾生愛<sub>二</sub>風邪<sub>一</sub>。

者極衆。至<sub>レ</sub>是二十餘人。予自<sub>二</sub>先日<sub>一</sub>覺<sub>二</sub>微感<sub>一</sub>。捨

而不<sub>レ</sub>治。是日始服<sub>二</sub>松菴藥<sub>一</sub>。自<sub>二</sub>西家<sub>一</sub>歸。使<sub>二</sub>謙三

代守<sub>二</sub>西家<sub>一</sub>。是日使<sub>二</sub>人於重富永祐家<sub>一</sub>。仲平與<sub>二</sub>直

太郎。往詣<sub>二</sub>熊懷右膳家<sub>一</sub>。皆爲<sub>二</sub>婚事<sub>一</sub>也。使<sub>二</sub>元春

往訪<sub>二</sub>魚屋長八疾<sub>一</sub>。

十六日

十七日 熊懷右膳來。婚事始決。魚屋長八。直太郎。

仲平。忠右衛門等會合議<sub>レ</sub>事。供<sub>二</sub>酒及飯<sub>一</sub>。右膳留

宿。

十八日 右膳還<sub>レ</sub>鄉。道豐告<sub>レ</sub>別。

十九日 繁雄告<sub>レ</sub>別。午後胸塞頭痛。夜不能<sub>レ</sub>熟寐。

二十日 二十一日

二十二日 病來始剪<sub>レ</sub>鬚。

二十三日 朝飯畢。將<sub>レ</sub>迎<sub>二</sub>府君歸駕<sub>一</sub>。忽患<sub>二</sub>腹痛<sub>一</sub>。

使<sub>二</sub>玄泰施<sub>レ</sub>針。移<sub>レ</sub>時而愈。乘<sub>レ</sub>輿而出。采蘭。元春

從行。將<sub>レ</sub>至<sub>二</sub>財津<sub>一</sub>。逢<sub>二</sub>之於路<sub>一</sub>。拜謁慰<sub>レ</sub>勞。歸路

待<sub>二</sub>家君<sub>一</sub>。先<sub>レ</sub>子至<sub>二</sub>財津<sub>一</sub>。同至<sub>二</sub>官府<sub>一</sub>。賜<sub>二</sub>酒及飯於前<sub>一</sub>。

同座<sub>二</sub>保刑部<sub>一</sub>。而山本。服部。長谷部。增田。村尾

諸子。及謙吉亦陪飲。入<sub>レ</sub>夜而歸。

二十四日 與<sub>二</sub>謙吉<sub>一</sub>。鉄之介<sub>一</sub>詣<sub>レ</sub>府而謝。見<sub>二</sub>近臣<sub>一</sub>。

遂詣<sub>二</sub>服部。村尾。長谷部氏<sub>一</sub>。長氏有<sub>レ</sub>饋。故往謝<sub>レ</sub>。

七日 長谷部衆助來訪。看<sub>二</sub>茂知藏疾<sub>一</sub>也。風邪家君

供<sub>レ</sub>粥。田主丸之使歸。謙吉自<sub>二</sub>山國<sub>一</sub>歸。

八日

九日 熊抱右膳。重富永祐。導<sub>二</sub>合原安藝守<sub>一</sub>來<sub>二</sub>魚

屋長八家<sub>一</sub>。爲<sub>二</sub>婚事<sub>一</sub>也。右膳過訪。供<sub>レ</sub>飯。夜高木

豐水來訪。示<sub>二</sub>耶馬溪圖<sub>一</sub>。即謙吉所<sub>レ</sub>探討<sub>一</sub>。

十日 洒掃治具。待<sub>二</sub>筑後客<sub>一</sub>。日入始至。行<sub>レ</sub>獻酬焉。

安藝守爲<sub>レ</sub>客。同座。永祐。右膳。兒玉玄龍。魚屋長

八。直太郎。夜半宴罷。三客留宿。及僕一人

十一日 朝飯畢。筑客辭去。謙吉之<sub>二</sub>魚屋<sub>一</sub>謝。

十二日 本庄恕吉過訪。

十三日 謙吉染<sub>二</sub>風邪<sub>一</sub>。□□倉吉過訪。之<sub>二</sub>筑前<sub>一</sub>也。

十四日 別府加膳辭去。先<sub>レ</sub>是塾生疾者。至<sub>二</sub>五十餘

人<sub>一</sub>。至<sub>レ</sub>是稍愈。講時禮謁者。六十五人。與<sub>レ</sub>妻小

酌。魚屋長八來。供<sub>レ</sub>飯。

十五日 以<sub>レ</sub>疾不<sub>レ</sub>出賀。釋道豐來。請<sub>二</sub>再受<sub>レ</sub>業。

二十五日 往見<sub>二</sub>仲平<sub>一</sub>。

二十六日 謁<sub>二</sub>龍馬森祠<sub>一</sub>。且訪<sub>二</sub>橋本出雲<sub>一</sub>。不<sub>レ</sub>遇。

二十七日 再訪<sub>二</sub>橋本氏<sub>一</sub>相見。有<sub>二</sub>經營志<sub>一</sub>。故咨<sub>二</sub>方位<sub>一</sub>。

二十八日 與<sub>二</sub>謙吉<sub>一</sub>。一郎。圓智。慶瑞<sub>一</sub>散步。至<sub>二</sub>淨

明寺。午<sub>レ</sub>飯於西家。改<sub>二</sub>月旦評<sub>一</sub>。龍信。麟兮。宗仙。

仁之助加<sub>二</sub>三級上<sub>一</sub>。直次。壽貞加<sub>二</sub>三級下<sub>一</sub>。十三郎

加<sub>二</sub>二級上<sub>一</sub>。了道。法雨。開闡加<sub>二</sub>二級下<sub>一</sub>。元劑。等

顯。真人加<sub>二</sub>一級上<sub>一</sub>。元章。義順。眞吾加<sub>二</sub>一級下<sub>一</sub>。松

菴。加<sub>二</sub>二級下<sub>一</sub>。慶瑞。愛五郎入席。俊亮。玄了。榮叔。玄

文。鉄平。伊八郎。善八。義庸除名。凡一百五十五

人。現在塾生凡七十二人。外來生凡十五人。

二十九日 與<sub>二</sub>妻赴<sub>二</sub>合原氏祭<sub>一</sub>。姑氏歿後七年忌辰

也。同座<sub>二</sub>不<sub>レ</sub>錄<sub>一</sub>。移<sub>レ</sub>時而歸。下關人□□□來見。采蘭<sub>二</sub>鄰人<sub>一</sub>。

十一月朔 詣<sub>レ</sub>府而賀。謙三。龍甫。法雨亦行。謝<sub>二</sub>其

賜<sub>レ</sub>金也。謙龍賀<sub>二</sub>其上<sub>一</sub>七級。法雨賞<sub>二</sub>其篤志<sub>一</sub>也。見<sub>二</sub>增田良策<sub>一</sub>。過<sub>二</sub>魚



長八。謝其爲媒也。遂問清助疾。元春隨行。夜

熊谷見順。足立可仲來見。以松浦仙葺之事也。  
仙葺壽作改稱也。欲寓於隈町。得川田健明書。知頼爲醫。諸醫惡之。故來告其故。子成死。子於三都名家。無有和識。獨斯人耳。頃欲託大舍。求詩稿評。未達而聞計。悵恨之至。以九月廿二日歿。壽蓋五十三。

二日 役密如來訪。

三日 油屋百右衛門 與諫山安民來見。亦以松

浦仙葺事也。欲得之以爲堀屋嗣也。

四日 訪魚屋長八。請其同妻來。成合昏禮也。  
來真。元春從行。辨藏。麟兮除名。犯約无度。志在怙終。故逐之。

五日 左傳講止於是日。以婚期逼也。婚期九日

六日 重富永祐使至。告以緩婚期。招魚屋長八。

兒玉玄龍同議。使魚屋直太郎。利平二子。到

筑責其負約。二子皆自我家發。婚事多障。淺田也。本鄉也。魚

思勞心多矣。今事殆成。又生紛紜。豈予業報未除耶。噫嘻。

七日 近臣角太郎忘姓來見。家君爲芝井辨藏請

十一日 筑客告別。送至橋上。發與僧德令。大

解井上直次郎。中邨直衛書。皆託永祐。詣官府。以

婚事畢。告見。增田良作。夜久兵衛自行至。來

見。

十二日 之魚町。與久兵衛謀新築事。起左傳

講。之隈町。謝勞於婚事者。魚屋長八。利平。

直太郎。丸屋茂平。采蘭從行。

十三日

十四日 請家君。以新築事。始經於齋南。

十五日 與謙吉詣府而賀。見中邨三郎。肥後人

□□天州人竹田俊山入門。來見。

十六日 之魚町。謀新築事。勢州人津坂貫之進書

至。未聞其名。蓋彼方好事家。寄示詩稿。且請觀予詩。彌六

齋。麵及菜。至。享之齋中。謙吉與焉。

十七日 十八日

十九日 雇二夫。與門生移竹於舍南。真道監

也。

八日 直太郎使至。告以婚期復約。且促謙吉親

迎。與魚屋長八。兒玉玄龍。之魚町。議。請兒玉

茂。與謙吉同發。彼請緩期。實欲負約。直太郎往。得其情。實爲人所妨也。請人居

間。其事得解。彼因請親迎。否則事將敗矣。期在明日。勿遽就路。近日仲叔皆以官事不在家。予之拮据。於是爲甚。

九日 先是長坂勇來訪。介其弟三平及門人興膳

某。相見。此日勇告別。二子已先歸云。詣府以

婚禮。告見。增田良策。又與新用人村田順藏。相

見。是日洒掃治具。待客。伸平官事始畢。亦來。入

夜謙吉與魚屋視事。直太郎先歸。鷄鳴新婦始

至。送者。岩永吉兵衛。婦之弟也。合原種雄。弟重富永

祐。熊抱右膳。媒人。及妻婢一人。僕二人。請兒玉玄

龍。合原善三郎。魚屋長八。及妻。直太郎伴客。

茂利平與客歸。合昏始畢。天已明矣。是夜彌六自豐不列宴席。

前。至。亦來應客。

十日 飲至午後。而散。余小寐於齋中。

焉。以經營故也。以真道爲食客。

二十日 雇三夫。板築。門生助之。夜合谷左膳。釋

大解來訪。賀婚也。左膳供飯。

二十一日 雇二夫。治穢水之渠。半日而畢。訪橋

本出雲。咨上梁日也。芝井辨三赦過。來見。

二十二日 使工人經焉。家君有疾。瀉下十餘

行。合原種雄來。安新婦也。松浦仙菴。將爲堀

屋義子。與其兄過訪。

二十三日 家君疾殆愈。使謙三代往賀堀屋氏。真

道之筑前。來真代監經營事。

二十四日 麟兮赦過。來見。

二十五日 使謙三之魚町。館中。大石五左衛門。前

川健吾。

二十六日 大石五左衛門來訪。且傳淺野種右衛門

命。亦來魚町。供飯。改月旦評。宗仙。仁之助。加四級下。

正純。加三級上。玄益。加三級下。東養。元春。真人



加二級下。元章。義順。眞吾加二級上。顯赫。宥  
二。孝二加一級下。一郎復原席。四級上茂吉郎。傳。常  
吉。春山入席。凡一百五十七人。弁三。鱗分。先。是除  
名。雖。赦。過。然不  
席。列。現在塾生六十八人。外來生十四人。眞道。

自筑前歸。是日。新築上梁。豐田鵬策來訪。

二十七日 謙吉與妻之筑後。彌六伴行。前川健  
吾。□□四郎右衛門來訪。亦隨。淺。野氏者。家君之仲平家  
宿。予留守會門生一話。是夜會話。予家舊例也。家君  
山。豐田鵬策。一郎。宗仙。世  
現。○景山。松浦仙巷。今稱。二更大石五左衛門來訪。  
爲講老子數章。是日上梁事畢。

二十八日 新築葺屋。

二十九日 赴府君召。引見。使擇運漕船印章  
字。且書刀銘。播州人□□春溪。僧義豐入門。來

謁。

晦日 冬至。風日清美。初二十七日。愁雲四合。天地失色。  
峭風透骨。萬象慘然。若大劫將  
至者。至是天意頓改。觀來復之早。効覺維新之有路。將  
刻意爲善。盡力進業。且卜居初就。而逢佳節。聊此志喜。  
子亦學於  
予。哀哉。

松野泰菴入門。來謁。日建厠。加藤俊民來  
訪。告別。之高田京山家賀。中村宗次死。予舊門生  
也。其四  
子亦學於  
予。哀哉。

二十二日 與謙吉詣中邨。增田二氏弔。宗次。良  
作妻舅

也。家君賜午飯。新築障子成。夜葬中村宗次。謙  
吉往會。

二十三日 新築兩戶及緣成。兩戶緣  
從俗稱。

二十四日 府君有賜於家君。往拜。引見侍酒。  
移刻而歸。夜有恙。

二十五日 以恙休講。府君賜雁。新築壁中塗  
成。中塗  
俗稱。

二十六日 詣府而拜。見增田良作。起講。作月  
旦評。一郎。元迪加五級下。惠海。淳。世珉。仁之  
助加四級上。大寂。龍信加四級下。茂知藏。直次  
加三級上。三吉郎加三級下。自性。法雨加二級  
上。常三郎。元劑。等顯。義順加二級下。肩吾。深

放學。葺屋畢。

閏月朔 二日……二十日。  
二十一日 自月首以來。拮据經營之事。不閱日  
曆。至此執筆。事無次第。府君有賜於家  
君。陪家君往謝。引見賜酒及鮫鱈。漢名  
未考。羹。

翌日。予詣府而謝。見近臣。麻生氏妹來寧。謙吉  
及子。予詣府而謝。見近臣。麻生氏妹來寧。謙吉  
與妻自筑後歸。日新築塗壁。論語講卒業。六  
日爲長谷氏。作天橋及松浦勝景圖贊。與江戶俳  
師雪丸相見。代家君作答。八千坊書。言。文  
集上

井成。新築襖成。天井襖。漢  
名未考。高田京山以享招。使謙  
吉往。饋膳於子。祖妣忌辰。赴魚町祭。同座。  
大超寺兩僧。家君。荒木吉次。大嚳幸六。叔父。久  
兵衛。仲平。謙吉。日大嚳幸六來訪。連日連夜燃  
燎於新築。防壁凍也。寒中不可造屋。  
宜以此爲戒。大津醫生

誦。宥二加一級上。三郎助。宗哲。一助加一級  
下。春溪。義豐。泰菴入席。寶幢。順益。隆元。淨寂  
除名。凡一百五十六人。現在塾生凡六十九人。外  
來生凡二十人。

二十七日 訪橋本出雲。諮轉居日。  
二十八日 二十九日

晦日 數日來專經營事。故  
日曆亦不能記事。

十二月朔 陪家君詣府而賀。賜宴饗。同座。三  
侯刑部。山本吉右衛門。升屋十治。以增田良作  
典客。家君及子。皆府君賜觴。且使之酬。客  
皆午而往。戌而歸。是日又賜謙三。龍甫。及上等  
僧。酒及雜煮於廳。以長谷部周助爲主。府君  
亦監座相見。

二日 與久兵衛詣府而謝。見長谷部周介。作十  
郎爲山本吉右衛門養孫入塾。  
三日 鋪席於新居。



四日 新居略成。是日實爲吉辰。與妻移焉。朝造赤豆粥。請家君及仲平。謙吉同妻。鉄之助。婢皆同食。午謙吉供茶飯。亦同食。午飯。仲平。鉄之助不與。夜寢焉。

五日 麻生氏妹來別。

六日 晝食於新居。夜寢於梅花塢。以新居壁未乾。畏濕氣也。

七日 眞道止寄食。歸塾。

八日 與謙吉小酌。兒玉玄龍亦會至。夜大雪。

九日 招兒玉茂議事。夜家君來話。供粥。

十日 芝井辨三復原姓。名爲福田達之助。來別。唐津侯中老子。有所避而去國。且變姓名。今得大歸也。歸云。是人才氣中子玉流亞也。唯不檢細行。故所至得罪。且先入爲主。於子門風未嘗相熟也。惜哉。

十一日 洒掃庭除。結束藩籬。於是新居殆成。唯廁未完。雇洗衣嫗。

十二日 新築開爐。

十三日 歸寢新居。以壁殆乾也。

十四日

十五日 陪家君及三侯刑部。詣府而賀。見增田良作。歸路同過魚町。午飯焉。

十六日 詣府見增田良作。府君爲宮成氏撰其名字。使子考典。

十七日

十八日 發答釋螺溪。樵禪。岩井昌元。小野彌七郎書。螺溪。豫州大洲大禪寺住持玄又師也。樵禪。實菅龍淵。今爲僧住大洲龍護山。昌元。常也父。皆託三郎助。

十九日 廁成。於是新居備。唯壁中外未畢功。將待來春塗之。招眞道會計所費。蓋百三十貫文餘。饋米五斗於眞道。以謝拮据之勞。號新居爲竹外邨莊。有十勝焉。十勝合新舊二居。數之。牽牛籬。三曰。南塢。四曰。心遠處。五曰。夜雨寮。六曰。玄々洞。七曰。北塢。八曰。醒齋。九曰。淡窓。十曰。梨花塢。舊居元有十勝。今改其名。實以五屬新。以四屬舊。其一涉二處。牽牛籬是也。

二十日 三郎助。孫三郎。常也。泰菴。肩吾告別。大五子本期。數年留學。今忽告別。由有君命也。或云。不安於塾也。

二十一日 改月旦評。輒加五級上。和一郎。仁之助。加五級下。掌珠。文山。宗仙加四級上。正純

加四級下。壽貞加三級上。研之助。浪江加三級下。惠聞。文哉。數馬。政太郎。元春加二級上。要人。宥二加二級下。顯赫。孝二。宗哲加一級上。滿達。凌雲。法洲。改稱。淳素加一級下。眞道復原席。四級榮次郎。吉次郎。僧昱。文伸。龜太郎。善市。大圓除名。凡一百四十九人。現在塾生五十人。外來生十九人。是日雪。

二十二日 二十三日

二十四日 兒玉茂來訪議事。供飯。

二十五日 魚町搗餛。全家皆往。午飯焉。同座。家君。叔父。久兵衛。仲平。謙吉。鉄之介。予先歸。是日。兒玉玄龍移居於梅保氏舊宅。遂歸新原。玄龍是村後。茂之妻疾興。故歸而看之。且以新居不便。故卜一宅。欲待女疾愈。來寓於此也。去留之事。予頗與謀焉。故

略記其

二十六日 謙三罷塾長。龍甫代之。是日微困。睫間不閉自合。

二十七日 雪。塾搗餛。放學。府君賜魚。與謙吉及塾生數人往謝。他亦。見邨田潤藏。

二十八日

二十九日 左傳講止。於是日。洒掃雇婢。名美。知。

晦日 與謙吉詣府而賀。見增田良作。初予傳家於謙吉。未請之於府。到是因增田氏以請。府君許之。隱居之稱始達內外云。遍詣本占家而謝。歸路過魚町。夜家來臨。供蕎麥及飯。三更後歸庵。予亦就寢。書生守歲於塾者。凡四十有二人。

醒齋日曆卷四終



醒齋日曆卷五

(五十二歲)

天保四年癸巳正月元日 予年五十有二。住堀田

村。居竹外邨莊。晝居淡窓。夜寢心遠處。全家無事。以卯時一起。謙吉迎供雜煮。飲屠蘇。與

妻皆往。謙吉詣府而賀。予以老在予年三十家。八。始調

今府君。爾後十四年。元旦非疾而不詣府者。拜。聖像在此。以此為始。既得清閑之福。庶守勿失矣。

家諸神。歲神在。祖先設位。讀天保詩。賦詩

試筆。塙頭梅發有鶯遷。雲影風光與謫然。恰有新居協吉卜。一家誰不萬斯年。是日天氣

清明。鄰牆梅發。新鶯送響。一如詩中語。午後

家君自魚町歸。往賀。晚迎。家君獻飯。

二日 陪家君詣魚町。午飯焉。遂同詣府賀。

予以告老得。從諸老後也。三 侯刑部。鍋屋壯吾亦往。府君引見。親賜觴焉。山本吉右衛門與焉。服部權六。增

田良作伴客。移時而退。遍賀諸僚屬。是日 府

君傳。公命。以久兵衛有疏鑿之勳。特許稱

姓。日田莊屋稱姓者。千原。坂本二氏。今乃三矣。但久兵衛止於其身。不及子孫。若町年寄稱姓。乃其私稱。非有公命云。

三日 與謙吉詣府。拜昨饗也。府君引見。因

召茂知藏。三吉郎。十三郎。壽貞。研之介。浪江。

孝治。愛五郎於前。試讀書及臨池之技。賜食及

筆墨之類。予午飯。晚飯。皆於君前。入夜而

歸。是日魚町作節。予以在府不得往焉。饋

膳。是日詣村中賀。

四日 起左傳講。與謙吉。率壽貞等。詣府而拜。

府君獨引見予。賜飯於前。是日詣市中親識數



家而賀。與采蘭。元春。謁龍馬森及大原神祠。晚招三侍者。供雜煮及屠蘇。

五日 詣府而拜。見村田潤藏。是日謙吉饗諸生。放學。

六日 家君宴諸婦。妻亦與焉。

八日 官府有御用始之宴。家君會焉。予在家。

府君使召於前。賜酒及飯。同座。家君。三保

刑部。鍋屋壯吾。升屋十次。及暮而罷。夜井上直

次郎來訪。留宿東塾。

八日 招直次郎。供飯。詣府而拜。見村田潤藏。

山本吉右衛門携其內來訪。家君。渡里梁右

衛門從焉。予與伸平。謙吉陪客。供酒及飯。日

入而罷。

九日 久兵衛來傳。府君之命。

府君以為近來門人漸減。因予傳家退隱。欲使予再出而延門人也。是日井上直次郎辭去。

十日 謙吉來。諮塾難。龍甫真道方爭故也。夜招三侍者。

解。進小食。既而復惡。惡寒之發。手足戰栗。一似

瘧疾。及其發熱。嘔氣大作。然遂不吐。苦痛難

言。唇焦舌燥。嚮雪服冰。至廿四日。惡寒不發。

自此日退。飲食稍進。及二月初。忽生浮腫。面

部手足。皆覺有腫。改藥攝養。至此腫氣亦退。

氣力益加。始得執筆記事。蓋新年以來。飲食過

度之所致。其由遠矣。所以比例不速愈。又有

變證也。嗚乎。貪口腹。輕性命。果何心哉。禍至

而悔。禍過而忘。雖千悔。何益哉。嗚乎此禍鏤骨

銘心。終身勿忘而已。二十九日。夜官府難作。

予發病初。府君召謙吉。告以有月且評。所為

不得其當者。命改舊法。謙吉雖外奉命。中

未達旨。既而改造二月月且。詣府請命。頗

忤其意。乃召反茂知藏。於是三吉郎。十三郎。

作十郎。宇佐吉。先是來學在塾。皆歸其家。如辛卯四月

例。事見前。乃閉戶廢業。初託高木豐水。後託三

話。

十一日 謙吉率門生五十餘人。至府而賀。予亦往

焉。舊例五日。以時屬尾藩夫人薨。故遷延至焉。府君受賀如例。又引

見予。申九日之命。遂詣山本氏。謝八日來訪

也。歸路過魚町。吃雜煮。同久兵衛。伸平。堀田

儀右衛門。步於村西南田間。東轉而歸。

十二日 棕野清次來訪。

十三日 謙吉作節。同座。家君。叔父。丑六。伸

平。行德元遂來訪。

十四日 十五日……二月十一日

二月十二日 初予以正月十九日日午。携來真。勇

哲。采蘭。謁祖先塚。歸與三子。喫茶菓。賞盆

梅。既散。向晚微覺惡寒。然晚飯尚如平日。二

更就寢。忽患惡心。呼起妻及門人數輩。看視。謙

吉亦至。遣人迎醫調藥。諫山安民既而寒熱交作。

唯得小吐。惡心不解。翌日熱睡發汗。心似稍

松順平。合原善三郎。謝過。皆不得命。時服部權六以疾

在。家。其他无可為。請者。故遷延不果。既而府君遣茂知藏歸塾。他

子亦歸塾。又命獻所為月且。狀似頗解。會增田

良作自筑前歸。乃使鉄之介往請。良作居間。事

勢益解。告謙吉。使以本月十五日詣府。於

是講業復常。但未詣府。不知後日事情如何

耳。嗚乎予輩山性野情。未遭官途之險。有此顛

躓。宜也。敬之哉。戒之哉。初龍甫。真道有訟事

已得解。及謙藏歸鄉。在正月末。再發。謙吉來病牀。

諮詢數四。使宗仙。龍信。正純居間。事解又結。

至此略息。而其實未釋然。云。予在病牀。逢外

內二難交作。可謂大厄。嗚乎慎哉。以下雜記赴伸

平招。同座。家君。伊織。久兵衛。謙吉。中間設

一卓子。對食。倣唐山俗也。事在病前。招伊織。食。

伊織歸。致珠。詣官府賀。正月十日府君引見。謙吉。

伊織。謙藏同謁。予先歸。三子賜酒。久兵衛之筑



前。仲平之筑後。皆府命也。在發病初權藤直來於三松氏。招之請診。謙吉。松菴陪客。諫山安民亦來會。饗之長春菴。在正月權藤直來訪。話殆終日。供飯兩度。在本月初釋密乘來訪。賀新也。仲平私自筑後。回省。官府難也。一宿而去。使人到筑前。迎久兵衛。以公事未了。不得回。小野德太郎來訪。息婦歸寧。在本月初謙吉作二月旦評。予不自作。來真。加六級下。掌珠加五級下。真導加四級上。三吉郎。壽八郎。研之助加三級上。法雨。十三郎。仙吾。圓智加二級下。松菴。等顯。義順加二級上。顯赫。孝二。宗哲加二級下。謙二。滿達加一級上。寂寞。芳卿。泰三。作十郎加一級下。勇哲復原席。宇佐吉。菊田豐水。高智照。釋政太郎。梅六郎。中服。村段次。服部入席。德令。谷藏。三郎。撮龍。龜三郎。三吾。亨除名。凡一百四十八人。其所升拔。半出府命。故殊舊例云。現在數不可知。故略。

人飯田春香從焉。

十九日 玲藏來話半日。供飯。日向人□□宗太入

門來謁。謙吉詣府。失旨後始見也府君引見。

二十日 府君命會諸生於大原。賦詩。賜行厨焉。魚屋長八來話。供飯。

二十一日 府君會諸生於永山。試臨池技。賜行厨焉。是日招平岡飯田二客。供酒。

二十二日 先妣忌辰。魚町有祭。以疾未愈。不往。使妻往會。饋膳。是日媳婦有疾。供筑二客於予家。釋海導。平野傳來訪。柳川三僧。德猛。大聽。德隨。入門來謁。先是肥後釋法海講法於我境。是日來訪。

二十三日 筑二客移於北塲。供給自西家使謙吉往

館。釋法海於長福寺。善三郎妻携小兒過訪。供飯。元次將遊白杵過訪。

二十四日 仁之助自遊京師歸。介其弟虎吉入

婦來歸。惠教告別。大歸也。壇文平書至。作報。移侍者於新塾。置新隸於東塾。故也。元春歸鄉。芳卿。茂吉郎為侍者。與采蘭。法雨。四人。采蘭復東塾。宗之助。柳川順榮。筑前百合之助。連。周防入門。來見。釋大仙來訪。供飯。舊門生也剪髮梳髮。十二日

十三日 招來真。供飯。夜長坂勇來訪。

十四日 招勇供飯。夜西元禮過訪。久兵衛自筑前歸。

十五日 謙吉詣府而賀。見近臣。失旨後始往也夜齒痛。

十六日 齒痛最甚。乞藥於權藤直。得稍愈。

十七日 精神困倦。以齒痛故也。宿病始愈。至是復小加。龍甫還鄉。大歸也。龍甫至七級下。雖時勢使然。亦可見其才矣。權藤於菟太郎。直之近藤繁入門。來見。彌六至。來見。近藤宗益來訪。謙吉。繁之父予以疾不見。

十八日 平岡玲藏來訪。太宰府儒者。與謙吉相識。留於東塾。門

門。來謁。豐前僧惠運來訪。傳海藏母命。告以海藏死

小倉醫生□□玄善入門。來謁。

二十五日 病後始詣官府。府君引見。賜宴於前庭櫻花下。服部。增田。村田。小田。長谷部。諸人同酌。既而召予。妻及來真。轍妻於城山。二生於前庭。皆賜宴焉。予及暮先歸。妻二生入夜而歸。是日春靄四興。百花盡開。風光極美。三月二日追記

二十六日 改月旦評。勇哲加五級下。龍信。正純加四級上。茂知三加四級下。圓知。采蘭加三級上。要人加二級上。深諦。元章加二級下。芳卿。凌雲加一級上。茂吉郎。晋。春山。八百江。矢庭加一級下。要人。八百江。矢庭皆出於府命連。順榮。百合之助。德隨。宗太。大聽。繁。於菟太郎。德猛。幾太郎。虎吉。隣栖。玄善。勝茂入席。藤太。元二。大榮。要作。賢之助。民太郎。宗鈞。省我。素心。惟芳。除名。凡一百五十二人。現在塾生凡七十四人。外來生凡十



一人。詣<sub>二</sub>官府。拜<sub>二</sub>昨宴<sub>一</sub>也。府君命<sub>二</sub>增田氏<sub>一</sub>設<sub>レ</sub>供。與<sub>二</sub>來真<sub>一</sub>。輒<sub>レ</sub>飲<sub>二</sub>於增田氏<sub>一</sub>。小田治兵衛。御堂方大。同座。酒終而飯。乃歸。夜舊疾復發。心胸作<sub>レ</sub>惡。召<sub>二</sub>侍者<sub>一</sub>侍<sub>レ</sub>疾。終宵苦悶。是日。使<sub>レ</sub>婢皆詣<sub>二</sub>增田氏<sub>一</sub>謝<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>妻也。

二十七日 招<sub>レ</sub>醫服<sub>レ</sub>藥。心胸轉惡。頭痛亦興。殆不<sub>レ</sub>省<sub>二</sub>人事<sub>一</sub>。及<sub>レ</sub>夜汗出。狀似<sub>二</sub>小解<sub>一</sub>。是日平岡玲藏。飯田春香辭去。

二十八日 始小食。絶食。一日既而惡寒作<sub>二</sub>瘧狀<sub>一</sub>者數四。然不<sub>レ</sub>若<sub>二</sub>前度之烈<sub>一</sub>也。午後惡寒稍止。發汗轉甚。府君賜<sub>二</sub>綿一把<sub>一</sub>。爲<sub>二</sub>茂短<sub>一</sub>。

二十九日 始覺<sub>二</sub>起色<sub>一</sub>。蓋因<sub>二</sub>汗<sub>一</sub>而解也。嗚呼此疾。亦因<sub>二</sub>飲食<sub>一</sub>也。雖<sub>二</sub>事情或不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>已<sub>一</sub>。亦內守不<sub>レ</sub>固之所<sub>レ</sub>致也。心上加<sub>レ</sub>刃。其可<sub>二</sub>片時忘<sub>一</sub>乎。

晦日 三月朔 長門人伊東長藏入門。來見。

復<sub>二</sub>舊法<sub>一</sub>也。上等與<sub>二</sub>中下等<sub>一</sub>訟興。

九日 訟事益結。予私呼<sub>二</sub>勇哲<sub>一</sub>。喻<sub>レ</sub>之。不<sub>レ</sub>可。夜和一郎。勇哲。文山去<sub>レ</sub>塾。世珉自竄。反掌珠於家。夜半伸平。彌六。來謀<sub>二</sub>事<sub>一</sub>。是日大和人佐々木雲造。中津人□□□來見。是日復講<sub>二</sub>左傳<sub>一</sub>。先是<sub>二</sub>是議<sub>一</sub>。吉代講。

十日 久兵衛。伸平。彌六。謙吉來話。飲酌移<sub>レ</sub>時而散。猶議<sub>二</sub>訟事<sub>一</sub>也。緒方渙兮來訪。介<sub>二</sub>石人□□<sub>一</sub>玄肅<sub>二</sub>入門<sub>一</sub>。

十一日 和一郎。勇哲。文山。去之<sub>二</sub>豐前<sub>一</sub>。昨日寓<sub>二</sub>故<sub>一</sub>。長兵衛家。服<sub>二</sub>安民藥<sub>一</sub>。止<sub>二</sub>於是日<sub>一</sub>。蓋五十日百五十貼。

十二日 袋屋要六。爲<sub>二</sub>和一郎等<sub>一</sub>謝<sub>レ</sub>事。遂得<sub>レ</sub>解。三子復<sub>レ</sub>門。三子猶寓<sub>二</sub>長兵衛家<sub>一</sub>。子之將<sub>二</sub>退隱<sub>一</sub>也。筮<sub>レ</sub>之。遇<sub>レ</sub>屯之<sub>二</sub>隨<sub>一</sub>。象辭曰。雷雨之興滿盈。天造艸味。宜<sub>レ</sub>建<sub>レ</sub>侯而不<sub>レ</sub>寧。予傳<sub>レ</sub>家之志。遂決。而恐<sub>二</sub>不寧之有<sub>一</sub>徵。至<sub>レ</sub>是果然。

十三日 十四日 長沼武三右衛門。携<sub>二</sub>子靱負<sub>一</sub>來訪。去冬去<sub>二</sub>中津<sub>一</sub>來。藤兵衛少<sub>二</sub>予一歲。予在<sub>二</sub>伯父家<sub>一</sub>時。寓<sub>二</sub>此<sub>一</sub>。境<sub>二</sub>云<sub>一</sub>。

二日 鄰栖幾太郎來見  
三日 以<sub>レ</sub>疾不<sub>二</sub>出賀<sub>一</sub>。謙吉詣<sub>レ</sub>府。府君有<sub>レ</sub>恙。不<sub>二</sub>親受<sub>一</sub>賀。是日栽<sub>二</sub>松二十餘株於庭<sub>一</sub>。釋法霜來訪。話次始聞<sub>二</sub>法觀死<sub>一</sub>。月桂放逐。法觀以<sub>二</sub>去冬<sub>一</sub>死。善男子。惜哉。月桂之放。數年前也。由<sub>二</sub>轉<sub>一</sub>。派事<sub>二</sub>云<sub>一</sub>。

四日 五日 六日 塾生遊<sub>レ</sub>山。放學。家君。妻。謙吉夫妻。皆行。予守家。呼<sub>二</sub>和一郎。勇哲。世民。眞道。文山。圓智。采蘭。小酌。妻晚歸來。告<sub>二</sub>家君守<sub>一</sub>夜於鬼城僧菴。使<sub>レ</sub>人齎<sub>二</sub>飯釘<sub>一</sub>而往。是日長谷部衆助傳<sub>二</sub>府君命<sub>一</sub>。使<sub>レ</sub>考<sub>二</sub>其所<sub>一</sub>作文。宇佐大宮。司系圖跋。是日彌六來話。供<sub>レ</sub>飯。

七日 家君自<sub>二</sub>鬼城<sub>一</sub>歸。伸平。彌六來話。供<sub>二</sub>饌羹<sub>一</sub>。八日 發<sub>レ</sub>答<sub>二</sub>山本清太郎<sub>一</sub>書。來書言<sub>二</sub>予集<sub>一</sub>。自<sub>二</sub>唐山<sub>一</sub>回。事。權藤直歸<sub>二</sub>筑後<sub>一</sub>。謙吉往別。寓<sub>二</sub>三松氏<sub>一</sub>。是日。芳卿。茂吉郎罷<sub>二</sub>侍者<sub>一</sub>。唯采蘭留侍。其他三十餘人。輪次直日。

十五日 詣<sub>レ</sub>府而賀。見<sub>二</sub>村田順藏<sub>一</sub>而歸。妻與<sub>二</sub>謙吉<sub>一</sub>會<sub>二</sub>藤兵衛葬<sub>一</sub>。

十六日 先<sub>レ</sub>是原春軒來。留<sub>二</sub>西家<sub>一</sub>。是日招供<sub>二</sub>鮓及飯<sub>一</sub>。謙吉伴<sub>レ</sub>客。大村人□□禮<sub>二</sub>三郎來見<sub>一</sub>。

十七日 與<sub>レ</sub>妻應<sub>二</sub>謙吉請<sub>一</sub>午飯焉。同座。家君。原春軒。江州曾根人大岡廉平來見。館<sub>二</sub>西家<sub>一</sub>。林祭酒門人也。

十八日 招<sub>二</sub>大岡廉平<sub>一</sub>。供<sub>二</sub>酒及飯<sub>一</sub>。謙吉伴客。□□禮<sub>二</sub>三郎辭去<sub>一</sub>。

十九日 項背強。心胸滿。蓋昨飲作<sub>レ</sub>祟也。廢<sub>二</sub>左傳講<sub>一</sub>。大岡廉平辭去。小野德太郎。二宮慎齋來訪。

二十日 病狀稍解。與<sub>二</sub>前月二十七日之症<sub>一</sub>類。但轉輕耳。昔過<sub>レ</sub>之以往。有害无<sub>レ</sub>益。酒不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>飲。易<sub>レ</sub>生<sub>二</sub>留<sub>一</sub>。飲<sub>二</sub>糕餌餡糖<sub>一</sub>。尤不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>食。若<sub>二</sub>踐<sub>一</sub>此言。庶幾近矣。和前一平。西元禮過訪。聞<sub>二</sub>原采蘋死<sub>一</sub>。謙吉聞<sub>二</sub>諸廉平<sub>一</sub>。未<sub>レ</sub>審<sub>二</sub>信否<sub>一</sub>。肥前人山本一次郎入門。來謁。始設<sub>二</sub>蚊幃<sub>一</sub>。

爲<sub>二</sub>竹馬交<sub>一</sub>。其人良善。嗚乎哀哉。



二十一日 起左傳講。

二十二日 伊織至。夜講陰陽錄。聽者真道。采蘭。茂吉郎。

二十三日 約言開講。釋廓然過訪。晚與采蘭。法

雨。德髓散步。謁莊手菅庵。

二十四日 塗壁畢。塞爐。聞塾有盜變。作十郎。失衣三

彌六來別。筑前人山鹿主計入門。來謁。良甫子也。

二十五日 伊織來別。發答大石五左衛門。荒木吉

次書。託鉄之助。

二十六日 改月旦評。宗仙加五級下。法雨加三

級上。數馬加三級下。貫什加二級上。謙次。滿

達。芳卿加二級下。茂吉郎。晋。春山加二級上。

德三。竹太郎。春溪加二級下。谷藏。加二級上。素雄。一

次郎。元韶。長藏。德海。主計。玄肅入席。數子蓋皆

失。寬次郎。泰助。文亮。祖要。安藏除名。凡一百五

十五人。現在塾生凡六十五人。外來凡二十二人。

吉講小學。

二十九日 招安藝守。供酒及飯。謙吉伴客。朝飯

畢。謙吉之筑前。以家君命。調產八幡祠。新鉄之助妻安産也。文山。茂

知三隨行。詣府與增田。長谷部。村田三子。相

見。議昨來事。乃回。再改撰月旦評。命壽八郎

淨寫。是日筑後善導寺住持僧過門。塾生喧嘩

失禮。與書久兵衛。使爲謝。安藝守辭去。仙

吾。顯赫。元章。凌雲犯約。外出飲食幽之於塾。釋門

惠上京。來別。

四月朔 家語開講。詣府而賀。且上改撰月旦評見

增田良作。改撰月旦。大寂加四級下。重三郎加三級上。谷藏。黜爲二級下。此府君之命也。責讓之意亦爲

也。又見小田治兵衛。議仙吾事。乃歸。使來真

再詣小田氏。處置仙吾四子罪。仙吾奪三百點。顯赫。元章奪二百五

十點。凌雲奪二百點。皆菅龍也。彦山教智

坊樵禪過訪。久兵衛來。報善導寺事解。愛五郎

竊盜事發。幽之於塾。釋祥雲上京來別。

醒齋日曆卷五

永富生民入門入席。凡一百五十六人。外來午時赴

長善寺詩會。謙吉。和一郎。世珉。文山。法雨。仙

吾。一次郎隨行。地主玄海。僧門惠。蒲池久市同

座。申時歸家。合原安藝守來訪。留於西家。往見。

發與昭陽先生。平岡玲藏書。昭陽書中包三方金一

爲一圭。謙吉。封皆託謙吉。左傳講卒業。

二十七日 西家伴安藝守飲。

二十八日 叔母忌辰。上町有祭。使妻往會。遺膳

於子。賦春盡詩。課題。再考。鶯歸蝶去使人嗟。世事紛

紛日易斜。既老身如僧退院。未閑心似客思

家。孟宗冒雨參差筍。杜宇含風窈窕花。欲餞

東君。無美酒。竹爐烟起坐煎茶。此近來實錄也。

夜官府難還作。與謙吉。來真詣府。先詣增田

氏。不遇。詣臺所。見長谷部衆助。村田潤藏。陳

謝。增田良作亦出。爲請。府君。府君使之責讓

數四。事稍得解。歸舍則雞鳴矣。是日始代謙

二日 釋法律來訪。僧樵禪。教智坊來別。再塗壁外

面。善市來。請再受業。

三日 愛五郎亡去。

四日 福田一覺。使人來訪。發答書。芝井辨藏。變姓名。塗壁

畢。俵屋幸六家。得愛五郎囚之於家云。叔父

來話。供飯。

六日 謙吉自筑前歸。文山。茂知藏從焉。歸仙吾

等四子於塾。得昭陽先生報書。

七日 夜詣魚町。候家君也。一昨五日。因詣大超寺。而留。伸平家。

八日 放愛五郎歸鄉。

九日 筑後人山田左次郎來見。謙吉供晚飯。與妻

往。長坂勇來訪。

十日 勇告別。高田京山導生父松浦。來訪。

別後三十六年矣。

十一日 誕辰迎家君。獻飯。謙吉夫婦。阿皆亦

五二三



來。妻有眼疾。雇炊婢。肥前人三箇島一左衛門。野田又七。原田小四郎。宮崎德一郎過訪。宗仙仁之助友也。反小學講於謙吉。午時謁大原及宮大夫。神祠。琳平從行。謙吉迎於路。是日將訪鹽屋平右衛門。有故不果。

十二日 劣亭來訪。致松川良泰。周山改稱書。留之於家。下葬花種。與謙吉詣菊田鐵藏家。賀其歸宅。且謝其贈也。過山本氏。致畫贊夜放螢於北塢。

十三日 釋大有。豐前正行寺院主。舊塾生也。過訪。長沼敦負引中津人島田虎之助來見。晚與劣亭。正純散步。十四日 劣亭辭去。發答松川良泰。金苗元長書。託劣日出士人米良倉次郎。竹野安太郎。小川民德來見。帆足里吉門人也。

十五日 詣府而賀。伺候移時。見近臣。富太郎而歸。仙吾。元章。泰藏犯約擯出。特許不削其籍。

列石於南塢。

二十三日

二十四日 激水通池。發答津坂貫之進書。包詩稿送之於大坂。託鉄之助。

二十五日 赴魚町賀宴。同座。諫山安民。兒玉玄龍。丸屋與次兵衛。叔父。魚屋直太郎。助七。茂兵衛。仲平。謙吉。

二十六日 改月旦評。和一郎加五級上。茂知藏加四級上。壽八郎。圓知。三吉郎。加四級下。義順加三級下。常三郎。元劑。深諦加二級上。茂吉郎。春山加二級下。矢庭。八百江。作十郎加一級上。琳平。文亨。一次郎加一級下。圓備。二級恕助下民太郎改稱。善市。一。文徽。他石。天然。徹照。惠雲。增次郎。伸次郎。八六。賢次。與吉。伸吉。倉吉入席。寬吾。俊平。玄叔。愛五郎。禮藏。良助除名。凡一百六十六人。現在塾生五十九人。外來生。三

十六日

十七日 兒玉茂來訪。小酌供飯。謙吉亦來。夜鉄之助妻生女。家君始得曾孫也。

十八日 詣魚町賀。是日腹中停滯。二便不利。蓋昨飲爲祟也。

十九日 之魚町請兒玉玄龍藥三貼服之。時玄龍在穿小池於南塢。

二十日 裁莎於池岸。之中村泰右衛門家。議秋風菴遺稿序文事。代家君發答浪華八千坊書。

二十一日 府君賜魚於家君。予與久兵衛往謝。見村田順藏。歸路過魚町。午飯。同座。家君。久兵衛。謙吉。同喫賜魚也。始服安民藥。蓋至十五六貼。

二十二日 合原氏有祭。善三郎祖父。二十五年忌。與妻往。同座長福寺兩僧。賢杖。中邨海藏。鉄之助。酢屋佐左衛門。子之作改稱俵屋幸六。龜之助。吉次郎。藤吾。是日

十四人。

改造池水製。反雇婢。徹照。惠雲二僧來謁。發答釋德令書。託

二十七日 入春始浴。三吉郎贈酒肴於家君。予與妻皆往陪食。慶其進上等也。予謙吉塾生。皆有贈焉。

二十八日 政右衛門。辰之丞襲父稱來訪。府君賜酒肴。慶茂知藏轉席也。往西家。陪食於家君。如三吉郎例。

二十九日 與謙吉。來真詣府而謝。見邨田順藏。遂詣服部。山本二氏謝。山本頃贈金發答小林安石書。包絹二葉子墨跡。法雨歸鄉故託。聞佐藤渙夫。高田京

山妻死。福井元泉入門。來謁元貞。玄益改稱見也。晦日 初塗壁。第三回也。詣佐藤渙夫家。及今津屋。弔謙吉同行。使宗仙。正純。琳平。代往送葬。

五月朔 詣府賀。見村田潤藏。夜與謙吉。弔高田京山。且訪叔父。



二日 塗壁畢。

三日 法雨還郷。春禎介書至。致清人所評遠思

樓詩艸。

大清內廷供奉。圓明園南書房行走。瀛生許乃普序。吳中法楷題詩。廣陵石卿子批評題詩。采荔子題詩。沈萍香批評並跋。以上未知名。真蹟。比去歲所得。願藉韓詩二序。較覺醇真。要當待具眼者辨之。

四日 發答春禎助。太田梁平。福田猶之進。山本

清太郎。鳩居琢磨書。

託魚屋直太郎。

行德元遂來訪。為

講約言數則。

五日 陪家君及鍋屋壯吾詣府賀。府君延見

賜酒飯。同座山本吉右衛門。以下數人。

六日 與謙吉詣府而謝。府君延見賜酒。同座

服部。長谷部。增田三子。塗壁一日而畢。

七日 與謙吉詣府而謝。見邨田順藏。政右衛門

告別。勳平自筑後至。定聞中垣淳菴死。

八年 勳平。兒玉茂來話。皆供飯。轍帖壁紙。亦

入塾。疾如昨。

十六日 幾太郎。主計入塾。顯赫出塾外宿。松菴

來。介久留米人築山元衛入門。皆居外舍。

十七日 世珉去塾外宿。一郎代為新樓勸學。松

菴。元衛入塾。夜龍信告和一郎以昨暮亡去。

是日咳作。

十八日 使數馬。貫什之筑後。以和一郎亡報其

家也。來真有疾。正純攝都講。是日咳甚。頭痛。

十九日 貫什歸塾。搜得和一郎云。亡在其

菴加減法。咳嗽頭痛稍減。使宗仙詣府。

二十日 府君之新田。家君送於路。恕助送府

君不反。家君有恙。留魚町。使松菴往候

安否。

二十一日 使松菴往候。家君和一郎來謁。

二十二日 淳素歸塾。恕助歸塾。使宗太往候

家君。

供飯。

九日

十日 招勳平供飯。

十一日 代謙吉為塾政。

十二日 身有微熱。如感外邪者。蓋昨冷風為祟

也。胸膈亦鬱。因飲酒也。

十三日 遂成風邪。服春山藥。葛根湯。移竹於南

塢。元昭去塾外宿。

十四日 疾似小進。一郎入塾。

十五日 分付課程日記於諸塾。

入塾。疾如昨。

二十二日 一郎携元章還郷。發與加峯礪梁

書。一郎之來。本為元章謝過。且請歸塾也。不許其始

用木履於西塾。西塾欲行及他塾也。名曰融道木履。

二十四日 筑後醫生中垣淳石入門。良明家。是日。

胸鬱頭痛。

二十五日 改月旦評。宗仙加五級上。正純加五

級下。義順加三級上。圓備。宥二。宗哲。謙二。春

山加二級上。矢庭加二級下。德三。竹太郎。春溪

一次郎加一級上。連。智照。無物。元韶。一加一

級下。元泉。元衛。竹次。淳石入席。宜圓。元章。泰

三。法圓。杏之助。除名。凡一百六十五人。現在塾

生六十五人。外來生三十四人。

二十六日 家君有浮腫症。招諫山安民診視。改藥

方。始食禁。四五年來常有微腫。服安民藥。然不為大

害。至此始進。所希攝養無意。速致全快。

二十七日 為蒲池久市所招。以病未愈不往。



謙吉獨往。麟兮來留丁舍。以二世珉爲丁舍勸學。丁舍下。道政家。使丙舍諸生直隸東塾。丙舍肥後屋嘉助等。今改之。家君腫氣小加。發與久兵衛書。報家君疾。且言。數馬歸塾。役敬中辭去。石井廉藏過訪。其妹新嫁中村海藏。送之而來也。

二十八日 凌雲還郷。筑後人□□百枝入門居塾。家君疾如昨。發與伊織書。招之語。家君疾也。

二十九日 圓備還郷。日隈彦太郎再受業。家君之魚町。止仲平家。

六月朔 以疾不詣府。已時之魚町。候。家君疾。似小愈。話新齊諧十餘則。隨園三十種。謙吉新買。之新齊諧其一種也。仲平供午飯及麵。及申而歸。是日日食。不甚分明。

二日 之西塾。檢飯時式。午時之魚町。家君疾如昨。亦話新齊諧。晚飯而歸。伊織來視。家君疾。

三日 元貞。世珉。恒二郎還郷。元韶之筑後。矢庭

郷。大聽入塾。

八日 之魚町。家君復頭痛。是日病後始浴。

九日 家君自魚町歸。頭痛不發。婢皆失意。放之於魚町。予與妻朝夕侍側。移飯於菴。長坂勇

辭去。肥前人松尾政之助入門。居塾。素雄入塾。雷雨。

十日 弛夜行禁。前是數日弛作禁。皆以暑中宜養身也。雷雨。勳平

來。侍。家君疾也。

十一日 雷雨

十二日 主計還郷。

十三日 壽八郎歸塾。主水還郷。政太郎還郷。

十四日 陪。家君之魚町。觀山車。兩飯而歸。

於宗家。一於仲平家。世珉入塾。圓備。恒二郎來居乙舍。

菴婢以疾辭去。

十五日 詣府而賀。見邨田順藏。訪長沼武三右衛門僑居。近日移居。下中城。之中城。觀山車。遙拜神輿。

出塾還家。使丁舍諸生。直隸東塾。以二世珉還郷。無勸學故。之魚町。家君疾似小減。話新齊諧。晚飯而歸。始行內試業法。上等會東塾。私肆試業。

四日 謙次還郷。神德還郷。北國人飯塚環中。窪田土和過訪。之魚町。候。家君疾。疾如昨。話新齊諧。家君賜鮓。

五日 之魚町。候。家君疾。疾益減云。讀西遊記。晚飯而歸。伊織告別。壽八郎有過禁足。既而赦之。善市入塾。元韶歸丁舍。文亨。由利之助。出塾就外舍。小野德太郎携室來寓丙舍。

六日 數馬。元劑還郷。壽八郎之筑後。之魚町。家君頭痛。他證如故。話西遊記。晚飯而歸。聞諫山養賢死。年四十四。初稱清人。子高足弟子也。長坂勇將歸。伊豫。來別留塾。

七日 招勇供飯。玉井元純來訪。之魚町。家君頭痛止。話西遊記。晚飯而歸。伊織還郷。滿達還

雷雨。聞塾生與人鬪。使衆救之。乃他人也。長沼。市人。无禮。拔刀欲刺之。生民還郷。

十六日 竹田人綿屋文作來訪。二十年前所識。今在浪華。禁塾。生夜行携線香。線香點火。量時刻也。三松順平使來告。

十七日 竹太郎。圓識還郷。之魚町。見久兵衛妻。議婢皆事。素雄以貧生爲塾飯人。反炊。議。

十八日 神德還郷。

十九日 之魚町。見久兵衛妻。議婢皆事。婢皆歸菴。京師人大館謙堂來見。重富蕉五來訪。本稱莊。五郎。宇次郎兄。十七年前舊門生。

二十日 舉炊於家。婢皆歸菴。遣宗仙。仁之助。謝大館謙堂。寓後屋安兵衛家。

二十一日 大館謙堂來訪。

二十二日 轍來訪。凌雲入塾。

二十三日 使宗仙再詣大館氏。家語講卒業。夜患心下痞塞。徹曉轉轉。



二十四日 服<sub>二</sub>松菴藥。病如<sub>レ</sub>昨。掌珠入<sub>レ</sub>塾。  
 二十五日 疾小愈。改<sub>レ</sub>月旦評。辰五郎。仁之助加<sub>二</sub>五級上。淳。龍信加<sub>二</sub>五級下。重三郎加<sub>二</sub>四級下。八百江。作十郎。德三。春溪。一次郎加<sub>二</sub>二級下。琳平。知韶。一加<sub>二</sub>一級上。順榮。源仲。百合之助。元泉加<sub>二</sub>一級下。甚太郎。德太郎 變名桃枝。政之助。彥太郎入席。政太郎。英山。勝六。了性。男也。諦道。安碩。冷然除名。凡一百六十二人。當有<sub>二</sub>一百六十一人。未審<sub>二</sub>其故。現在塾

生凡五十六人。外來生凡三十八人。再考凡一百六十一人。初使<sub>二</sub>人通計。有二名二數者。故誤。  
 二十六日  
 二十七日 始用<sub>二</sub>融通履於諸塾。  
 二十八日 原仲。琳平。桃枝還<sub>レ</sub>鄉。開<sub>二</sub>世說講。  
 二十九日 以<sub>二</sub>正純<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>西塾勸學。與<sub>二</sub>勇哲。眞道。三人。世珉爲<sub>二</sub>東塾勸學。代<sub>二</sub>正純<sub>一</sub>也。暴雷。

醒齋日曆卷五終

醒齋日曆卷六

七月朔 謙吉詣<sub>レ</sub>府而賀。家君之<sub>二</sub>魚町。晚往奉訪。移<sub>レ</sub>時而歸。  
 二日 始浴。病來始浴也。和一郎還<sub>レ</sub>鄉。轍辭去。采蘭有<sub>レ</sub>過。幽<sub>二</sub>之西塾。義順爲<sub>二</sub>常侍。  
 三日 瀉下兩行。家君有<sub>二</sub>目疾。遣<sub>レ</sub>人招<sub>二</sub>行德元。遂。以<sub>レ</sub>疾不<sub>レ</sub>來。寄<sub>二</sub>點藥。  
 四日 采蘭赦<sub>レ</sub>過。來見。歸<sub>二</sub>之東塾。爲<sub>二</sub>使令。夜夢得<sub>二</sub>一絕。咏<sub>二</sub>古戰場。曰。天空野澗望茫然。竹杖行吟落日邊。借問戰場何處是。唐家流水漢家烟。結句難<sub>レ</sub>通。  
 五日 高祖考忌辰。魚町有<sub>レ</sub>祭。同座。大超寺兩僧。家君 叔父。仲平。謙吉 鉄之介。筑前醫生□□敬哉入門。居<sub>レ</sub>塾。爲<sub>二</sub>家君<sub>一</sub>講<sub>二</sub>漢書。石井默齋京屋四郎兵衛亦來陪聽。講後賜<sub>レ</sub>食。

六日 元衛還<sub>レ</sub>鄉。松菴送<sub>レ</sub>之。  
 七日 與<sub>二</sub>謙吉<sub>一</sub>詣<sub>レ</sub>府而賀。諫山哲藏擯出數年。至<sub>レ</sub>是赦<sub>レ</sub>過。來見。佐野宏以書爲請。敬哉得<sub>二</sub>疾於市店。遣<sub>レ</sub>人看視。  
 八日 先是勳平來視<sub>二</sub>家君疾。是日入<sub>レ</sub>塾。敬哉疾痊。  
 九日 家君留<sub>二</sub>魚町。往而奉候。晚飯而歸。謙三告<sub>レ</sub>別。大歸也。謙三在<sub>レ</sub>塾四年。位次至<sub>二</sub>七級下。益多以後一人也。其才力。則恒遠。重富。井上數子倫匹也。庶幾中道不<sub>レ</sub>怠。晚節大成。廉吾來訪留<sub>レ</sub>塾。去年來。在<sub>二</sub>攝州。教授。  
 十日 之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>奉<sub>二</sub>候。家君。晚飯而歸。彌六自<sub>二</sub>筑前<sub>一</sub>至。代<sub>二</sub>久兵衛<sub>一</sub>築<sub>二</sub>新田堤。事畢而歸。  
 十一日 家君使<sub>二</sub>人來召。之<sub>二</sub>魚町。晚飯而歸。仁之



助。虎吉。政之助還<sub>レ</sub>鄉。貫什入<sub>レ</sub>塾。

十二日 家君歸<sub>レ</sub>菴。春山還<sub>レ</sub>鄉。

十三日 曾祖考忌辰。會<sub>二</sub>魚町祭。同座。大超寺兩

僧。家君。叔父。仲平。謙吉。鉄之介。世珉。文山還<sub>レ</sub>鄉。深諦還<sub>レ</sub>鄉。

十四日 放學兩日。是日謁<sub>二</sub>龍馬森稻生祠。禱<sub>二</sub>家

君疾<sub>一</sub>也。家君留<sub>二</sub>魚町仲平家。往候<sub>レ</sub>之。與<sub>二</sub>謙吉。上塚。遍到<sub>二</sub>邨中。

十五日 詣<sub>レ</sub>府而賀。見<sub>二</sub>村田順藏。遂遍詣<sub>二</sub>諸僚屬。

夜之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>也。下同。候<sub>二</sub>家君。仲平供<sub>レ</sub>酒。麟兮。由利之助。連。犯<sub>レ</sub>約。撥<sub>二</sub>出麟兮。幽<sub>二</sub>由利之助。連於塾。

十六日 起<sub>レ</sub>講。之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>候<sub>二</sub>家君。謁<sub>二</sub>稻生祠。

十七日 慈等法尼忌辰。招<sub>二</sub>來真讀經設<sub>レ</sub>齋。連亡去

塾。告<sub>二</sub>諸生。以<sub>二</sub>麟兮。連。擯出之事。削<sub>二</sub>去月且。今年再遊。以<sub>二</sub>自新<sub>一</sub>爲<sub>レ</sub>名。然行事不改。加之註<sub>二</sub>誤僚友。蓋其志在<sub>レ</sub>報<sub>レ</sub>怨也。予輩不<sub>二</sub>早察。遂致<sub>二</sub>紛紜。憤哉。其黨猶多。今不<sub>二</sub>具

二十四日 午飯後疾作。惡寒惡心。輾轉到<sub>レ</sub>晚。來真以下數輩看視。招<sub>二</sub>諫山安民調<sub>レ</sub>藥。凡吐<sub>二</sub>三回。稍得<sub>二</sub>解釋。夜深發<sub>レ</sub>熱而汗。雇<sub>二</sub>婢。服<sub>二</sub>安民藥。蓋

二十五日 午時始小飯。昨暮及今朝不<sub>レ</sub>食。頭痛背強。招<sub>二</sub>高田京山<sub>一</sub>針<sub>レ</sub>頭。廢<sub>二</sub>世說講。林平。深諦。滿達入<sub>レ</sub>塾。元泉。宗哲還<sub>レ</sub>鄉。文徽去<sub>レ</sub>塾。寓<sub>二</sub>下道。改<sub>二</sub>月且評。甚太郎加<sub>二</sub>五級上。采蘭。永錫加<sub>二</sub>四級下。中錫。深諦加<sub>二</sub>三級下。芳卿。茂吉郎。一次郎加<sub>二</sub>二級上。順。素順。榮。元韶加<sub>二</sub>一級上。順吾。善市。宗太。素雄加<sub>二</sub>一級下。龍甫。轍轉<sub>二</sub>客席。敬哉入席。

世珉。文山。連除名。凡一百五十九人。現在塾生四十七人。外來生三十三人。

二十六日 諸症益退。常<sub>二</sub>三郎歸<sub>レ</sub>塾。

二十七日 龍信歸<sub>レ</sub>塾。以<sub>二</sub>正純。龍信。爲<sub>二</sub>西塾勸學。真道罷<sub>二</sub>勸學。主簿如<sub>レ</sub>故。勇哲轉<sub>二</sub>東塾勸學。

二十八日 得髓。德猛還<sub>レ</sub>鄉。春山歸<sub>レ</sub>塾。叔父贈<sub>レ</sub>書

列。赦<sub>二</sub>由利之助。之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>候<sub>二</sub>家君。飯焉。觀<sub>レ</sub>戲。是日菴浚<sub>レ</sub>井。謁<sub>二</sub>稻生祠。託<sub>二</sub>蒲池久市。之<sub>二</sub>願正寺。開<sub>二</sub>掌珠麟兮黨也。志在<sub>二</sub>出亡。故報<sub>二</sub>其父。

十八日 家君命召。之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>。午飯而歸。謁<sub>二</sub>稻生祠。伸平招。往而晚飯。發<sub>二</sub>與<sub>二</sub>菊池要人<sub>一</sub>書。或云世民欲<sub>二</sub>不<sub>レ</sub>告<sub>二</sub>父遊。故報<sub>二</sub>知之。於<sub>二</sub>魚町。

十九日 謁<sub>二</sub>稻生祠。之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>候<sub>二</sub>家君。

二十日 雷。浚<sub>レ</sub>井。放學。百合之助出<sub>レ</sub>塾外宿。

二十一日 之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>候<sub>二</sub>家君。晚飯焉。

二十二日 謁<sub>二</sub>稻生祠。逢<sub>二</sub>家君。至。隨行而歸。家君遂留<sub>二</sub>西家。夜歸<sub>レ</sub>菴。仁之助來。居<sub>二</sub>乙菊池要人使<sub>二</sub>二人來謝。謝<sub>二</sub>世珉出亡之事也。

二十三日 與<sub>二</sub>謙吉。赴<sub>二</sub>蒲池久市招。一次郎從行。同座。掌珠。淨寂。森成策。宴<sub>二</sub>於新堂。得<sub>二</sub>一律。及<sub>二</sub>暮而歸。蒲君逸爲<sub>二</sub>家君<sub>一</sub>築<sub>二</sub>室。號曰<sub>二</sub>願齋。一日招飲。築堂新奉白頭翁。應<sub>二</sub>與<sub>二</sub>先賢養<sub>レ</sub>志同。唯有<sub>二</sub>溪聲來<sub>二</sub>耳裏。絕無<sub>二</sub>家事到<sub>二</sub>心中。遊魚上<sub>二</sub>符今朝雨。墜粟堆<sub>レ</sub>庭。昨夜風。沉愛何關及<sub>二</sub>人老。一尊相對亦融々。政太郎入塾

託以<sub>二</sub>家事。鹽屋平右衛門以<sub>レ</sub>書相招。以<sub>二</sub>疾未<sub>レ</sub>愈辭。

二十九日 芳卿歸<sub>レ</sub>塾。宥<sub>二</sub>二還<sub>レ</sub>鄉。廉五出<sub>レ</sub>塾次<sub>二</sub>乙舍。

晦日 之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>議<sub>二</sub>叔父退隱事。遂訪<sub>二</sub>叔父。八月朔 詣<sub>レ</sub>府而賀。見<sub>二</sub>菊田鉄藏。撰<sub>二</sub>刀銘三條。府君有<sub>二</sub>命。遂詣<sub>二</sub>諸僚屬。歸路過<sub>二</sub>魚町合原叔父。既歸。謁<sub>二</sub>稻生祠。午後。謙吉與<sub>二</sub>森成策。釋<sub>二</sub>玄海。門惠。祥雲。圓智。來會賦<sub>レ</sub>詩。日向人杉田平三郎入門。居<sub>レ</sub>塾。禁<sub>二</sub>諸生夜行。諫山哲藏來。止<sub>二</sub>於諫山安民家。往來受<sub>レ</sub>業。松菴來<sub>二</sub>舍<sub>一</sub>外舍。

二日 詣<sub>二</sub>稻生祠。痰與涕下。感<sub>二</sub>風邪<sub>一</sub>也。貫什還<sub>レ</sub>鄉。敬哉出<sub>レ</sub>塾外舍。

三日 疾如<sub>レ</sub>昨。服<sub>二</sub>松菴藥。知韶入<sub>レ</sub>塾。休<sub>二</sub>世說講。四日 禁<sub>二</sub>塾生自造<sub>レ</sub>釘。疾稍愈。家君守<sub>二</sub>夜於稻生祠。使<sub>二</sub>來真往候。



五日 等韻。難量歸塾。前疾益愈。而患四肢困倦。少氣多眠。難量司炊飯。代雄也。

六日 壽八郎入塾。馬陵春溪改稱出塾外舍。淳吾還

鄉。新始蒙求講。使廉吾任之。

七日 使仁之助詣宰府。會釋奠祭。平岡玲藏近舉仲秋上丁日。去遮日之藪。暑退故也。移座於北塙。

八日 起世說講。謁稻生祠。叔父來話。供飯。

九日 遙拜孔祠。淺江入塾。謁稻生祠。原仲。

世民筑前入塾。松本保三郎九藏改稱舊門人也書至。致其師大鹽平八郎所著洗心洞割記。

十日 發答松本保三郎書。託竹田古田當上。託鉄之助。謁稻

生祠。午飯小酌。豆田人松浦安次入門。

十一日 釋周邦來訪。留之於家。謁稻生祠。

十二日 謁稻生祠。彌六携妻女來。使妻往魚

町。應接。是日胸鬱。然不至太甚而止。

十三日 午飯後疾作。心下痞塞。晝間寒慄。入夜而

左衛門來訪。清記妻兄與妹共來。館於魚町。午時與謙吉遊新

原。廉五。鉄藏。正純。采蘭。世民。直次郎從行。訪

兒玉玄龍。慰黑男祠。玄龍饋以茶果酒飯。及暮

而歸。得一絕。黑男祠下復經過。秋柳蕭疎水始波。此地一來傳一首。詩人何厭拜神多。

二十六日 改月旦評。孝二加二級上。凌雲。一。順榮

加二級下。文亨。無物。善市加一級上。大聽。政太

郎。德髓。宇佐吉加一級下。宇佐吉自客席轉。平三郎。仲

猪吉。安次。元可。德滿。佐一郎。哲藏客席入席。

了性。春亭。劣亭。仙吾。惠教。三郎助。常也。

孫三郎。轍除名。凡一百五十八人。現在塾生五

十七人。外舍生。三十四人。謁稻生祠。真道歸

塾。土佐人赤石大藏入門。居塾。勇哲爲新塾勸

學。代宗仙。

二十七日 出遊。謙吉。真道。鉄藏。甚太郎。浪江。凌

雲從行。過善光寺。慰太神宮。發行厨焉。是

日暄甚。先是舉塾遊山。予以疾不往。故有此行。

熱。服松菴藥。發汗。此般無嘔吐之專。

十四日 精神困蒙。自汗不止。少食粥。廢世說

講。

十五日 疾始得解。起坐半日。食亦得進。比前月廿四日症。則初發頗輕。而後來停滯差久。以疾不出賀。仁之助自筑前歸。

十六日 安次入塾。森人園田仲。園田猪吉入門。居塾。主水入塾。

十七日 一助還鄉。十八日

十九日 招客供飯。彌六及妻。及女。麻生氏妹及兒。獻膳於家君。

二十日 二十一日

二十二日 得髓。德猛入塾。柳川人元可。釋德

滿入門。居塾。周邦還鄉。豐田鵬策來訪。

二十三日 真道之筑後。

二十四日 起世說講。叔父來話。供飯。

二十五日 宗仙。一次郎還鄉。謁稻生祠。前田孫

二十八日 朝訪諫山安民。乞藥。治淋之藥。服此藥。此般合十二貼。詣稻生祠。午時疾作。更服松菴藥。胸寒體倦。寒熱往來。以下九月十六日。廢世說講。

二十九日 廢世說講。

九月朔 以疾不出賀。龍信出塾外舍。

二日 辰五郎來訪。止塾。

三日 使塾生往賽大原神祠。凡三百詣。自燈下。到祠壇。報今春官府難之祈也。惠海。圓智入塾。圓智爲西塾勸學。信也。

四日 疾起。起世說講。

五日 元迪。直次。竹太郎。圓識。淳吾入塾。

六日 高田人金男入門。居塾。植木赫平妻甥也。源仲之高鼻。奔佐藤賢藏喪也。賢藏初稱衛平。二十三年前。

七日 媳婦歸寧。辰五郎之日向。凌雲出塾外舍。無物之中津。

八日 源仲歸塾。淺江還鄉。仁之助告別。大歸

日暄甚。先是舉塾遊山。予以疾不往。故有此行。

醒齋日曆卷六



也。仁之助在塾一年半。位次至五級上。才子也。此行遊江戶云。

九日 元劑歸塾。先是與謙二。晉來。到塾。是入塾。二子外宿。以疾未全愈。不出賀。鹽屋平右衛門過訪。供飯。

十日 孝次還鄉。造舍西北隅籬。合之於二塙。

十一日 謙吉之別府。沐溫泉也。淳。文享從行。

託淳謁日出桂峯公墓。妻有祈焉故。元迪。眞道留守

西家。惠海爲新樓勸學。代淳也。詣府見邨田潤

藏。府君親撰刀銘。質之於子。往答其旨也。過長谷部氏。過魚町。

觀新造室。土木之美。本縣未觀。有觀之喜懼交至。供午飯。

十二日 大移竹樹。合南北二塙爲一。除中間籬。塾生皆役。善市還鄉。甘木人藤田禮太郎。僧

最勝入門居塾。

十三日 彌六及家眷還鄉。之魚町作別。近藤宗

益來訪。夜與來真。浪江。永錫賞月。煎茶煮

菽。是夜月光明徹。使眞道往館宗益。

十四日 再移庭樹數株。二塙通同。竹樹陰映。往來其間。所謂會心處。不必在遠也。數

十二月朔日 初當九月二十三日。朝食蕎麥及飯。

既而覺心下停滯。亡幾惡寒。其症與春來數發

者相類。招諫山安民乞治。自此以往。大略與

孟春症同。而精神困倦。乃數倍焉。至月末益

衰。自謂殆不得起。及冬初如小減者。而腫物發

於膀間。亦與數年來症相似。但小便熱而不利。

有時閉塞。其苦不可勝言。每及便時。一身之

汗。如浴水。然憔悴益甚。及孟冬七八日際。腫

物得潰。便道始利。及此稍覺蘇息。十一日始起。

步室中庭前。坐就衾爐。精神慌忽。脚力衰弱。待

人扶持而後坐起。爾後漸々趨快。及此五旬。然

未離病蓐者。大要有三。一曰脚腫。春時亦有

此患。然不過旬。二曰下部腫。膿潰之後。復成淋瀝。漏今乃五旬餘。孔極廣。小便盡自其中。

出。其自故道者。僅々焉。既而漏孔之傍腫痛。而及陰囊中矣。三曰眼疾。是二十年來

大發。朦朧極甚。蓋精血衰脫所致。或云。參附爲祟也。是日遷座於北塙。思日

曆曠廢。故勉強執筆。記大概而已。醫方初服安

日來爲之。請家君獻飯。杵築人□□方策入

門。居塾。開爐。反雇婢。

十五日 家君召賜朝飯。

十七日 長門醫生立野圭甫入門。居塾。詣大原

神祠。本月初三使塾生往賽。予病不往。故有此行。隆太郎。琳平從行。遂

詣稻生祠。

十八日 詣稻生祠。筑後醫人平□謙山。十年前與廉吾來見

者。携大坂醫生中川玄佳來。入門。玄佳居塾。

移紅白二桃於庭。於是園。林殆大成。

十九日 雨。不雨者數旬。故志喜。

二十日 詣稻生祠。

二十一日 詣稻生祠。晉歸塾。

二十二日 詣稻生祠。

二十三日……二十日

十月朔日……二十九日

十一月朔日……二十日

民藥。到此不改。中間招足立可仲一視。又江藤

養泰偶至。亦請一診。外治則託相良泰菴。以到

今日。中間遣人請權藤直。故來。信宿而去。加峰

礪梁來訪止宿。亦請診視。在既膿潰後。又遣宗仙。諮

方於權藤。是日歸塾。未聽。其說。看病。謙吉專與諸

門人。往來看護者。殆半月餘。而來真獨留宿不去。

至十月望歸塾。雇婢初至四五人。漸減今留

一人。婢道饋貽極衆。府君賜亦數至。謙吉自別府

歸。蓋在九月末。御勘定小林藤之助。及御普請役二名。

自江戶至。檢海西開墾之地也。館豆田町。自

十月半。至十一月初。諸邦使者輻湊。喧闐極甚。

江戶使者之至海西。在今夏。初止新田。後及諸邦。府君每與之俱。十一月初。事竣東上。府君歸府

在十中島益多。別府一九郎至。皆由開墾之役。奉

國命而來也。益多來訪數回。飲宴亦屢矣。益多別後九年。

一十九郎。杵築人甲原玄壽來訪。相見。三四日而去。

留。殿治屋。予疾方進。一相見而已。九月十月十一月。月旦。皆成於謙



音。以病困後。不能記錄。故加綴出入皆缺焉。  
新入數人亦不能錄。考遠思樓詩集。改前後位置。且有再考補入者。定爲二卷。三百十六首。命人淨寫。未成。龍甫

江戶書至。傳山中寬次郎死。不堪驚悲。自今在江戶坪井信道塾。患脚氣。二句。以八月三日歿云。嗚乎哀哉。其人好才子也。有志不遂。哀哉。其與予書與龍甫書並。文辭懇篤。乃病前所甚也。哀哉。行德元遂過訪。看家君及予眼疾。

今秋之疾。乙酉以來重疾也。乙酉之變。自以爲必死。幸而得免。于今九年。又有此禍。豈可不深警乎。今也氣力衰歇。願餘年亡。幾自今以往。務修德行。上之報天德。中之報父祖。下之了身家事。以俟天命而已。勿論世上名利。卽年壽長短。亦非所慮也。

二日 發與中島益多一書。中包予詩稿。託後居。善三郎妻生女。微雪。三吉郎爲予書史。淳英還鄉。

三日 先是千體寺壞。予爲雇人建柱葺屋。是日與妻往拜。十年前志願。今始了之。反塾政於謙吉。予以疾不視事。已

十三日 小迫姬入家。自此日履之。以爲代期。止蒸藥。風邪

十四日 妻往賽石井神祠。前年禱予疾。以爲約。夜反故婢。藤助女也

十五日 腫物益脹。或曰。爲湯藥動也。或曰。止蒸藥故。

十六日 風邪殆愈。止春山藥。起蒸藥。腫稍甚。陰囊痛。發下與昭陽先生。權藤直一書。昭陽書中包詩稿。權藤報病

十七日 腫小減。不知何故。似爲蒸藥。夜府君過門。以疾不出謁。

十八日 招□□七郎一供飯。先是奉府命。入塾受業。

二十日 七郎歸府。造學詩六則。題諸兩漢。以長其源。範諸三唐。以建其則。本諸柴紫。以澹其思。參諸王孟韋柳。以遠其趣。觀諸東坡。以通其變。探諸袁蔣趙張。以博其材。右六則自爲也。非教也。腫小加。疾頗進退。其歸難知。

二十一日 改月旦評。元迪加五級上。永錫加五級下。重三郎。直次加四級上。等顯加三級上。一次郎加三級下。竹太郎加二級上。宗太。仲加二級

七旬。然未有三反。都講歸西塾。

四日 筑前醫生品川大吾入門。來見。釋德令使來留宿。

五日 德令使去。發答德令一書。中包德令十時右馬助詩稿。前是十時致書及東修。託始講趙雲松詩。就其詩鈔中。又鈔之德令致意。也。自九月廿四日至七十一日。休講。泉東雄將遊府中。過訪。供飯。

六日 東雄辭去。發與權藤直一書。介東雄也。

七日 病後始剪髮。始服雞溫湯。權藤直一附方。服諫山

氏藥。止於是日。服安民藥。自九月廿三日。凡七十四日。京師人中村

掃部來寓長春菴。夜講說於東塾。講本邦聲音之義也。號曰言

靈。相良泰菴來視。供飯。

八日 與掃部相見。

九日 十日

十一日 始服宗仙所調雞溫湯。權藤所調凡九貼。未及用雞汁。今乃用法製之。

十二日 感風邪。兼服春山藥。用雞溫湯。如故。

下。直次郎。原仲。平三郎加二級上。富白。安次。圭甫。季松加一級下。大吾。文亮。皆以本月入席。入門來見。

龍甫。于石。仁之助。一郎。要人。文哉。元春。順次。玄泰。東養。真人。真吾。肩吾。寂宴。恒吉。藤平。泰菴。僧典。惠了。秀凡。除名。凡一百四十七人。在塾

生凡四十二人。外來生凡二十七人。腫益加。頭痛。廢趙詩講。

二十二日 權藤直來隈町。過訪診視。諫山安民。相良泰菴。足立可仲亦會。供酒及飯。移時辭去。是

日腫痛益甚。發熱惡寒。入夜轉酷。臨小便則痛甚。身中發汗。殆與前時症相類。呻吟徹曉。

二十三日 味爽小便畢。腫處忽潰。膿汁流出。楚痛減大半。發熱惡寒。諸症皆已。直云。潰破應七八日後。而速若此。殆神佑也。但殘毒猶多。殲服諫山安民藥。止雞溫湯。

二十四日 腫處隱痛。起坐傍衾爐。憑几。飲食復



舊。陰囊中腫氣未減。殘膿時々流出。釋了性來訪。  
 二十五日 力疾理。歲暮家務。夜腫處痛。耿耿不能安睡。  
 二十六日 疾勢益進。正月十日追記。

二十七日 二十八日 二十九日  
 晦日 自二十六日。疾勢日逼。是夜苦痛益切。小便痛及夜中痛不能安睡。兩事尤苦。至二更時。忽然而潰。始得安寧。室家相慶。

### 醒齋日曆卷六終

## 醒齋日曆卷七

(五十三歲)

天保五年甲午正月元日丁卯。予年五十有三。住堀田村。居竹外邨莊。以客冬疾未全除。止一切禮節。賦詩一首。元日眞良日。病從除夜。除。天容與人意。講々一年初。  
 二日  
 三日 魚町作節。以疾不往。饋膳。妻往與焉。  
 四日  
 五日 始謁家君。申賀。  
 六日 謙吉率門生詣府而賀。蓋五十六人。歸而饗之。人數加者。蓋十餘人。  
 七日  
 八日 地震  
 九日

十日 止諫山氏藥。用安民藥。自歲首至此。蓋二十四貼。再服雞溫湯。小迫姬歸家。雇阿吉。  
 十一日...二十九日  
 二月朔...五日  
 六日 自服雞溫湯以來。轉覺腫痛。膿汁時々微出。不至大潰。雖無大苦惱。然不能端坐及快步。日々伏枕悶々而已。到是思日曆曠廢。援筆追記。事無次第。小迫姬來。阿吉歸去。再製雞溫湯。前藥已盡故也。泉東雄來訪。供飯。啣師命。來府君召見甚太郎。賜米及金。改稱隆菴。茂知藏改稱三千藏。正月二十八日。魚町行。伯考及伯妣祭。十三回忌。予以疾不。會饋膳。妻行會祭。五



六娶婦。筑後佐木氏。予以疾不<sub>レ</sub>會。饋膳。妻行會焉。  
釋惠海還<sub>レ</sub>鄉。大歸也。惠海下總人。在塾六年。位次至<sub>二</sub>五級下<sub>一</sub>。川田巨來訪。十餘日而去。發<sub>レ</sub>答<sub>二</sub>健明<sub>一</sub>書。謙吉改<sub>二</sub>月旦評<sub>一</sub>。圓知加<sub>二</sub>四級上<sub>一</sub>。中錫加<sub>二</sub>四級下<sub>一</sub>。馬良加<sub>二</sub>三級下<sub>一</sub>。猪吉、平三郎加<sub>二</sub>二級下<sub>一</sub>。於菟太郎。圭甫加<sub>二</sub>一級上<sub>一</sub>。卯之助。玄佳加<sub>二</sub>一級下<sub>一</sub>。巨峰助。佐藤謙二。白藤謙二。如白藤謙二。如白藤謙二。萬三。日仰堅。己入席。凡一百五十三人。現在塾生凡四十八人。外來二十六人。府君有<sub>レ</sub>命。作<sub>二</sub>畫贊<sub>一</sub>。賜<sub>レ</sub>魚。會兒玉茂至。供<sub>レ</sub>飯。使<sub>二</sub>元迪<sub>一</sub>往拜。府君觀<sub>レ</sub>勸<sub>二</sub>儉約<sub>一</sub>說。不<sub>レ</sub>悅。詔<sub>二</sub>讓謙吉<sub>一</sub>。蓋疑<sub>二</sub>其有<sub>一</sub>所<sub>二</sub>譏諷<sub>一</sub>。久兵衛行請<sub>二</sub>增田良策<sub>一</sub>。事始得<sub>レ</sub>解。北塙梅開。請<sub>二</sub>家君<sub>一</sub>觀焉。供<sub>レ</sub>飯。釋大解來訪。釋了性來訪。府君賜<sub>二</sub>煉酒<sub>一</sub>。使<sub>二</sub>元迪<sub>一</sub>往拜。謙吉之<sub>二</sub>筑後<sub>一</sub>。賀<sub>二</sub>新於舅家<sub>一</sub>。且往謝<sub>二</sub>權藤氏<sub>一</sub>也。子代講<sub>二</sub>國語<sub>一</sub>。日久兵衛請<sub>二</sub>家君<sub>一</sub>供<sub>レ</sub>飯。因以<sub>二</sub>肩輿<sub>一</sub>迎<sub>レ</sub>予。往而陪食。移<sub>レ</sub>時而歸。自<sub>二</sub>去九月<sub>一</sub>。至此始出門。蓋百三十日餘。日東塾有<sub>二</sub>盜警<sub>一</sub>。

新也。供<sub>レ</sub>飯。

十三日 密乘來別。

十四日 府君賜<sub>二</sub>其所<sub>一</sub>佩短刀。久兵衛傳<sub>レ</sub>命。使<sub>二</sub>謙吉<sub>一</sub>詣<sub>レ</sub>府而謝。久兵衛之<sub>二</sub>日向<sub>一</sub>來別。石井和一郎。菊竹磯八來訪。賀<sub>レ</sub>新也。

十五日 筑前林田醫生內藤要人入門。

十六日

十七日 筑前屋永醫師末次三菴。携<sub>二</sub>男保<sub>一</sub>來。入門。三菴初稱<sub>二</sub>元貞<sub>一</sub>。予三十

十八日 礮梁來別。將<sub>二</sub>以<sub>一</sub>三月朔<sub>二</sub>之<sub>一</sub>東都<sub>上</sub>云。小

迫<sub>レ</sub>軀之<sub>二</sub>醉屋<sub>一</sub>。雇<sub>二</sub>婢春<sub>一</sub>。初服<sub>二</sub>雞溫湯<sub>一</sub>第三劑。以<sub>二</sub>腫處<sub>一</sub>楚痛<sub>レ</sub>止<sub>二</sub>膏藥<sub>一</sub>。

十九日 新婢發入<sub>レ</sub>家。夜婢春辭去。末次三菴同<sub>二</sub>諫山安民<sub>一</sub>過訪。豐前人中島雁三郎入門。

二十日 小迫軀來。此日辭去。

二十一日 筑後人上野傳之助入門。

失<sub>二</sub>衣劍少<sub>一</sub>。作<sub>二</sub>東塾格子<sub>一</sub>。五在<sub>二</sub>魚<sub>一</sub>。伸平饋<sub>レ</sub>膳。招而許<sub>二</sub>四日夜<sub>一</sub>。町前夜臥講<sub>二</sub>遠思樓詩集<sub>一</sub>。爲<sub>二</sub>采蘭<sub>一</sub>。中錫。天錫。權藤直弟子來訪。失<sub>二</sub>其<sub>一</sub>名謙吉作<sub>レ</sub>節。力<sub>レ</sub>疾而往。同座丑六。家君。叔父。久兵衛。仲平。在<sub>二</sub>正月<sub>一</sub>中善三郎妻携<sub>二</sub>新婦<sub>一</sub>來見。

七日 府君賜<sub>二</sub>魚肉<sub>一</sub>。使<sub>二</sub>元迪<sub>一</sub>拜。步到<sub>二</sub>千體寺<sub>一</sub>。及團樂塙。春來始出一步。故書。

八日

九日 加峯礮梁過訪。供<sub>レ</sub>飯。謙吉自<sub>二</sub>筑後<sub>一</sub>歸。聞<sub>二</sub>釋德令父僧死<sub>一</sub>。

十日

十一日(初午) 權藤直之<sub>二</sub>彥山歸<sub>一</sub>。便道過訪。診疾即去。渡邊轍。泉東雄。亦從而來。古和敬一入門。石見浪花三英入門。藝州人

十二日 使<sub>二</sub>松菴往館<sub>一</sub>。直於隈町。宿<sub>二</sub>鍋屋<sub>一</sub>午時直又過訪。藝州醫生□□□□入門。來謁。釋密乘來。賀

二十二日 先妣忌辰。魚町有<sub>レ</sub>祭。以<sub>レ</sub>疾不<sub>レ</sub>往。饋

膳。妻往會焉。橋本出雲禳<sub>レ</sub>疾符來。長春菴及予家各一服符水如<sub>二</sub>舊例<sub>一</sub>。腫處痛稍減。龍川寺僧慧門入門。外來

二十三日 大洒<sub>二</sub>掃庭除<sub>一</sub>。夜如<sub>二</sub>感<sub>一</sub>風邪<sub>上</sub>者。是日

代<sub>二</sub>謙吉<sub>一</sub>講<sub>二</sub>陶詩抄<sub>一</sub>。蓋月六回

二十四日

二十五日 兼服<sub>二</sub>隆菴<sub>一</sub>。甚太郎改稱藥二貼。桂枝湯爲<sub>二</sub>合外邪<sub>一</sub>也。

原安藝守來<sub>二</sub>西家<sub>一</sub>。往見。

二十六日 府君之<sub>二</sub>筑前<sub>一</sub>。使<sub>二</sub>元迪<sub>一</sub>代往奉別。改<sub>二</sub>月旦評<sub>一</sub>。謙吉有<sub>レ</sub>疾。故予作<sub>レ</sub>之。宗仙加<sub>二</sub>六級下<sub>一</sub>。天錫加<sub>二</sub>三級上<sub>一</sub>。

松菴。元照加<sub>二</sub>三級下<sub>一</sub>。作十郎。仲<sub>二</sub>猪吉<sub>一</sub>加<sub>二</sub>二級上<sub>一</sub>。字佐吉。德髓。圭甫加<sub>二</sub>二級下<sub>一</sub>。元可繁。安次

加<sub>二</sub>一級上<sub>一</sub>。敬次郎。德滿。六郎加<sub>二</sub>一級下<sub>一</sub>。雁三郎。敬一。三英。保。茂。要人。惠門。傳之助。入席。壽

真。法雨。貞作。天然。徹照。惠雲。玄善。義豐。玄肅除名。凡一百五十二人。現在塾生凡六十三人。外



來生三十二人。

二十七日 招合原安藝守。饗之於北塙。供酒及飯。使松菴數馬伴客。予以疾不獻酬。

二十八日 安藝守辭去。疾大動。陰囊腫痛招諫山安民診視。廢國語及遠思樓集夜講。

二十九日 疾如昨。服安民藥。

晦日

二月朔 初腫處若將潰者。至是而不潰。且其勢稍退。用宗仙說。使水蛭吮之。

二日 再服鷄溫湯。用安民藥。凡九貼。

三日 以疾不出。

四日 隆太郎罷侍者。圭甫代之。與采蘭常侍二人。他輪直一人。久

兵衛自日向歸。

五日 權藤直來隈町。來訪診視。供酒及飯。同座

賓。相良春菴。諫山安民。森成策。使謙吉伴客。

移時而散。宗仙得父訃音。還鄉。

六日 七日

八日 起遠思樓詩集夜講。

九日 遠思樓詩集夜講卒業。

十日 婢發以妹疾還家。雇婢春。夜開杜律講。

聽者三人。采蘭。圓智。中錫。

十一日

十二日 婢春去為塾炊。雇小迫。雇龍泉寺住持僧來見。

十三日 服雞溫湯第四劑。來真。正純。迎予小酌於北塙。圓智。凌雲。采蘭與焉。移時而散。

十四日 昭陽先生寄遠思樓詩集序文稿。

十五日 以疾不愈。祈菅公之神。發謝昭陽先生書。中包柳川紙四百葉。開約言夜講。聽者五人。隆菴。來真。真道。

圓智。廢杜律講。

十六日 筑後人松崎禎太郎入門。同合原種男來

謁。松崎父初稱。周平。予舊識也。移坐於北塙。自服鷄溫湯來。病毒不離。食儘。至

二十五日 聞水野侯卒。侯為執政。蓋近二十年。權勢一變。矣。候為執政。蓋近二十年。權勢一變。矣。

二十六日 服相良泰菴所貽鷄溫湯。第四劑未畢。泰菴又以一劑來贈。製方頗異。故試服之。府內華光院老僧來訪。改月旦評。三

吉郎。直次加五級下。中錫加四級上。深諦加三級上。琳平。政太郎。平三郎加二級上。無物。元可

加二級下。素雄。卯之助。玄佳加二級上。雁三郎。吉藏。計六。仰堅改稱。加一級下。惠周。龍角。安三郎。禎太郎。米藏。龜藏。勝六。鉄平入席。勝六。鉄平再入。

慶端除名。凡一百五十九人。現在塾生凡七十人。外來三十二人。

二十七日 筑後松門寺醫生行德溫菴入門。來謁。

岡永富文姪也。使正純往謝華光院。招合原母。供飯。

家君。媳婦伴食。勳平至。亦供飯。渡邊周齋之長

崎。過訪。與仲平。謙吉謀。買婢一人。以侍家

君。家君老疾而諸子及婦。皆以多事不能日一夜在側。故有此舉。於是凡有三婢云。

藥攝養。

隆菴從行。移刻而歸。夜四更後。中城町失火。未及一室而止。

十七日 家君將遊岳林寺。不果。發行厨於子家。同仲平。謙吉。陪食。

十八日 再同仲平。謙吉。會菴。陪食於家君。

十九日 先是宿痾稍開。到是又惡。移坐於南塙。

二十日 先是遣人迎合原氏母於吉木。媳婦是夜至西家。謙吉往甘木。迎。府君歸駕也。

二十一日 與合原母相見。謙吉歸家。府君歸府。

二十二日 使謙吉代詣府賀。是日 府君過門。同家君。謙吉。出謁。

二十三日 府君賜海苔。使隆菴往拜賜。

二十四日 家君老病稍加。請諫山安民診視。更服



二十八日 頭痛胸鬱。長府人藤井長五郎來見。館之於東塾。

二十九日 長五郎辭去。服春山藥。以頭痛故也。

合原氏母得饋魚。謙吉招供午飯。陪家君往。

山國村上虎來入門。順治子也。六年前相見者。

晦日 還服鷄溫湯。

四月朔 廢約言講。以隆茶請。暫止故也。

二日 釋德令來訪留宿。將遊京師。別且問安也。

三日 頭痛。還服春山藥。

四日 勳平辭去。夜始用蚊帳。三更後媳婦生女。

母子安穩。內外稱慶。妻遂留西家。

五日 釋德令辭去。託遠思樓集一部。欲託柳川後藤隼人。乞岡本醒廬評也。

六日 還服鷄溫湯。

七日 佐伯中島幹右衛門使至。報益多死。致遺物

二品。且乞墓誌。嗚呼哀哉。子玉爲吾黨冠冕也。世無不知。豈料衰老逢此長別也。去冬來遊大慰病懷。乃永訣也。得年僅三十四耳。天假之年。必將成名於後世矣。聖人天喪之嘆。予亦竊比焉。回思往事。轉

久兵衛。酒畢。予獨賜飯。移時而退。遂遍詣諸僚屬。

十六日 謁稻生祠。

十七日 謁稻生祠。政右衛門告別。

十八日 始朝捕蚤。謁稻生祠。發與權藤直書。問藥方之事。反蔣重耀書於森成作。遇其不在。託託銅屋。

聽話說於菴。上國人。所謂軍書讀者。

十九日 謁稻生祠。浴。春來始浴也。服雞溫湯第四劑。

泰菴所贈。既服了。因再服前所止第四劑之餘。

二十日 謁稻生祠。聞增田良作之東都往別。遂詣府見。邨田潤藏。是日小酌。妻及勳平與焉。夜漏口腫痛。

二十一日 謁稻生祠。足立文哉死。謙吉往弔。文哉但馬人。幼時其父去國。文哉寓食人家。既而尋父。遇之於我邑。因留住焉。學醫。後爲足立氏義子。予九歲時。始與之相識。與同講習。今四十五年矣。忽失舊友。不堪嗟嘆。壽蓋六十有四云。

二十二日 謁稻生祠。痛如昨。

添痛恨。蓋亦勿思。 風雷

八日 佐伯使去。發答幹右衛門書。夜之魚町。

奉家君起居。昨來在仲平家。且訪久兵衛疾。是日政右衛門來訪。恒三郎入塾。携弟林次來入門。相見。

九日 移坐於北塙。圭甫罷侍者。爲典藥。平三郎代之之。與采蘭二人。別輪直二人。

十日 始服單衣。西家有生子賀筵。饋膳。

十一日 越前人荒木半助。安藝人三宅春齡來見。

總井豐前醫生三人亦同來。不報姓名。妻自西家歸。

十二日 起約言講。炊赤小豆飯。獻飯及魚於家君。昨子誕辰。而不具式。故有此舉。

十三日 謁稻生祠。病來始謁也。勳平來。

十四日 謁稻生祠。後藤宗之助來訪。

十五日 長谷部作藏將之東都來別。在府多年。頃以微過。蒙譴。因致仕而去云。與謙吉詣府而賀。病來始詣也。不謁府君。始一府君延見賜酒。同座。服部權六。增田良作。

二十三日 謁稻生祠。午後痛大加焉。臥不能起。

二十四日 疾益加。

二十五日 疾益加。夜煩躁不能眠。

二十六日 招諫山安民。服其藥。止雞溫湯。夜漏口下血。其色赤黑。蓋將膿未成者。腫痛稍減。三旬以來。病色變。戒慎恐懼。真不可一日怠。

二十七日 謙吉作月旦評。隆菴加六級上。秋溪。正純。龍信加五級上。重三郎加五級下。壽八郎。采蘭。研之助加四級上。數馬。春山加三級上。仲猪吉加三級下。大聽。宗太。元可加二級上。順吾。直二郎。於菟太郎。繁。安次加二級下。雁三郎。計六。季松。富日加一級上。桃江。三英。代吾。段次加一級下。宗之助。再入二級上。虎來。林次。謙作。令次。玄吉。富也入席。凡一百六十六人。現在塾生七十一人。外來生凡四十人。有格外昇進者數輩。皆由官府意也。疾勢稍衰。

二十八日 二十九日



五月朔...三日

四日 兩三日來患胸痞頭痛。多食稻餅故服春山藥

三貼。伊織來訪。家君疾也。家君自魚町

歸。先是數日在魚町。

五日 以疾不出。謙吉詣府而賀。

六日 還服諫山氏藥。之魚町議。塾生節財事。

在塾生多費。其資不能支。故欲設法節之也。因謙吉請往與其議。會者。久兵衛。伊織。伸平。謙吉。來真。真道。供

麵。自前月二十三日到。此始出。發。答小林安石。役于石書。林書託伊與屋。役書託鍋屋善藏。

七日 鶴崎人松尾清右衛門來見。號箕山。雀崎人。有愛石癖。年七十九。

元迪。直次。天錫還鄉。大歸也。直次或再游。餞合原

氏祖母於北塢。

八日 合原氏祖母還鄉。始服解毒劑。雞湯湯已服五劑。故革其方。蓋駛風解毒湯。類。安民調劑。大超寺三僧入門。曰志誠。圓智。定

境。

九日 伸平來話。供飯。

二十二日 天草人□□尙謙入門。來謁。家君之

魚町。予亦往訪。晚飯而歸。往返皆以肩輿。梅雨。泥濘。遣之。

二十三日 役敬中辭去。之魚町。候起居。晚飯焉。

二十四日 家君自魚町歸。府君召謙吉及門生

三十餘人。賦詩試句讀。深夜而歸。

二十五日 府君再召謙吉及門生。人數略與前同。賦詩。

入夜而歸。加賀人□□良助入門。來見

二十六日 改月旦評。三千藏。永錫加五級上。中

錫。大寂。采蘭。浪江加五級下。等顯。深諦加四級

下。一次郎。馬良加三級上。谷藏。平三郎。大聽。

琳平。宗太加三級下。惠甫。直次郎加二級上。雁

三郎。卯之助加二級下。敬一。虎來。傳之助。德

猛。保三郎。玄吉加一級下。隆葺。廉五。掌珠。真

道。壽八郎。素雄轉客席。子石。行藏。尙謙。三子客席

隼人。志誠。圓智。定境。英吉。良助。文卿。欽哉。哲

醒齋日曆卷七

十日 十九日

二十日 十日之後。患齒痛。兩三日。遂廢日曆。到

此記事。事無次第。予年三十二。初作日記。至是二十二大故。未嘗曠廢。兩三年來。始就怠廢。往々過旬日。而追錄。事或不記。記或失。實。此雖小事。亦可以驗其志行之衰也。請自今以後。務加勉勵。

廢諫山氏藥。家君之大超寺宿。凡四宿。予方齒痛。

不得往訪。家君招大超寺住持。供養千體寺

佛。謙吉誕日請。家君子夫妻供飯。伊織歸。玖

珠。彌六來。森致仕太夫久留島織部來訪。家君

予往應接。謙吉請予監。外來及新隸課程事。於

是引見內外四十餘人。定其部署及課程。分塾生三隊。各有隊長。眞道掌之。分外來。爲四隊。以塾生爲隊長。永錫掌之。大閱素讀。定其

部署。渡邊轍弟哲之助入門。來謁。虎來入塾。下等書。以下。信濃人赤羽文卿。宮下欽哉入門。來謁。

二十一日 始着緋衣。役敬中來訪留宿。

之助。勇入席。和一郎。辰五郎。惠海。貫什。宗哲。

哲藏。綱太郎。洽次除名。凡一百七十一人。現在

塾生凡七十人。外來生凡三十五人。凡加級轉席

十日 十九日

二十日 十日之後。患齒痛。兩三日。遂廢日曆。到

此記事。事無次第。予年三十二。初作日記。至是二十二大故。未嘗曠廢。兩三年來。始就怠廢。往々過旬日。而追錄。事或不記。記或失。實。此雖小事。亦可以驗其志行之衰也。請自今以後。務加勉勵。

廢諫山氏藥。家君之大超寺宿。凡四宿。予方齒痛。

不得往訪。家君招大超寺住持。供養千體寺

佛。謙吉誕日請。家君子夫妻供飯。伊織歸。玖

珠。彌六來。森致仕太夫久留島織部來訪。家君

予往應接。謙吉請予監。外來及新隸課程事。於

是引見內外四十餘人。定其部署及課程。分塾生三隊。各有隊長。眞道掌之。分外來。爲四隊。以塾生爲隊長。永錫掌之。大閱素讀。定其

部署。渡邊轍弟哲之助入門。來謁。虎來入塾。下等書。以下。信濃人赤羽文卿。宮下欽哉入門。來謁。

二十一日 始着緋衣。役敬中來訪留宿。

之助。勇入席。和一郎。辰五郎。惠海。貫什。宗哲。

哲藏。綱太郎。洽次除名。凡一百七十一人。現在

塾生凡七十人。外來生凡三十五人。凡加級轉席

除名。皆出於。府命。私作課程通考。三千藏加顯。加四級下。市次郎。元韶加三級上。常三郎。恕助。谷藏。隆太郎。平三郎加三級下。圭甫加二級上。素雄。卯之助。玄住。雁三郎。計六加二級下。桃江。敬次郎。三英加一級上。傳之助。禮太郎。最勝。德猛加一級下。採取與月旦合者十。所獨取者十。探於彼而捨於此者十三。以續前月且也。予初作月且。到此三十年矣。夫盛者必衰。會者必離。非人也。天也。我如天何哉。修身以俟命已。

二十七日

二十八日 采蘭告別。采蘭爲侍史。予今三年。親炙服侍。无日不在側。今也再遊不禮太郎以父

疾還鄉。予方監新隸事。故記。改授讀法。府命

二十九日 采蘭再告別。正純。永錫還鄉。皆大歸

也。二僧皆攝人。正純四年五級上。永錫三年五級下。是日受純尤情熱。錫亦次之。今也大歸。可惜。故記。

讀者五十餘人。府君以下一級以上。多不通。府君賜

塾式二卷於謙吉。皆錄變法之事。候。家君於魚町。伸

醒齋日曆卷七

五四九



平家。作與。豪潮律師。書。晚飯焉而歸。夜中村氏老母死。妻之母之姊也。年六十九。妻及謙吉往弔。

晦日 往弔中村氏。合原氏。遂候。家君陪從而歸。宗仙來監。東塾。事關外來。新隸。故記。家君召賜食。最勝。令次歸。鄉。

六月朔 欽哉。文卿追。加一級下。府命也。葬中村氏母。妻。謙吉往會焉。

二日 定二級以下句讀試業法。以諸生不善句讀。故有此舉。午時與。伸平。彌六。謙吉。小飲供飯。暮久兵衛來話。供。晚飯。移。座於南塢。以。近。暑故也。

三日 金男入塾。元衛以。母死。還。鄉。松菴送之。招。彌六。供。午飯。夜中島幹右衛門書至。再託。碑銘事。且寄。子玉。集。八卷。

四日 開。唐宋詩抄講。予之所抄。爲。試業生也。虎來還。鄉。

五日 合。釀於菴。饗。家君。會者。叔父。久兵衛

十二日 十三日

十四日 應。伸平招。觀。山車。同座。家君。久兵衛。謙吉。勳平。午飯而歸。是日。府君賜。書。言。上等。不通。經義。宜。讀。三。經。之。事。夜詣。府。見。中村三郎。而歸

十五日 詣。府而賀。且候。暑中起居。府君延見賜。酒。同座。山本吉右衛門。服部權六。長谷部衆助。及久兵衛。移。時而退。合原安藝守來。相見。在。昨。日。禎太郎入塾。是日鉄之介見。招。以。困。暑不。往。饋。膳。晚雷雨。

十六日 詣。府。謝。見。中。邨。三。郎。家君自。魚町。歸。筑後人石田周三。石橋圭造。豐前人石川蘭采。石川德二入門。來謁。雷雨。

十七日 謁。稻生祠。四月二十四日以。疾。廢。學。到。此。自。新。云。饗。合原安藝守於北塢。歸。塾。二。子。有。過。姑。禁。來。學。到。此。自。新。云。馬仲。一。謙吉伴客。采蘭來。宿。五。郎。兵衛家。雷。

十八日 合原安藝守還。鄉。謁。稻生祠。采蘭入塾。

伸平。彌六。謙吉。夜。家君來宿。予與。妻之。庵宿。發。答。中島幹右衛門。書。託。佐。伯。來。使。

七日

八日 彌六還。鄉。江藤養泰來。隈町。招診。家君疾。因。設。供。焉。予接。客。同座。諫山安民。稻員寬度。伸平。殆。半。日。而。散。謙吉勳平。亦。陪。座。

九日 家君之。魚町。府君賜。茶。一。壺。謙吉亦。賜。綿。衣。詣。府而謝。府君延見。賜。酒。於。前。同座。服部權六。隆菴。近。暮。而。退。歸。路。晚。飯。於。魚。町。是。日。雷。禎太郎還。鄉。

十日 詣。府而謝。謝。昨。宴。也。見。中。邨。三。郎。又。詣。服。部。氏。謝。府。君。命。改。塾。政。也。謙。吉。始。得。罪。賴。服。部。氏。周。旋。得。免。故。謝。歸。路。候。家君。夜。又。之。魚。町。候。家君。因。憩。伸平。庭。上。所。踞。胡。牀。壞。傷。臂。不。虞。之。變。垂。堂。之。戒。可。思。

十一日 漏口微痛。家君自。魚町。歸。庭。上。薔。成。遮。日。

爲。侍。史。如。初。釋。法。城。來。訪。課。新。隸。數。人。除。草。雷。

十九日 白。雨。暴。雷。兩。次。自。未。至。申。聞。震。於。近。邨。數。所。未。實。否。

二十日 府君賜。寒。具。於。家君。詣。府而謝。見。中。邨。三。郎。座。上。賜。茶。寒。具。謁。稻。生。祠。豐。前。僧。圓。觀。入。門。來。謁。暴。雨。暴。雷。略。與。前。日。相。比。自。未。至。申。二十一日 朝。與。謙。吉。謁。大。原。山。神。祠。玄。吉。從。行。春。來。始。謁。也。遂。謁。稻。生。祠。試。傳。之。助。句。讀。保。以。母。疾。還。鄉。

二十二日 試。輪。讀。新。法。五。經。始。於。毛。詩。謁。稻。生。祠。官。府。難。作。真。道。去。塾。初。府。君。召。真。道。命。以。捨。禪。歸。淨。否。則。還。俗。皆。不。奉。命。是。以。忤。旨。命。謙。吉。遠。之。亦。遷。延。不。果。遂。至。激。怒。諸。塾。廢。業。過。密。

二十三日 朝。飯。後。訪。三。松。順。平。託。以。謝。罪。事。午。後。久。兵。衛。來。傳。以。難。解。因。服。部。氏。謝。事。遂。得。解。謙。吉。詣。服。部。氏。及。三。松。謝。謁。稻。生。祠。



二十四日 玄吉還郷。安三郎之秋月。之魚町。議二月旦評。評成。謙吉實諸服部氏。服部以爲失旨。故改議。

二十五日 謁稻生祠。改二月旦評。來真加七級下。宗仙加六級上。龍信加六級下。中錫加五級上。等顯加四級上。一次郎加四級下。元韶加三級上。玄佳。計六加二級下。桃江。三英。傳之助加一級上。最勝。林次。哲平加一級下。勳平五級上。周造。圭三。客。蘭哉。德次。圓觀入席。眞道。文徽。主水。政之助。虎吉郎。神德。無染。主計除名。凡一百六十九人。現在塾生凡六十一人。外來生凡二十一人。大略如前月例。作課程通考第二。市次郎加四級下。孝次加三級下。德體。雁三郎。卯之助。加三級上。傳之助。吉藏加二級上。林次。哲平。勝六加二級下。元韶。玄佳。計六。桃江。三英。最勝。既在前月進之。故不數之。 府君賜謙吉酒肴。往與飲焉。

醒齋日曆卷七終

仲平亦會。賜家君及子桑酒一壺。

二十六日 詣府而謝。見中郎三郎。遂訪傳藏疾。傳藏三千藏改稱也。近有眼疾。養疾於山本氏。 又過長谷部氏。謝島原士人小篠猪之吉。片山甚之助入門。來謁。豐前醫生邑上恭輔入門。來謁。令次入塾。謁稻生祠。久兵衛之新田來別。

二十七日 謁稻生祠。家君之魚町。送之。

二十八日 謁稻生祠。之魚町。候。家君。始試文選輪讀。服諫山安民藥。止於是日。四月廿六日止。安民解毒劑。至是六十三日。中間三四日休藥。大略一日三貼。時用二貼。蓋八十貼余。

二十九日 命鉄平調藥服之。用安民方。 之魚町。候。家君。安三郎歸塾。夜謁稻生祠。村上順二來訪。

醒齋日曆卷八

七月朔 漏口腫痛。廢詩講。不出賀。夜同妻之菴宿。以家君不在也。以下九日追記。

二日 疾如昨。止菴。

三日 腫處決潰。楚痛減大半。止菴。

四日 家君歸菴。予歸南塢。羽倉府君二十七年忌辰。在大超寺。作佛事。使謙吉代往會焉。

五日 曾祖母忌辰。魚町有祭。以疾不往。饋膳。

六日 痰喘作。服春山藥。

七日 以疾未愈。不出賀。

八日 先是。府君召傳之助。勸使從仕。予與謙吉以書請。重富丈菴報至。傳之助去。塾入府。丈菴傳之助舅也。事在數日前。以失日故。追錄於此。 再服鉄平藥。痰止故也。

九日 最勝。茂還郷。先是數日。新隸有出入者。失日故不錄。

十日 發下與久兵衛。彌六書。報家君病症。於前。十日以來症也。 家君疾如昨。

十二日 家君疾如昨。

十三日 家君將移於魚町。予先往報。既歸。再陪家君而往。此日。曾祖考忌辰。有祭。同座。大超寺兩僧。仲平。謙吉。事畢而歸。辭課門人之事。以看侍無暇也。夜三之魚町看疾。家君瀉下三行。

十四日 朝飯畢。之魚町。家君比昨小愈。午飯而歸。問府君使傳藏。重三郎問疾。再往晚飯焉。夜。府君使御堂方泰來診疾。



十五日 朝上塚。去秋得疾以來。以是爲始。遂訪大超寺住持僧。朝飯畢。之魚町侍疾。疾與昨日略同。午飯焉。及申而歸。中元不出賀。亦以看侍无暇也。

十六日 朝飯後。之魚町侍疾。疾如昨。午飯焉。當未而歸。

十七日 慈等法尼忌辰。請來真誦經設齋。之魚町侍疾。及申而歸。玉井元純來訪。

十八日 之魚町侍疾。午飯畢而歸。

十九日 之魚町侍疾。午飯畢而歸。

二十日 之魚町侍疾。朝粥北家。午飯南家。而歸。十三日以來絃歌絕響。市無嬉戲。盆中如常日然。府君惡鄰聲。及米貴故云。

二十一日 勸塾生以結社事。自官府事興。舊法盡廢。人心洶々。无事者。故有此舉。日新社興。宗仙爲長。申時晚飯。之魚町侍疾。夜間小酌。及戌而歸。

二十二日 之魚町侍疾。午飯畢而歸。廻瀾社興。

藏。勝六。既在前進之。秋風菴文集刻成。至自浪華。

二十六日 暴雨小雷。三句以來。无雨。零祭並興。至是愜望。夜待三月於北塢。會者謙吉。來真。宗仙。龍信。中錫。采蘭。一

次郎。平三郎。計六。山上有霧。不見月出之狀。少焉明朗。小酌移時而散。

二十七日 府君召塾生十餘輩。賦詩。謙吉亦往。深夜伴來。使予品第之。事勢有難處者。愁思苦心。故記其事爲戒。

二十八日 府君賜寒具予及謙吉。謙吉往拜。暴雨暴雷。

二十九日 暴雨而雨。

八月朔 以看侍無暇。不出賀。謙吉詣府而賀。暴雨小雷。

二日 府君內子姉訃音至。過密一日。與謙吉詣府而弔。見服部權六。權藤直來。岳林寺。迎診家君疾。饗於南塢。諫山安民。兒玉玄龍亦會。謙

吉伴客。移時而散。服諫山藥。止於是日。用安民藥。

來真爲長。夜帆足熊太郎來訪。十年前。服諫山安民一社四人。門生。服諫山安民藥。漏口腫痛止。故改調。

二十三日 之魚町侍疾。午飯畢而歸。

二十四日 必端社興。勸平爲長。凡四人。三省社興。龍信爲長。凡八人。家君自魚町歸。中間十日。

二十五日 加峯礮梁自江戶歸。過訪。謙吉迎之。小酌。予亦伴客。改月且評。勸平加六級下。元韶。春山加四級下。素雄。平三郎。計六加三級

上。常三郎。孝次。恕助。尙謙加三級下。凌雲。德隨。雁三郎。卯之助。玄佳加二級上。三英。傳之助

加二級下。敬次郎。吉藏加二級上。勝六。良助。令次加一級下。加朱批者破格。猪之吉。甚之助。恭助入

席。掌珠。元貞。百合之助。元泉。方策。他石。蓮城。淳石除名。凡一百六十四人現在塾生五十二人。外

來生三十人。作課程通考第二。宗仙加六級上。元韶加四級下。平三郎加三級上。凌雲。玄佳加二級上。三英加二級下。良助。令次郎加一級下。常三郎。孝次。恕助。德隨。雁三郎。卯之助。敬次郎。吉

凡十八 服春山藥。

三日 加峯礮梁過訪。供飯。松本龍山過訪。供飯。

四日 始作看侍日記。雷而不雨。克己社興。中錫爲長

五日 晒書。日夕暴雨。小雷。夜釋德令使至。作報。新自京回。以使致書。岳林寺長老死。伸平來話。供飯。

六日 使春山往弔岳林寺。命鐵平調藥服之。龍膽斜寒湯。浪華人佐々木東隆過訪。家君疾進。作書

報久兵衛。

七日 謁稻生祠。夜伸平携酒肴至。小酌東家。森成作。兒玉茂。偶會焉。

八日 備後人岡邨金藏。長崎人吉田□□。長門人平島雄悅入門。來謁。夜謙吉携酒。小飲於菴。伸平亦會。是日官府使人呼反久兵衛。以家君疾也。

九日 謁稻生祠。



十日 謁稻生祠。看侍無暇。自此以下。日曆省略。

十一日 謁龍馬森拜神輿。因謁稻生祠。

十二日 中秋晴朗。玩賞無人。

十三日 祖考忌辰。魚町有祭。饋膳。夜家君移於魚町。自是以前。肩輿來往。至是臥於板上。使人輻之。

十四日 麻生伊織。古賀氏姑。館林清記妻。皆來於魚町。來者或在數日前。今記焉。夜久兵衛歸宅。是日兩飯於魚町。妻宿魚町。

十五日 之魚町侍疾。兩飯焉。府君賜酒肴於家君及看侍之人。家人小酌。會者十餘人。

九月朔 廿九日

十月朔 廿五日

廿六日 先考易簣。前後固不能記。及至今日。

哀痛略定。始得執筆。然至往事。則不忍追記。但記今後事。乃如平日。謙吉改月日評。事不暇。暫略。

午後之魚町。草家譜。晚飯而歸。石井和一郎來弔。

廿七日 浪華僧周山來訪。周邦兄也。二十五年前。嘗相見者。此日再之魚町。皆草家譜。晚飯而歸。采蘭以疾罷侍史。轉居新塾。勳平之秋月告別。學醫於江藤養泰也。

廿八日 之魚町。草家譜。加峯礪梁來弔。供飯。

廿九日 之魚町。草家譜。午飯而歸。合谷左膳。秋好巨。小野彥章來弔。供飯。

晦日 之魚町。草家譜。再飯而歸。來真自筑前歸。來見。鄉僻。官府難。今乃來歸。合谷左膳來話。再供飯。

十一月朔 有恙。胸痞。腹脹。合谷左膳來話。再供飯。筑後僧法英入門。來見。大解弟也。

二日 之魚町。草家譜。午飯焉。

三日 以胸膈鬱滯。服宗甫藥。筑後僧圓備來弔。供飯。此日初雪。

四日 之魚町。草家譜。伸平招供。午飯。此日招來真。龍信。供飯。

五日 先考忌辰。之魚町。供祭。一飯而歸。以恙不癒。始服安民藥。

六日 之魚町。草家譜。一飯而歸。

七日 之魚町。草家譜。一飯而歸。是日家譜略卒業。

八日 龍信歸鄉。大歸也。

九日 先考歿三十五日。之魚町。遂上塚。歸過魚町。飯焉。采蘭告別。以小瘡。歸養也。

十日 祖妣忌辰。之魚町。供祭。同座。大超寺兩僧。叔父。久兵衛。伸平。鉄之助。服諫山藥。止於是日。服諫山藥。蓋六日。十八貼。

十一日 改服宗甫藥。宗甫圭甫改稱也。以下廿四日追記。事多缺略。

十二日 移於長春菴。先考以菴傳予。議定於十三年之前。至此。移住。然屬喪紀。百式不舉。唯息兩事於菴。其他多在南塢。家婢歸省。雇小迫嫗。

十四日 泉東雄。渡邊轍來弔。供飯。

十五日 竹太郎爲侍史。代采蘭也。與孝次二人。

十六日 先考歿後六七日。之魚町。

十七日

十八日 用宗甫藥。止於是日。胸痞腹脹症略愈。用三黃丸。最覺功效。

十九日 移座於南塢。十三日移菴。安几案於南軒。以其不便。再移於南塢。安几案於南軒。

二十日

二十一日 權藤直來弔。

二十二日(冬至) 先考歿後四十八日。魚町有祭。與妻往焉。同座。大超寺兩僧。用松瀨兵衛。魚屋助七。叔父。久兵衛。伸平。謙吉。鉄之介。

二十三日 先考歿後四十九日。上塚。彌六來。久兵



衛之奈良鴻。應府君召也。先是有奪情之命。至此應召。小迫 軀去。

二十四日 先考歿後五十日。上塚。村上順次來弔。新南塲席八枚。初誓持咒二十萬遍。準提是日卒業。雇小婢。

二十五日 先考歿後。五十一日。居喪如故。

二十六日 謙吉改月旦評。平三郎。尙謙加四級下。滿達。隆太郎。竹太郎加三級下。繁。甚之助加二級上。德滿。金三加二級下。代吾。敬一。文董加一級上。順菴。尙賢。金男加一級下。法英。元亨入席。文卿。欽哉。仲助除名。凡百六十四人。現在塾生五十六人。外來生二十九人。廢課程通考。八月以看侍无暇。不能用力。百度益壞。雜亂无章。故不復作。今也幸无外擾。天若不絕我業。得復其舊乎。婢發回來。反雇婢。

二十七日 改舊居園亭號。遷長春菴。後唯息焉。已自朝至夕不離舊居。今改稱號。以梅花塲爲總名。中有二十一勝。一曰南塲。二曰求羊徑。三曰牽牛籬。四曰宵明洞。五曰醒齋。六曰冷軒。七

安。新一郎書。託吉之助。發與健明。巨。順三。舜三。善庵。眞次郎書。託宗甫會計。是日雪。

四日 三雇傳之助。作答書十五札。杏之助。謙三。文治。芳嶺。玄哲。安藝守。山菴。一覺。勇。道伯。惠海。寬吾。發與寬吾書。次郎。石井廉藏過訪。

五日 魚町有祭。往而與焉。同座。大超寺兩僧。叔父。伸平。謙吉。鉄之助。發與安藝守。託謙寬次。託鉄山菴書。保

六日 菴所畜猫病死。三年前所生。斑毛者。

七日 埋猫於竹林中。發答杏之助書。託宗甫

八日 招來眞供飯。餞其歸也。發答研介。龍甫。尙友。周邦。梅策。勇書。託來眞。發答宏。春丁。書。託一

九日 雪。小酌。釋德令來訪留宿。

十日 微雪。手作答書七札。長五郎。三郎。信九郎。廉平。爲藏。哲藏。仁之助。發與仁之助。託宗哲三。託謙三。太。宗書。

曰。淡窓。八曰。北塲。九曰。石泓。十曰。雪橋。十一曰。掬月亭。十二曰。夜雨寮。前七屬南。後五屬北。其稱謂。大抵沿舊名。而位置多易。安几案。食爐於淡窓。淡窓。故淡窓今夜雨寮也。夜會家人。食燒淮南物。仍先考舊也。招宗甫食。是日橋本出雲送轉方符。

二十八日 大超寺住持過訪。整理几案函櫃。

二十九日 几案函櫃。整理略畢。漏口腫痛。服龍膽車乾湯。

十二月朔 雇傳之助。時請皆在五郎兵衛家。作答人書十六札。東一郎。新三郎。那五。主膳。文藏。清太郎。新一郎。梁平。三畝。藤太良。安。凌雲。養泰。宏。春丁。又兵衛。雇宗甫。恒三郎會計。發與東一郎。新三郎。那吾。又兵衛。主膳書。託鉄之助及篠田友松來謁。主膳孫。先是入門。

二日 再雇傳之助。作答書十四札。周邦。舜三。健明。友。寥然。善菴。眞次郎。龍甫。三義。義順。研介。正純。夜開約言講。七月十三日无暇廢課。門人之事。至是與之。

三日 用湯熨方。發答養泰。凌雲。託純三畝。良

十一日 招三原一郎供飯。先是自筑來弔。

十二日 與釋德令小酌。夜謙吉迎於夕佳樓。西樓者。供餽。德令同座。三侯主計來訪。不審其姓名。姑錄舊稱。

十三日 微雪。釋德令辭去。來眞還鄉。大歸也。來眞留我塾八年。位次至七級下。頗有才諳。善理世務。文學則非所長。赤關以東之人。受業久者。蓋以此爲最爲之慘然。府君自豐前歸。謙吉往迎於路。

十四日 眼疾頗動。久兵衛自行役歸。來訪。

十五日 上手村災。上塚。遂過魚町。發答信九郎書。託服部氏。

十六日 逆上耳鳴不已。服宗甫藥。

十七日 孝次還鄉。最勝爲侍史。代孝次也。

十八日 中子玉墓碑文成書之。

十九日 之魚町。午飯而歸。發與中島幹右衛門書。送墓碑文也。賴久兵衛。託佐伯飛脚。

二十日 傳藏自秋月歸。來謁。

二十一日

272632



二十二日 謙吉改月旦評。平三郎加四級上。仲雁三郎加四級下。常三郎加三級上。元可。德髓。甚之助加三級下。安次。行藏。金藏加二級上。季松。順之助。代吾加二級下。德猛。吉之助加一級上。靜。法英加一級下。元亨。友松入席。等顯除名。凡一百六十四人。當有二百六十五人。未詳。

二十三日 約言卒業。

二十四日 招善三郎議事。之魚町。小學開講。

二十五日 以耳鳴不已。再服宗甫藥。王陽明文錄開講。

二十六日 咳嗽稍作。

二十七日 頭痛咳嗽。夜久兵衛傳。府君命力疾詣府。府君延見賜酒。服部權六。諫山安民同座。始食腥焉。先是府君有命。以病體不宜久服。喪為言。到此奉命。自十月初五。凡八十二日。中間二更歸家。

二十八日 釋了性來訪。話次聞金苗見龍。及茂死。不堪愕然。今年皆罹疫死。府君賜棘鬚魚。白梓候所贈云。學止於是日。

二十九日 陽明文錄止於是日。病症變類外邪。屢嚏不已。使宗甫改調藥。寒涕漲出。

晦日 力疾詣府。賀歲暮。且拜賜。見村田順藏。遍詣諸僚屬。諸生守歲於塾者四十人。

### 醒齋日曆卷八終

## 醒齋日曆卷九

(五十四歲)

天保六年乙未正月元日戊寅。予年五十有四。住堀田村。晝居淡窓。夜臥長春菴。卯時起。吃糕飲屠蘇。拜聖像。祖先。歲神。諸神。讀天保詩。試筆二葉。志母虛邪。行必正直。一母念乃祖。事修厥德。是日始雪後晴。是日謙吉不詣府賀。猶以前事也。事在去秋。日曆缺焉。

二日 詣府賀。府君延見賜酒。山本吉右衛門。服部權六。長谷部衆助同座。遍詣諸僚屬。歸路詣豆田數家。應伸平招。同座。叔父。久兵衛夫妻。謙吉。鉄之助。歸路遍賀邨中。

三日 蒲池久市來賀。供飯。與妻會魚町節。同座。善三郎。與次兵衛。叔父。助七。竹太郎。茂兵衛。伸平夫妻。謙吉夫妻。久兵衛。夜夢賦排律。蓋近百韻。覺後唯記其韻為一先。

四日 起陽明文錄講。耳。又夢賦五律。前聯云。地仍存北俗。客自操南音。第六句云。沙明水有金。予自侍病以來。意未嘗在詩。況於服中乎。而有此夢。可謂異事。故記。

五日 竹太郎告別。

六日 微雪。午後伸平來訪。小飲。妻及謙吉夫妻亦會焉。

八日 淳素為侍史。代竹太郎也。與最勝二人。官府有御用始之宴。以府君命往會焉。賜酒於前。同座。森壯吾。草野十次。酒畢而飯。山本吉右衛門。村田順藏。澤隆菴。周旋陪座。入夜而歸。府吏及市人。皆於前廳。予與二子獨否。以其告老準三老之例也。

八日(立春) 詣府而謝。見村田順藏而歸。謙吉



作節。與妻往焉。同座。善二郎。叔父。久兵衛。仲平。鉄之助。飯畢。與仲平。謙吉。研之介。散步至六出。

九日 渡邊修齋來訪。供飯。謁大原及龍馬森神祠。謙吉。修齋。宗太隨行。午後上塚。修齋。宗太隨行。

十日 與謙吉。渡邊修齋。散步至莊手邨。久兵衛來話。供糕。

十一日 叔父來話。供飯。

十二日 渡邊修齋辭去。留塾數日與妻赴合原氏節。

同座。中村平左衛門。升屋忠右衛門。鉄之助。俵屋幸六。□屋要六。及諸家眷數人。夜用松村失火。宗仙以予命詣府。

十三日 以咳嗽復作。服三行三藥。兒玉玄龍來西家。予往接客。小飲。

十四日 與妻會魚町祭。俗有忌後一百日之祭。實爲十五日。今先一日而行之。同座。大超寺兩僧。叔父。長八。小平治。直太郎。茂

直次來。介久恒壽軒入門。來謁。發答豐田清

五郎一書。託阿密

二十四日 久兵衛來話。設飯。謙吉。勳平亦會。玖珠僧德元入門。其父僧携之來見。

二十五日 遠思樓詩集開講。肥前佐嘉士人西牟田彌二郎。大田又太郎入門。來謁。夜浪江來。宿豆田

二十六日 浪江兄宇右衛門。自赤馬關來訪。爲浪江一謝也。詣府。府君延見。府君命。中村三郎。贈書謙吉。訪月旦評事。予代謙吉。往見三郎。府君延見。命加研之介。元韶。素雄三子級。奉命而退。夜久兵衛妻携二

女及孫女一來。供飯。發答龜井先生一書。託謙吉

二十七日 發答福田源次郎一書。使順之助。浪江入塾。居東塾。爲侍史。與純素。最勝二人。謙吉

作月旦評。研之介。元韶加五級下。素雄加四級上。三人格。外升進。甚之助加三級上。玄佳。金三加三級

下。文童加二級下。最勝。良助。尙謙加一級上。元亨。友松。隼人加一級下。竟依。法梁。壽軒。又

兵衛。仲平。謙吉。久兵衛。鉄之助。

十五日 詣府而賀。見邨田順藏。遍到諸僚屬。十六日 十七日

十八日 發答梁平。文藏一書。託東旭。歸長崎。

十九日 謙吉之吉木。發答高良山釋亮一書。託丸屋與次兵衛。中包彼稿及拙書。詣府見服部權六而歸。村尾十吉在江戶。應句讀試。受官賞。府君命使報予。故往賀且謝。

二十日 丑六。稻員渙度來話。供雜煮。

二十一日 詣府見服部權六。久兵衛。與三松順平。升屋忠右衛門亦會。爲謙吉一謝也。未得允而歸。是日服部氏見供午飯。

二十二日

二十三日 陽明文錄抄卒業。黃陶菴曰。讀王陽明羅近溪語錄。覺高妙不近人情。今與小學並讀。知其語不誣也。然陽明天下奇才。學出於實踐。固非今時俗儒所敢議也。同謙吉。久兵衛。三松順平。升屋忠右衛門。詣府而謝。以謙吉事得請也。見服部。長谷部二子而歸。元迪。

太郎。彌次郎二子入席。龍信。中錫。永錫。正純。天

錫。計六。元劑。芳卿。茂吉郎。寬二。若月。圓備。謙次。了道。順榮。知照。晋。善一。代造。傳之助。巨

圓識。伸太郎。淺江。彥太郎。文亮除名。凡一百四十五人。現在塾生四十七人。外來生十人。是日與謙吉。宗甫。散步。謁黑男祠。訪兒玉玄龍父子。

供酒及飯。既而與茂同歸。又酌於南塲。家人陪席。近暮而散。

二十八日 代謙吉一行塾政。謙吉有東遊之志。請官私理旅裝。故予代之。

二十九日 伯考忌辰。會祭魚町。同座。大超寺兩僧。叔父。久兵衛。謙吉。鉄之介。

二月朔 與謙吉詣府賀。見邨田順藏。夜之袋屋。謙吉之子。作事。

二日 發與金苗春菴一書。開二子見龍。茂皆以去年死。故託書直次。以弔之。二子皆舊門人。也。嗚呼哀哉。先是聞高田屋利右衛門死。是日使



淳素代弔。此人昔與家君頗親。予亦三四過其家。一二十年。則疎濶矣。然四十餘年。耳目所熟。一朝長別。不無慟。勳平來。

三日 夜叔父齋餽來饋。供飯。寬次還鄉。爲塾政。故

四日 筑前醫生兒玉太仲。小山田耕三郎入門。居塾。試作十郎。吉三。四書句讀。予之爲塾政。務欲而以勸學爲先。二十九日行詩內試。二日行文內試。三日行文內講。是日試句讀。其他多緒。不可盡記。故錄之於此。註

雄悅入塾。先是達右衛門有過除名。是日得赦歸塾。

五日(上午) 與謙吉上塚。浪江。研之介從行。

又與久兵衛。仲平。謙吉。謁龍馬森稻生祠。既歸。設菜飯。燒淮南物同食。及暮而散。是日良助爲侍史。與浪江。淳素。最勝。四人。罷輪次直日者。

六日 之魚町。別久兵衛也。往檢新田。遂上城內觀音閣。浪江。良助從行。既而研之介。仲。亦會。謁

十三日 曉雪。梅作來話。供飯。恒三郎。達右衛門還鄉。

十四日 一次郎。等顯。金三還鄉。等顯大歸也。

等顯頗有才思。惜其客氣凌物。取友不端。前途未可知也。掌珠遊京來別。午後謙

吉西遊。吉之助。琳平從行。到統訪龜井。到肥訪古遊。故先探西也。昨得官許。故發。媳婦携女及婢。寓我家。甚之助

爲西家留守。

十五日 舉塾洒掃。易置諸生。且改其職。其審須待他日

記。詣府而賀。見邨田順藏。是日小便不利。漏口閉塞。夜起至七八度。是日行藏之玖珠。神杉梅作告別。

十六日 招相良泰菴。諫山安民診視。用熨劑泰庵

煎湯。安民夜遷坐於菴之南軒。

十七日 以疾廢講。漏口得開。小便利。

十八日 起遠思樓小學二講。自癸巳十月來。病症一變。爲漏。雖溺管斂縮。然漏泄居多。因忘急迫之苦。身體小康。去年罹重哀。而不至大衰。爲是故也。忽爾閉塞。憂苦無計。賴有天幸。以得解脫。不

不動祠。登上馬塚。謁大神宮而歸。煮茗設菓。勳平之秋月。發與加峯礪梁書。託勳平。中包金一

七日 發下答八千坊書。中包金及言秋風琴文集事。託鉄之介。宗太

之出口。大聽入塾。介柳川人惠美太冲。僧照壽入門。皆居塾。

八日 德髓。德滿還鄉。發下答釋德令書。中包後藤中野

衛門。琳平入塾。卯三郎入塾。淺江入塾。

九日 發下答安石。惠學。正純。義順書。使謙吉託諸等顯。

十日 仲平來話。供酒。家人謙吉亦會。直次任副都講。轉東塾。事有關係。是日。代謙吉受內外

諸生禮謁。凡五十人。記其衰也。庶幾一振。

十一日 又太郎還鄉。宗太歸塾。禮謁五十三人。叔父來話。供飯。

十二日 宗仙還鄉。神杉梅作幸祐改稱來訪。供飯。

十九日 使元韶起國語講。竹太郎入塾。隆菴來

傳。府命。欲盡變革月旦。及招來真也。

二十日 移坐於淡窓。筑前人中村祐。瀧俊平入門。外宿。浪華僧事本。備後僧本教入門。居塾。

二十一日 服諫山安民藥。止於是日。用安民藥。蓋十八貼。

二十二日 先妣忌辰。與妻婦會祭魚町。同座。大超寺六僧。叔父。仲平。鉄之助。遂與叔父。仲平。

鉄之助上塚。改月旦評。一次郎加六級下。元韶。直次加五級上。尙謙。雁三郎加四級上。甚之助。宗甫加四級下。宗太。玄佳。滿達。隆太郎加

三級上。一。行藏加三級下。良助。尙賢加二級下。卯三郎。淳庵加一級上。哲之助。圓智。加一

級下。謙三。勳平。元迪轉客席。太仲。賢吾。兒玉太仲改稱

耕三郎。淺江。入熙。壽三郎。祐。俊平。事本。本教入席。等顯。圓智。于石。廉吾。政太郎。無物除名。



凡一百四十九人。現在塾生凡四十七人。外來生凡十九人。一次郎。元詔。直次。尙謙。甚之助。宗太。滿月。且促。達。玄佳。加敷。及宗甫。超進。皆出。府命。期。官府意也。

二十三日 使雄悅之藝州。召來真也。府琳平入

塾。洞春來訪。榮次郎也供飯。用宗甫藥。

二十四日 傳藏入塾。詣府見。服部權六而歸。

筮。於祖先神位之前。遇遯之同人。爻曰。遯尾。所往。象曰。遯尾之厲。不往何災。嗚乎。見機不早。以踏危機。將誰咎乎。何災之語。猶似有可免之路也。祖先慈壽宜銘諸肝。加峯俊吾入門。礪梁子也。與家人少酌。

二十五日 加峯礪梁來訪。供酒及飯。俊吾陪座。

發下與謙吉書。兒玉玄龍將遊。長崎。故託。釋知祥來。講再受業居塾。使浪江。研之介以下。輪講孟子。直次之講。聽衆太多。故分爲二。其一輪講。始作課程月考。

二十六日

二十七日 兒玉玄龍將之長崎。來別。

二十八日 祐俊平入塾。開西樓。先是以少人。久閉西樓。

五日 上塚。浪江。淳素從行。遂散步至淨明寺。行藏還鄉。法梁入塾。讚岐僧常慶入門。居塾。保入塾。

六日 放學。使塾生遊山。予與浪江。良助。散步至會所宮。歸而與二子及淳素小酌。時塾生及茂。七贈酒肴。家人及五郎兵衛妻亦會。殆半日而散。財津龍助來見。請再受業。

七日 法英還鄉。

八日 禮謁五十九人。託隆菴詣府拜賜。且訪傳藏疾。昨傳三饋酒。有實君賜也。夜傳藏入塾。身有熱服宗甫藥。

九日 最勝入塾。再爲侍史。

十日 柳川人竹迫謙益。筑後人村上辰五郎入門。保三郎入塾。夜辰五郎入塾。於是在塾生凡六十一人。僧雲崖自長崎至。過訪。致謙吉長崎書。

書云。歸家應在二十日後。

二十九日 肥前僧一道。崇鏡。但順入門。居塾。

晦日 最勝還鄉。先是移侍史於新塾。增員爲五人。輪次直於東塾。曰淳素。最勝。良助。要人。壽軒。以采蘭爲新塾勸學。兼始製長幼席序。謙吉本有侍史。佐至。是暫爲四人。始製長幼席序。謙吉本有。其制。今加。加峯礪梁過訪。俊五入塾。

三月朔 詣府而賀。見邨田順藏。是日江戶僧光淳來見。入門。山本吉右衛門奉府命爲導。供茶。

既歸。詣府而謝。光淳。松平岩見守子。我府君嫡子之婦之弟也。頃來寓府中。以高族之子。且爲府君戚族。僚屬以下。敬之如君。將之善導寺。暫見予執贊。

二日 禮謁五十五人。

三日 詣府而賀。府君以因病不見。見告村田順藏。傳命。遂詣僚屬。市中邨中而歸。傳藏以疾歸。府。是日爲女孫初繼之祭。沿俗稱。七八日以來。群婢喧鬧。設張頗忙云。長門醫生古谷幾太郎入門。居塾。

四日 與家人小酌。隆菴。宗甫。亦陪焉。午前雪。

三月見雪亦爲奇事。蓋有閏月故也。託隆菴訪傳藏疾。

十一日 謙益入塾。塾生凡六十二人。開蒲池入市

家。以昨夜罹災。使宗甫。良助往弔。火自其樓上起。或曰。人火之也。延燒十餘家。彼以癸巳作頤齋。隔年遇災。世事難料如此。可嘆々々。近日以女孫

有疾。慘怛不樂。與妻小酌遣悶。浪江。宗甫。良助陪焉。移時而散。夜鉄之助妻携女來宿。以少乳故分媳二婢從來。予與妻移寢南場。是日庭上緋白二桃。及紅桃四株皆盛開。

十二日 溫庵過訪。試六郎。元厚四書句讀。六郎甲下。元厚勳平自秋月至。與勳平。浪江。宗甫小酌。

一次郎入塾。任權都講。元詔爲副都講。塾生凡六十三人。夜雷雨。

十三日 鉄之助妻女歸家。菊竹磯八自筑後來訪。供飯。移時而去。話次聞其祖父死。磯八入學。祖父命也。以去十月死。與勳平。浪江。宗甫。携酒肴來與酌。先考同壽云。家人亦陪焉。入夜而散。兒玉玄龍自崎歸。致謙吉書。

吉書。



十四日 壽軒以父疾還郷。六郎饋饋餅。享子及塾生。出於府君。慶四書句讀試爲甲科也。夜招魚屋助七。議直太郎事也。是日。久兵衛。伸平來話。供飯。

十五日 放學。浚井。詣府而賀。見邨田順藏。詣田神祠。及稻生祠。浪江。良助從行。

十六日 俊吾補侍史。代壽軒也。女孫疾稍愈。

十七日 渡邊轍來訪。叔父來話。供飯。使研之介往謝兒玉玄龍。

十八日

十九日 小學卒業。午時赴久兵衛招。供鮓及酒。伸平同座。

二十日 赴伸平招。供飯。久兵衛同座。中庸開講。

午後鼻窒身熱。如下感風邪者。服宗甫藥。夜發與中島幹右衛門書。反愛琴堂集七册。託鉄之介。

二十一日 疾如昨。夜移寢於西軒南偏。

飯。來真亦至。亦供飯。媳婦及女孫及婢隨謙吉。歸西家。謙吉旅行。及妻女寓子家。皆四十三日。筑後客發。

二十七日 廣島三生。平原太郎。山田三省。田中壽貞入門來謁。三生皆從來真來。長崎二生。今村米三。小田藤次郎來謁。祐悅自奉使歸。與來真分路。故遲一日。要人爲西家侍史。服部氏饋饋餅於家及塾。慶段次加級也。準六郎例。夜來真入塾。發下弔豐田清五郎書。其妻死。即伸平岳母。

二十八日 太郎。三省。壽貞入塾。塾生凡六十六人。起遠思樓集講。耕三郎爲侍史。代要人也。發下與久松碩次郎。高島四郎太夫。福田直之進。牟田口主膳父子。春禎助。田三畝。山本清太郎。桑原純五兄弟。鳩居琢磨書。皆爲謙吉謝也。託謙吉。祐悅入塾。塾生六十七人。

二十九日 研之助還郷。一次郎。琳平。保之。天瀬。起中庸講。吉之助。賢藏。米三。藤次郎入塾。晦日 法梁還郷。浚井。

二十二日 疾進。廢講。官府有召伸平往聽命。時有檢旅客之令。因及塾生也。伸平來話。供飯。

二十三日 三郎還郷。宗太有罪禁足。

二十四日 赦宗太罪。與傳三夜行飲酒故也。禁足一日。免權勸學。使作帖誓。自新之志。

二十五日 試段次四書句讀。乙改。月旦評。仲加。

四級上。大聽加三級上。要人。直次郎。於菟太郎。加三級下。淳素加二級上。吉三。六郎。哲平。卯三郎。純菴加二級下。段次。金男。元亨加一級上。太

仲。耕三郎加一級下。知祥。俊吾。但純。崇愷。謙益。幾太郎。隆助。一。一道。常慶。辰五郎入席。元

迪。松菴。要人。內藤除名。凡一百五十六人。雁三郎。當加。

五級下。而抑之。六郎。段次。皆格外升進。宗之助。順吾。可。除不除。皆本府意也。現在塾生凡六十

二人。外來凡十人。夜筑後僧二人。農夫一人來。求

橋本賢藏持謙吉書。至。留宿。謙吉以是日到吉井云。

二十六日 午後謙吉自西歸。長崎二生從來。供酒

四月朔 淳吾。靜入塾。塾生六十八人。與謙吉詣府而賀。府君延見賜酒及飯。飯獨賜予同座。山本

吉右衛門。服部權六。移時而退。

二日 秀山。淺江還郷。與謙吉詣府而謝。見村田順藏。與家人小酌。良助陪座。

三日 漏口腫痛。用膏藥。最勝還郷。

四日 遠思樓詩集卒業。疾進。移坐於西軒南偏。

五日 金男還郷。甚之助之高田。

六日 以疾廢講。久留米儒官堀江茂七郎來訪。

七日 原元養携其二子。來入門。兄稱謙次。弟稱連。用蒸藥。來真詣府。府君賜宴。併召謙吉。

八日 研之介入塾。謙吉代起中庸講。用煎藥。肥前僧。入門。居塾。

七日 石州人松邨官治入門。居塾。中助來。請再受業居塾。去年亡去。今謝過歸塾。

八日 三省之湯平。午時與謙吉散步。至銀杏樹



下。設。席飯焉。家人亦會。塾生陪者。直次郎。要人。純庵。吉之助。來真。移。時而歸。

九日 建。日課法。淳五爲侍史。代。最勝。也。

十日 開。自監錄講。午後與謙吉散步。浪江。仲。

順吾。順之助。要人從行。乘。舟渡。隈川。憩。西岸。

釋門惠。淨寂來饋。茶。壽八郎。熊谷見順亦至。歸。

後與謙吉及家人。飲。門惠。宗甫。淳素同座。素雄。

亦會至。入。夜而散。是日能間廉吾。西原良安謙次郎改

稱。來訪。釋了性亦來訪。

十一日 予誕辰。不。具。嘉儀。一次郎。琳平。保歸。

塾。塾生凡六十九人。琳平還。鄉。是日禮謁七十人。

十二日 甚之助歸塾。

十三日 始校。遠思樓詩集。門人勸以上梓久矣。予心未決。今始考定之。以待他日。

十四日 託。能間廉吾。謄。寫遠思樓詩集。廉吾來寓。我家。

十五日 與謙吉詣。府而賀。見。邨田順藏。府君命遊。大原。從行者。兒玉茂。謙吉。來真。隆菴。能間廉吾。一次郎。元韶。直次。傳藏。浪江。平三郎。

雁三郎。仲。甚之助。西原良安。大聽。本教。會。神廟西廊。賦。詩以奏。樂。三闋爲。限。府君賜。行厨於予。謙吉亦齎。酒肴。近。暮而散。歸路與謙吉。隆菴。詣。府而謝。見。服部權六。而歸。是日麻生氏妹携。其女。來宿。

十六日 使。昨遊者再寫。其詩。謙吉親送。之於府。保次。茂。最勝入。塾。塾生凡七十二人。讚岐醫生。

十七日 研之介出。塾外宿。甚之助之。高田。安次入塾。

十八日 妻遊。兩筑。同行麻生氏妹姪。女金。姪女直。奴婢各一人。予與。婢發。守。家。夜移。寢於南軒。

十九日

照。文董。良助。尙賢加。二級上。吉之助加。二級下。

惠周。保。友松加。一級上。照壽。事本。謙吾加。一級下。大寂轉。客席。良安。仲助。謙藏。太郎。藤次郎。

官次。米藏。壽貞。洞觀。三省。連。賢次。昇慶入席。數馬。猪吉。宗之助。桃枝。圭。仲吉。倉吉。萬三。

米三。千原峯助。竹次。德次。元衛除名。凡一百五十六人。現在塾生凡七十人。當。有。三。七。十。一。人。蓋。出。入。失。記。也。外來生凡十七人。遠思樓集書寫卒業。凡。十。三。日。而。卒。業。是日緒方連始寓。食於塾。移。館於北塙。仲入。塾。安次還家。

二十七日 廉吾入。塾。在。我。家。十三日。西家招供。午飯。恒。賴。母。送。鯉。魚。且。請。招。予。也。謙吉。恒遠賴母。僧雲崖同座。村山東一郎來訪。時。留。魚。町。

二十八日 使。謙吉代講。自監錄。甚之助歸。塾。宗甫歸。塾。塾生凡七十四人。通。連。廉。五。計。之。服。安民藥。止。於是日。用。諫。山。藥。蓋。十。七。八。貼。

二十日 巳時與謙吉及兒玉玄龍。訪。鹽屋平右衛門。加藤廉吾。壽八郎從行。憩。其新居。供。酒及飯。近。暮而歸。西原良安入。塾。

二十一日 昇慶入。塾。塾生凡七十三人。午時與謙吉。赴。魚町招。久兵衛。伸平同座。供。酒及飯。近。暮而歸。五夜疾作。惡心惡寒。召。塾生數人。看侍。

二十二日 服。宗甫藥二貼。午後招。諫山安民。調藥。是日惡心漸止。而發熱。食不。進。臥。於蒼南軒。夜宗甫及侍史。留直看侍。是日田代緒方連。來訪。謙吉。館。之於南塙。供給。自。西家。

二十三日 疾稍退。食稍進。

二十四日 尙賢去。塾外宿。

二十五日 以。疾益愈。止。塾生夜直。

二十六日 媳婦携。女歸寧。宗甫送。之。女。誦。以。胎。毒。生。瘍。而。痘。行。村。中。故。避。之。也。三省歸。塾。祐還。鄉。恒遠賴母。釋雲崖來訪。改。月日評。雁三郎加。五級下。繁加。二級下。知



二十九日 已牌請客會於南塢。賦詩飲酒。供午飯。晚飯。入夜而散。座客恒遠賴母。邨山東一郎。緒方連。釋雲崖。來真。門惠。能間廉吾。使浪江陪客。隆菴往來參焉。招兒玉茂。不至。一去塾外宿。

五月朔 以疾不詣府。謙吉往賀。午時緒方連還鄉。夜恒遠賴母。邨山東一郎。釋雲崖告別。直次郎還家。夜使來真獻螢於府君。府君賜歌。獻螢追先考故事也。歌述追悼意。

二日 安次入塾。使仲詣府拜。拜其賜歌也。  
三日 廉五去塾。寓西家。靜還鄉。研之助入塾。佐々木舜藏來訪。供飯留塾。

四日 遠藤松菴來訪。止塾。恒二郎。法英歸塾。油布陰僧滄海入門。居塾。祐入塾。塾生凡七十六人。當有七十七人。其故未詳。追考。置酒招諸生。佐々木舜三。浪江。宗甫。淳素。良助。最勝。耕三郎。俊吾。自未至。

十一日 使順素往訪兒玉茂疾。且有所饋。疾小間云。土佐人□□省造入門。居塾。

十二日 以胸鬱不欲食。且小便利。服宗甫藥。府君賜塾僧十七人金。謙吉詣府而謝。邨田順三過訪。麻生氏妹來別。

十三日 府君再賜塾僧茶飯。佐野東菴安政稱之母來訪。留宿。

十四日 靜入塾。謙吉有疾。代講孟子。宗甫有疾。出塾外宿。隼人往視兒玉茂疾。遂留其家。佐野東菴之母辭去。隼人亡幾歸塾。出入不告。故失記。

十五日 詣府而賀。見邨田順藏。淳五之天瀨。豐東醫生久形環入門。居塾。雄悅還鄉。

十六日 府君表裝諸生詩卷。賜予。廟前聽樂詩詣府而謝。府君延見賜酒。移時而退。使來真代往而謝。良助以疾罷侍史。最勝代之。

十七日

酉。夜移寢於北軒東偏。

五日 以疾及忌日。不出賀。謙吉詣府而賀。府君受賀。如舊例。熊谷見順。石井平右衛門來訪。供飯。辰五郎還鄉。妻歸宅。往返凡十七日。

六日 先是聞兒玉茂罹疫症。到此稍劇。使佐々木舜藏往問之。

七日 琳平入塾。

八日 親講自監錄。謙吉代講。八日。謙吉往訪兒玉茂疾。既歸。往迎諫山安民。再之新原。予留供酒。茂疾益劇。玄龍願迎安民。因請之而往也。安民云。疾可治也。

九日 加峯礪梁過訪。供酒及飯。辰五郎入塾。塾生凡七十七人。

十日 吉藏任府胥史。去塾。隆太郎還鄉。傳三有眼疾。使來真。隆菴。直次。送之詣府。府君賜酒於三子。併召謙吉。此夜傳三歸塾。府君聞疾召之。以歸之。

十八日 佐々木舜藏。宗甫。哲之助還鄉。發與艸場珮川書。中包詩稿。託次郎。役敬中來訪。留宿。

十九日 松川修山來訪。留宿。自監錄卒業。  
二十日 一次郎還鄉。平三郎之肥前。釋門惠來訪。同松役二子。供飯兩回。夜臥室屋漏。且多蚤。失寐。頗困。是日呼松川弟子來宿。昨宿。綴治屋。

二十一日 大學開講。兒玉玄龍來謝。聞茂疾再加安藝僧光曜。達明入門。居塾。與松役二子。及松之弟子。小酌。來真陪焉。夜移寢於北軒東偏。以南軒也。多蚤。

二十二日 役敬中辭去。午時赴府。府君召賜酒於前。來真。傳藏。及村田順藏同座。府君賜盃。近暮而退。是日有役日之賀。召謙吉。以疾辭。使來真往。乃復召予。賜盃及送於房櫪之外。準先考例云。夜移寢於南軒。

二十三日 松川修山辭去之。長崎。事本。本教。達明之筑後。與來真詣府而謝。見中村三郎。賜



茶而歸。淳五之父過訪。淳五歸塾。鉄之助來訪。

晦日 發下答釋大解書。反詩稿上。託法英。

二十四日 長州須佐士人來訪。請書。忘其名。求書櫻詩。

六月朔 與謙吉詣府而賀。府君延見。賜酒。服部權六。長谷部衆助同座。移時而退。市次郎。平三郎歸塾。

二十五日 事本。本教。達明歸塾。大學卒業。

二日 三郎入塾。謙吉詣府而謝。予不往使。謙吉攝。是日

二十六日 反孟子講於謙吉。唐詩選開講。研之介。還鄉。改月且評。浪江加五級上。宇三郎加二級上。保三郎。元亨加二級下。靜太。仲。耕三郎加一級上。幾太郎。本教。但順加一級下。浪江加級。官府意也。

三日 病如昨。服所藏三黃丸。又招諫山俊安。診視。服其藥。夜瀉下兩行。是日廢唐詩選吾師錄講。研之助。直次郎入塾。

滄海。省造。自道。光耀。晉。先是入門外宿。環。達明失日不記。

四日 瀉下兩行。凡四瀉。服三黃丸。疾勢少退。保大吾入塾。

入席。謙三。吉三。謙作。蘭哉除名。凡一百五十九人。現在塾生七十一人。外來生二十一人。再考松菴入席。凡一百六十八人。現在塾生七十二人。

五日 疾勢更退。晝離臥蓐。而居南塢。能問廉吾。良安出塾外宿。直次郎還鄉。

二十七日 保還鄉。卯三郎之天瀨。

六日 (疾) 廉吾。良安還鄉。

二十八日 開吾師錄講。傳藏移於新樓。以東塾太熱也。

二十九日 仲平。謙吉來話。供飯。

七日 壽貞之長崎。服俊安藥。止於是日。服俊安藥。

十五日 魚町以祭招。以疾不往。使妻往饋。是日始服諫山俊安藥。卯三郎歸塾。疾如昨。田町人為山車所轆。瘡輕而不死云。

八日 松菴之吉木。媳婦女孫皆患小瘡。故遣而訪之。漏口腫張。課門生十餘輩。鑿石泓於南塢。

十六日 尚賢歸塾。是日發斑。痒甚。鉄之介來。供飯。

九日 漏腫生痛。午後胸鬱頭痛。松菴歸塾。媳婦濕毒內行。

十七日 腫口微破。楚痛或減或加。發斑如昨。

十日 疾如昨。服松菴藥。是日去南塢。定座於南軒。避暑也。於是晝夜皆居長春菴。

十八日 諫山安民來診。安次入塾。彦山座主來。豆田。訪府君也。是末曾有此事。故記。

十一日 頭痛胸鬱之症稍愈。漏痛不減。甚之助還鄉。吾師錄卒業。病來謙吉代講。

十九日 斑愈腫。痛稍減。鉄之助來。碁。供飯。

十二日 雄悅入塾。漏痛益加。用蒸藥。

二十日 一生突來。相見。山川敬藏弟子云。畫師蘆水來訪。以疾不見。十八年前嘗留我家云。蓋稱。

十三日 漏痛益加。改服松菴藥。土荻。荻劑。暴雨急雷。宇佐吉將隨父東上。來別。謙吉往別。

二十一日 (疾) 研之助還鄉。

十四日 痛甚。急雨暴雷。菊田鉄藏東上。鉄藏仕府蓋多年。至元占加判。先。是得罪屏居者數月。至是東上。蓋逐之也。或云猶在東都邸內。給仕。先。是加藤爲吉在長崎。犯法繫獄。菊田坐其事。是亦得罪之一端云。爲吉子舊門生。嗚乎可歎哉。仲平以祭相招。以疾不

二十二日 (疾) 鉄之助來。碁。供飯。

醒齋日曆卷九







九日 朝飯後之魚町。與仲平、鉄之助。聞藤兵衛女

死。養女也。日來我家。兩三日來病。痢俄死。發下與佐野東菴書。包金百

浪江。繁於菟太郎歸塾。夜浪江。宗甫迎飲於

南塲。仲平。謙吉。亦會至焉。是日謙吉飲肥前二

子酒。予亦與焉。事在南塲。夜飲前。是朝招浪江供飯。

十日 浪江之甘木。學醫於佐野東菴也。浪江在

年。實三年半餘。而爲予侍者。過於三年。以柔婉嬌媚。見愛。其家以貧。母老。促之學醫。予姑資之。使學於佐野。子。

仲。竹太郎。順吾。惠周。保。最勝還鄉。友松。順

菴。事本。幾太郎歸塾。謙吉將之吳崎。有故而

止。予詣魚町。發下與久兵衛。彌六。伊織書。彌伊

在吳崎。是日苦熱。今年入暑。率多清風。與常年

異。至是殆甚焉。

十一日 宗仙。副島秀九郎來別。茂還鄉。

十二日 反塾政於謙吉。謙吉自崎歸後。相並從。事。至是全反之。

十三日 會祖考忌辰。會祭魚町。同座。大超寺兩

僧。叔父。仲平。謙吉。鉄之助。移時而歸。是日漏

口閉塞。小便苦澀。服松菴藥。

十四日 先曉小便快利。漏口之閉。以小便少也。服五苓散。頓得其效。此理不可不知。故記。是日舉家之魚町。供先考秋祭也。事雖

俗。情實自內。樓槍萬感。如何可言。予及暮先歸。伏枕不能起。

中暑熱也。夜煩躁不眠。

十五日 以疾不出。頻行導引及針。服宗甫藥。

妻及謙吉之魚町。供祭如昨。謙吉又詣府。府

君賜瓜二品於予。使松菴往謝。

十六日 疾稍愈。

十七日 疾。圭甫。宗甫復還鄉。大歸也。圭甫在塾三年。善與人交。於予一家。皆得離心。且侍先考者數旬。最所不忘也。一旦大歸。爲之悵然。來真。傳藏歸

塾。凡在城山十有五。日。數滿而歸。以慈等法尼忌辰。招來真

讀經。設齋。謙吉夫婦亦會焉。

十八日 疾。

十九日 疾。諫山俊安自吳崎歸。來訪。聞久兵

衛疾益愈。俊安奉府命。往訪。

董。吉之助。俊吾。自夜半達曉。具酒及飯。是

夜天氣清明。審月出之狀。斷知三稜並出之妄。

二十七日 疾。上塚。浪江。俊吾從行。

二十八日 疾。晒書。

二十九日 疾。浪江之甘木。筑人平木此面來見。

閏月朔 起高青邱詩講。詣府而賀。府君延見賜

酒。謙吉先在焉。山本吉右衛門同座。移刻而退。

二日 理晒書。納架。

三日 藝人陸田十郎來見。劍客也。仲平來話。供

飯。大聽爲予書史。竹太郎歸省不來。故代之。孫女有疾。

四日 孫女現痘。

五日 與仲平。鉄之助。俊吾。上塚。歸路過仲平

家。供午飯。發下答八千坊書。致先考挽詞及寒具。故謝之也。且言秋

川文藏。太田梁平。將之長崎。過訪。深更大風。

二十日 府君賜予及謙吉。布各一段。謙吉詣府而

謝。先是求龜昭陽靈跡。予父子周旋其事。故。午飯於西家。是日頭痛

齒痛。

二十一日 疾再動。過食爲祟。

二十二日 疾。釋大仙來訪。供飯。昨宿西家。

二十三日 疾。謙吉供午飯。

二十四日 疾。

二十五日 疾。仲平來話。供飯。夜浪江自甘木

來寧。留塾。

二十六日 疾。改月且評。琳平加三級上。良助加

三級下。吉之助加二級上。靜太。伸。耕三郎加二

級下。隼人。本教。蒼海加一級上。俊吾。祐。賢藏

加一級下。謙次入席。虎來。貞太郎。恭助。圓觀。

友三郎除名。凡一百四十九人。現在塾生凡四十九

人。外來生凡二十四人。夜待三月於南塲。會者。謙

吉。來真。浪江。平三郎。素雄。玄佳。琳平。純素。文



六日 憂。七日憂。八日憂。九日憂。十日憂。

十一日 哀。十二日哀。十三日哀。十四日哀。十五

日哀。十六日哀。十七日哀。十八日哀。

十九日 (哀) 嗚乎斬衰之袂。未及乾。又遭悲痛。

何天悔禍之緩耶。追念往事。焦心裂腸。蓋亦勿

念。順素有疾。移鍛冶屋。保爲侍史。肥前僧法

瑞入門。來見。伸平將之。吳崎。訪久兵衛疾。來

別。

二十日 (哀)

二十一日 (哀) 飄風自巳至申。始服諫山安民藥。

哀痛之際。爲飲食所累。初服松茸藥。至是託安民。

二十二日 (哀) 淳素父使門人來迎之。來見。

二十三日 (哀) 淳素將與疾還鄉。予與謙吉見

而止之。脚氣之症。畏途。中衝心。使人再報其父。良介之

筑後。以繁疾報其家也。氣脚

二十四日 (哀) 移坐於南塢。鹽屋平右衛門來訪

供飯。淳素父良順來於俵屋。來見。夜使松茸

館良順。

二十五日 (哀) 繁父來見。携繁而歸。叔父來話。供

飯。

二十六日 (哀) 將作月旦評。降菴詣府者三。始

得命而歸。直次。傳三加六級下。研之助加五級

上。平三郎。素雄。尙謙加五級下。深諦。玄佳。松

菴加四級上。常三郎。宗太郎。滿達。泰聽加四級

下。朔十郎。要人加三級上。文董。尙賢。代吾加三

級下。六郎。元亨加二級上。段次。保。蒼海。加二

級下。哲之助。幾太郎。謙益加一級上。光耀。藤次

郎。俊平加一級下。元韶。三吉郎。重三郎。恕助轉

客席。圖書。吉成賢之助也。先是再謙齋。席法瑞。勝順

豐前人同。入席。令次。三英除名。凡一百五十一人。

現在塾生五十二人。外來生二十八人。直次。傳三。研

玄佳。松茸。常三郎。宗太郎。滿達。泰聽。朔十郎。要人。是日元

六郎。段次。凡十四人。格外升進。所以奉府意也。

申謝意。廢高青邱詩講。以講論語。唐詩選也。謙吉疾如

昨。往來看視。伸平自吳崎歸。聞久兵衛小愈。

五日 釋瑞應來請再受業。居塾。宇佐僧。舊稱中將。日向

富高人大和屋次助來見。是日修理園庭。塢謙吉

疾如昨。往來看視。

六日 代謙吉行塾政。謙吉疾故也。元可。德髓

來。夜之西家看疾。賢吾入塾。

七日 義元長老來訪。鉄之助妻以前月七日生男。

時在塾中。是日携之拜大原神祠。伸平邀予同

往。俊吾從行。妻亦次往。家眷及奴婢凡十餘人。

發行廚於西廊。予與俊吾先歸。夜之西家看

疾。作十郎入塾。

八日 始設座於東塾。監諸生業。先是唯講時。一到

於東軒南偏。自朝飯後。至未時。乃歸南塢。肥後熊本人境權之進。使三人

贈書札及寒具。求予墨跡。保三郎兄來訪。嘗陪

勇來。使哲平詣岳林寺謝。義元。元可。德髓入

六日 憂。七日憂。八日憂。九日憂。十日憂。

十一日 哀。十二日哀。十三日哀。十四日哀。十五

日哀。十六日哀。十七日哀。十八日哀。

十九日 (哀) 嗚乎斬衰之袂。未及乾。又遭悲痛。

何天悔禍之緩耶。追念往事。焦心裂腸。蓋亦勿

念。順素有疾。移鍛冶屋。保爲侍史。肥前僧法

瑞入門。來見。伸平將之。吳崎。訪久兵衛疾。來

別。

二十日 (哀)

二十一日 (哀) 飄風自巳至申。始服諫山安民藥。

哀痛之際。爲飲食所累。初服松茸藥。至是託安民。

二十二日 (哀) 淳素父使門人來迎之。來見。

二十三日 (哀) 淳素將與疾還鄉。予與謙吉見

而止之。脚氣之症。畏途。中衝心。使人再報其父。良介之

筑後。以繁疾報其家也。氣脚

二十四日 (哀) 移坐於南塢。鹽屋平右衛門來訪

詔還鄉。大歸也。禪僧入上等者。蓋一圭。元詔而

已。然皆格外升進也。詔才亦亞圭。夜大雨。川漲。

二十七日 (哀) 深夜謙吉有疾。與妻往視。風邪病。稍相合。

二十八日 起唐詩選講。謙吉疾進。往來看視。鉄平

爲侍史。與良助。俊吾。保。凡四人。

二十九日 謙吉疾如昨。往來看視。

八月朔 起高青邱詩講。不出賀。託諫山安民。

告官府。塢兒本无忌服。然時體宜避旬日。今既

復爲侍史。合前。謙吉疾如昨。往來看視。服安民

藥。止於是日。凡十八貼。

二日 謙吉疾如昨。往來看視。再新錄脫稿。以前月

起。至。此略成。更待他日。修飾潤色。始可以示人耳。此書

之作。本爲遺愛且有畏而作。必踐其言。則爲善書。否則徒

費筆墨耳。能踐與否。待萬善簿而驗

三日 講論語。代謙吉也。先是來謙吉疾如昨。

往來看視。

四日 聞府君有賜順素。贈米及薪料。供僑居費。託降菴



夜之西家看疾。

九日 論語卒業。謙吉所始。予本月三日代之。為境權之進。作字及報書。發答深水仙壽。鹽山梅亭書。託境使。謝胎乾魚。梅亭酬。貽兒書。梅報以墨。夜之西家看疾。

十日 朝西家供茗粥。伸平同座。開老子講。午時與伸平之新原。鉄平從行。謁黑男新祠。訪兒玉玄龍疾。歸飲於南塢。妻及媳婦亦陪。移時而散。薄暮胸鬱惡寒。耳窒項強。入夜彌加。不得熟寐。是日聞佐々木元亮死。伸平云自殺。志誠云積氣。

十一日 疾。官行死刑。梟於淨明寺三日。致珠人殺者。服松菴藥。止講。一次郎來訪。金藏入塾。

十二日 疾。起老子唐詩選講。中庸卒業。來真。尙謙所講。研之助來。居鍛治屋。

十三日 疾。一次郎來別。令塾開家語孟子二講。夜之西家看疾。

十四日 雁三郎入塾。平三郎。淳菴自筑前歸。順

十八日 有微熱。服哲平藥。久兵衛自新田歸。

往見小酌。遂訪合原家妻疾。移時還家。發答磯屋善七書。託鐵上太郎。江藤良順將携順素歸。秋月。來別。友松入塾。介郷人井福一之進入門。亦居塾。

十九日 將送府君於路。理裝半日。夜詣府告別。見邨田順藏。府君有命。明朝重來。是日幾太郎告別。仲伊吉入塾。村山東一郎來訪。

二十日 朝飯畢。詣府。以有命也。府君命午時重來。歸家午飯。畢再往。府君命以下無送於路。留而守府。本欲送至小石原。以松菴良助。臨發延為從行。結束而待。於是遂止。見賜酒於前。別辭頗懇。升屋十次同座。未牌遂發。予與諸僚屬一拜送於廷。遂與十次同留。夜中予辭而歸。十次留宿。是日塾生數十人。送至山田原。府君相見。訣別。賜金。直次。素雄。獨送至鶴河內旅館。傳三先發。塾生皆不相見。故特至其所。宿而見之也。除菴。壽八郎。宗太郎。是

素父來訪。釋德令母使人致先考賻義。留之宿。府君賜唐紙及扇。謙吉及門生。數人亦有賜。來真往謝。

十五日 釋德令母使回。發與德令母及德令書。詣府而賀。見服部權六。聞府君應召東上。其期在近。昨夜聞之伸平。今重聞於服部氏。然未有顯命。館江藤良順。且訪順素疾。在詣。傳藏去塾。亦欲從府君東上也。夜月色在淡朗之間。

十六日 祖考忌辰。會魚町祭。同座。大超寺住持僧。叔父。伸平。鉄之助。是日北家有詣侯之資。會祭南家。之府返。

富士石也。見中村三郎。復携石而歸。先府君富士石。徵詩。詩成而往反。之以理裝正急。再回託之。伸平來話。供飯。俊平去塾寓隈町。與佑同居。仲助歸塾。竹太郎入塾。

十七日 詣龍馬森。拜大原神輿焉。三十四兩行祭。故延至今日。鉄平從行。招傳藏。供飯。餞東行也。發賀羽倉外記君書。今年進。府布衣。託伸平鉄之助。筑後醫生神原兔毛入門。居塾。

日先發將至大里也。

二十一日 朝飯畢。詣府見村尾某而歸。村尾市次未知其名。本欲候府君消息。而途至鶴河內。者未回。故暫歸家而待。直次。素雄歸塾。聞府君既發鶴河內。再詣府。見服部權六而歸。府君臨任。至是十九年。自予始見。乃十七年。久兵衛以才幹受寵。新築。新田諸役。皆見專任。因有官許苗字之事。家君以者。見重。居三老首。禮遇極厚。予賜用人格。座位次。長。謙吉亦抽近臣之冠。傍及家人門生。皆見寵待。一門榮赫。合鄉莫比。皆其賜也。予退隱後。謙吉得。累及老身者數矣。要之一肯不足。以掩大德也。今也東上。再臨无期。恨恨何極。少陵別嚴鄭公詩云。江邨獨歸處。寂寞養殘生。予亦云。君初臨也。恭儉自守。敬老。善。頗有嘉聲。既而威罰頻加。貶黜相繼。兩市人情。不堪踴躍。然亦有登庸嘉賞者。始東上。蓋懷怨相半。及再西下。銳意行興利之役。有新渠焉。有新道焉。有浚河焉。有開田焉。其他橋梁。倉廩。修祠。營寺。經營雜役。紛然並興。民力窮焉。民財盡焉。於是萬口咀呪。又欲開新田於鄰國封內。結怨於諸侯。不令之聞。日及遠方。俄應公召。蓋其事不可測。僚屬以下。人々自危。久兵衛尤受肺腑之任。義將同休戚。我家浮沈存亡。繫於此行。嗚乎。可不畏哉。西家為村山東一郎設詩會焉。予亦賦一詩。昨今二日放學。送府君。

二十二日 常慶入塾。仲伊吉。保三郎之筑前。三吉郎。重三郎自秋月歸。來訪。



二十三日 午時與兒玉茂 村山東一郎。釋門惠。遊龍馬森。借橋本陸奧家樓賦詩。謙吉與伸平。來真後至。發行厨焉。主人亦供酒肴。日暮而歸。是日謙吉起易講。

二十四日 發與工藤典膳書。典膳舊友也。以東一郎。請。謂其周旋也。伸平飲村山東一郎酒。會於南塢。予謙吉與焉。移時而散。供東一郎飯。

二十五日 謙吉迎供朝粥。魚屋長八過訪。供午飯。

二十六日 改月日評。隆菴加七級下。素雄加五級上。圖書。竹太郎加三級上。知照加三級下。靜加二級上。本教加二級下。但順。祐。先耀加一級上。

末三。太郎。寬次加一級下。瑞應。兔毛。一之進入席。深諦。春山。矢庭。八百江。先民除名。一次郎。浪江轉客席。若海當加級。誤而遣之。故課程錄錄加級。凡一百四十九人。現在塾生五十九人。外來生二十人。西家飲酒請予同座。村山東一郎。釋門惠。伸平。謙吉。予先

侍。

二日 再修園。亦殆半日。淳菴。吉之助。罰爲常侍。

三日 與謙吉。采蘭。淳菴。吉之助。德隨。三郎。散步至三叉。頃嘗廟再營。故往謁也。謙齋之長崎告別。

四日 與謙吉。門惠。采蘭。德隨。三郎。散步至橫屋。

五日 與謙吉。上塚。采蘭。要人。德隨從行。歸路散步至淨明寺。歸而少酌。

六日 放學。游山。予先朝飯。先與謙吉。出。壽八郎。采蘭。最勝。俊吾。要人。元可。德隨從行。至隈。訪熊谷見順。渡江至三石井。賽松尾祠。憩小畑。太神宮。回至護願寺。來真率書生。先至而待。見順。門惠亦至。發行厨。溫酒煮茗。夕陽而歸。歸路過鏡坂。觀森成策所建碑。悵然有感。是日天氣清明。游山有趣。同行者。蓋六十餘人。

歸。一兩日來。漏口腫痛。至是稍加。又以左右腕痛。招諫山安民診視。是日重三郎請再受業。外

藥。以腕痛也。服安民藥。凡六貼。伊豫松山人豐島文仲來見。乞字而去。

二十八日 (疾) 筑後醫生飯田秀達入門。相見。其兄來。亦相見。采蘭來省。留塾。傳藏自中途却回。來見。至下關。以疾歸。腫痛稍甚。用膏藥。蒸藥。村山東一郎來別。

二十九日 (疾) 止諫山氏藥。使哲平調藥。治濕之劑。筑前醫生津田俊亮入門。來見。

晦日 (疾) 孫女七七忌齋。會西家。同座。大超寺兩僧。鉄之助。久兵衛妻。阿知惠。謙吉。發與龜井先生書。副以鹽香魚。既罷塾政。諸生出入不記。傳藏入塾。

九月朔 諸生移樹修園。殆半日而畢。

七日 老子卒業。

八日 與謙吉散步。采蘭。壽八郎從行。訪鹽屋平右衛門。熊谷見順亦至。供飯及酒。近暮而歸。是夜。胸鬱煩悶。不能熟寐。

重陽 (疾) 本欲出賀。以疾而止。猶進朝飯。午時稍甚。惡心惡寒苦惱交至。招諫山安民。不至。服松菴及鉄平藥。深更後小愈。得眠。是日移於南軒。十日 汗出。惡心惡寒稍減。小進食。作新田評。

十一日 疾益愈。然無氣力。食不甚進。微渴。小便不利。春來患此症者。已四回矣。皆由酒發之。酒之害昭々若此。不可不止。自茲私誓絕酒。

十二日 (疾) 移坐於南塢。俊吾之柚木。

十三日 (疾) 始執筆記事。順之助罰爲侍史。順菴。吉之助。先是以子疾。遷爲西家侍史。夜謙吉與浦池久市。來賞。月於南塢。塾生會者十餘人。夜分而散。是夜月色明朗。



十五日 (疾)十六日同。十七日同。

十八日 (詩)十九日同。二十日同。二十一日同。

二十二日 同。二十三日同。

二十四日 十六七日以來。疾勢既退。然以耽詩不

視家事。不錄日曆。到是記事。事無次第。

俊吾歸塾。保還鄉。保二郎爲侍史。代保也。采

蘭之甘木。日<sup>十五</sup>與謙吉訪兒玉玄龍宅。供酒。

既而予妻與媳婦皆往焉。予先歸。他入夜而歸。

日<sup>十八</sup>常慶還鄉。與謙吉登上馬場。觀所祭石。

鄉人祭石爲叔父來供飯。謙吉供飯。日<sup>二十</sup>伯妣

忌辰。會祭魚町。同座。大超寺兩僧。叔父。仲平。

謙吉。鉄之介。日<sup>廿四</sup>肥後人兼松大八來見。久兵衛

之豐前來別。夜<sup>廿二</sup>役參義自東歸。來見。聞豪

潮律師遷化。以閏月三日寂。參義言也。月日分明。恐非

也。今聞其死。如喪考妣。安傳律師於家君及子。極厚。妹乃其女弟子

也。嗚呼哀哉。壽蓋八十有六云。

二十五日 與謙吉散步。到銀杏樹下。謙吉供午

二日 之魚町。遂弔綿屋及西光寺。加峯礪梁來訪。

供飯。夜之西家宿。

三日 俊吾從礪梁還鄉。朔日來葺屋。補<sup>破</sup>至

是三日而畢。勳平自秋月<sup>會祭</sup>至。

四日 之大超寺。監傳三書障子也。以<sup>府君命</sup>書障子十餘

枚。納諸大超寺。遂行魚町助祭。夜<sup>二更</sup>而歸。午晚

二飯皆於魚町。是日唐詩選卒業。最勝之久喜

宮。

五日 先考小祥忌辰。舉家會祭魚町。僧以巳時

至。讀經畢設飯。自祭賓及家人供飯者。蓋七

八十人。日暮與久兵衛以下上塚。過大超寺。入

夜而歸。嗚乎光陰如矢。忽成一暮。聲容在目。屢感夢寐。

終天之痛。何日滅之。抑當其生時。不能盡力奉

歡。沒後又不能持喪遵制。其謂之何哉。但再新錄所

謂。繼其志。述其事。其所愛愛之。尙可以致力已。

六日 朝飯畢。之魚町。日暮與久兵衛以下。上

塚。訪大超寺。入夜而歸。是日俗稱茶立。昨今兩

日休講。

飯。役敬中過訪。聞竹田死。沒於浪華。信否未詳。聞西光寺

主大清死。嗚呼哀哉。

二十六日 改二月旦評。雁二郎加五級上。玄佳加

五級下。圖書加四級下。元可。金三。代吾加三級

上。保三郎。蒼海加二級上。蒼海實前。事本。祐光

耀加二級下。俊吾。賢三。謙吾加一級上。三省。仲

助。省三加一級下。猪吉。再入加三級上。秀達。法澤入席。

卯之助。林次。玄吉。豐水除名。凡一百四十八人。

現在塾生六十九人。外來生二十八人。聞綿屋市

右衛門死。市右衛門本名八十吉。予竹馬友也。

長子二歲。奄忽而逝。嗚呼哀哉。

二十七日 柳川僧退流入門。來見。謙吉供晚飯。仲

平來真同座。

二十八日 久兵衛自豐前歸。來見。

二十九日 起唐詩選講。

十月朔 赴仲平招同座。叔父。久兵衛。仲平。謙吉。

賀久兵衛疾愈也。周防人青木豐太郎入門。來見。

七日 起高青邱詩講。最勝歸塾。爲侍史。伊織來

訪。

八日 與妻赴魚町招慶潤吉生也。鉄之助男。同座。

伊織。仲平。謙吉。勳平。久兵衛。近暮而歸。

九日 十日 十一日

十二日 胸鬱頭痛。飲食無味。大便不利。

十三日 疾如昨。服哲平藥。仲平來話。供飯。

十四日 疾如昨。大便小通。

十五日 疾如昨。夜吉原官次。佐藤恒之丞來訪。

十六日 大便快利。服三黃丸。疾頗得愈。

十七日

十八日 謙吉招供午飯。同座。妻。仲平。鉄之助。謙

吉。

十九日 吉原官次。役于石來訪。留供晚飯。併招

謙吉。

二十日 官次。松村爲侍史。與鉄平。保三郎。最勝。



四人。良助臥疾近三句。故不在其數。發下答權藤直。合原安藝守書。謙吉將西遊託焉。答國島俊藏書。託吉原官次饋魚於西家。以請予焉。往而午飯。同座。官次。

役于石。謙吉。是日高青邱詩抄講卒業。靄北推明朝第一。今信其言非誣。嗚乎。李何。王季。徐襄。鍾譔。何虛名之多也。夜官次告別。

二十一日 微雪。鉄平還郷。婢發歸家。倩故婢雪。事在二十日。誤記於此。

二十二日 孫女誦沒後百日祭。謙吉供晚飯。與妻往焉。同座。僧圓智。謙吉。嗚乎。光陰如矢。不可回思。徒傷神耳。不若安命。

二十三日 開禮記講。就中抄數篇。謙吉之吉木。予代任塾政。發下答艸場珮川書。包彼稿二卷。

二十四日 松菴三郎。玄佳之筑後。仲平來話。供飯。純菴之筑後。夜兒玉茂來訪。供酒。

二十五日 一次郎與疾還郷。五郎兵衛隨行。傳三。素雄送之於路。夜素雄山北書至。山北筑後地。距此三里。報一次郎在途病急。使下來真率塾生四人往

也。見服部權六。府君著都。九月二十四日也。无識。告事。又有其弟超遷之事。故往賀焉。釋忍梁過訪。

二十九日 一道。洞觀。鳳瑞還郷。午時久兵衛招供飯。同座。仲平。久兵衛。夜久兵衛來別。之府內也。

晦日 自一昨日至此日。村作雜劇。凡三日夜。劇場在西家南邊。家供給來賓。頗覺喧鬧。

十一月朔 中村傳次郎。官府庶役。來觀於塾。伴一人。未予往接待。代吾歸塾。夜婢發回。凡十二日。而回。二日 媳婦招供蕎麥及飯。妻亦往焉。

三日 (冬至) 婢雪辭去。放學。仲平來話。供飯。三郎歸塾。晚招媳婦。阿皆。供麵及飯。是日宿雨始晴。風日清明。有來復之象焉。

四日 秀達歸塾。蒲池久市來訪。供蕎麥及飯。是

醒齋日曆卷十上終

視之。是日胸鬱頭痛。蓋以昨夜飲酒也。是日開詩觸講。抄而講之。

二十六日 (疾) 荒木吉次來訪。改月旦評。素雄。雁三郎加六級下。元可。金三。猪吉加四級下。孝次。於菟太郎加三級上。元亨加三級下。德滿。順之助。光耀加二級上。但順。謙三加二級下。崇愷。米三。寬次加二級上。一道。洞觀。勝順加一級下。豐太郎。沍流入席。宗甫轉客席。良安。貫次。敬一。禮太郎。溫菴。東旭除名。凡一百四十四人。現在塾生

凡五十九人。外來生凡十九人。素雄。雁三郎。皆不在不準。夜一次郎與疾回鍛冶屋。來真。素雄。雁歸郷例。

三郎。元亨。靜。吉之助歸塾。現在塾生凡六十五人。初開一次郎在途疾急。極相惶惑。以懲勸次郎之事也。筮之。遇婚之。談。云臂无膚。其行次且。屬無大咎。果如其言。

良助病痊為侍史。凡四人。二十七日 以疾未愈。服尚賢藥。玄佳。滿達歸塾。

二十八日 詣府。賀府君著都。及三島君超遷。日頭痛。

五日 一次郎族人來見。看一次郎疾也。未報姓名。眼疾大動。蓋為過溫所傷。勉節衾爐可也。

六日 眼疾益加。謙吉自筑後歸。松菴歸塾。七日 眼疾如昨。

八日 眼疾如昨。一次郎疾閒。歸郷。元亨送到山北。發下謝玉井元純。田代大造書。二生皆為二上。次郎。周旋。

九日 雪。眼疾如昨。僧包含。筑前醫中村文齋入門。來謁。但順。法英還郷。

十日 祖妣忌辰。魚町以祭招。以恙不行。饋賸最勝還郷。眼疾如昨。

十一日 眼疾如昨。服松菴藥。

十二日 眼疾益進。廢諸講。之新原。訪兒玉茂。不遇。見女龍。得水藥。而歸。順之介。正順。從行。



# 醒齋日曆卷十下

十一月十三日……二十九日

十二月朔日……七日

八日 十三日以來 眼疾不愈。加以逆上。面熱如

火。精神煩躁。不能事事。日曆亦置不錄。兩三

日來。得小間。顧待全愈後而記事。則記述長廢。

亦不可知。於是詎勉執筆。三旬來事。其存於

胸臆者。不拘次第記之。兒玉茂來。視疾。十一月十

四初用煎湯及水藥。兩三日來。始用熨藥。熨藥似有

効。松本龍山父死。使尙賢往弔也。松本凌雲。童幼所識。壽蓋七十六七。

松本龍山。諫山春安。皆來診疾。予請之也。伊織女

嫁彌六男。以十一月十八日成婚。請妻及謙吉

夫妻。携女而往。因以十七日同發。謙吉以廿

五日。妻。媳婦以廿七日來歸。予有疾。妻不宜旅行。以久兵衛夫

也。妻苦請。雇婢雪侍疾。凡十日。妻不在故。傳藏之東

都。以府君命也。是人去塾。人々相慶。官府亦然。甚哉壁籠之害也。鹽屋平

右衛門招。以疾辭。久兵衛。伸平。謙吉同來。賞雪

於心遠處。合釀作歡。陶詩抄成。壽八郎所寫也。選既精確。書亦妍美。

可爲診藏。故記。保三郎還鄉。孝治代爲侍史。與良助。知詔。寬次。四

人。赴伸平招。供酒飯。久兵衛。謙吉。伸平同座。

歸路送以肩輿。謙吉招供飯。與妻同往。謙吉

改月旦評。直次加六級上。伸平加五級上。代聽。

圖書。猪吉加四級上。良助。尙賢加三級上。吉之

助加三級下。太伸。本教。自本加二級上。惠周。

哲之助。謙益。崇愷。寬二加二級下。藤次郎。省造



加一級上。修。三郎改稱瑞應加一級下。包含。文齋入席。又太郎。彌次郎除名。凡一百四十四人。與謙吉謀。使來真於筑。山本吉右衛門過訪。

九日 (疾) 勳平過訪。

十日 (疾)

十一日 (疾) 與妻赴久兵衛招午飯。久兵衛。伸平。謙吉同座。

十二日 (疾) 謙吉招供朝粥。久兵衛。伸平。謙吉同座。

十三日 (疾) 朝招久兵衛。伸平。謙吉供粥。既散。與謙吉散步。到黑男祠。良助諸子從行。

十四日 (疾) 雇素雄。作書札十餘。幸大藏來訪。夜逆上。面熱眼溢。數日來疾稍快。至昨今又動。以其乘快使氣也。病加於小愈。戒哉慎哉。且腹微痛。爲午飯所傷也。

十五日 中村平左衛門來訪。先是爲彌六聘其女。予妻爲媒介。來往其間。至是事成。故來謝。

也。

十六日 (疾) 同久兵衛詣合原。中村二氏。善三郎媒人也。歸路憩魚町午飯。來真歸塾。

十七日 孝次還鄉。大和屋次助來別。日州人以訟事來。止于豆田。百餘日。時來聽講。今事畢而歸。謙吉迎供午飯。來真。元可同座。中村氏妻携其女來別。夜妻之魚町宿。

十八日 中村氏女嫁於彌六。予妻及鉄之助送之。予與婢發守家。

十九日 (疾) 於菟太郎爲侍史。代孝次也。與良助。知祥。官次四人。謙吉迎供晚飯。始服松菴藥。服兒玉藥。蓋八九十貼。煎湯。蒸藥。水藥。

二十日 (疾) 大島熊太郎過訪。謙吉供晚飯。

二十一日 (疾) 雪。招謙吉供粥。夜寒甚。大寒節餘寒。轉酷。

二十二日 (疾) 謙吉招供粥。謙吉作月旦評。平三郎加五級上。圖書。猪吉加五級下。元可。金藏加

予。名苞。字君茂。稱省吾。阿波人。長予四歲。甚左衛門先歸。饗之於南塢。予與謙吉伴客。夜遂留宿。是日雪。

二十五日 雪。朝飯畢。海屋返隈町。魚町搗餅。與妻往會。同座。叔父。久兵衛。伸平。謙吉。

二十六日 雪。謙吉來。小酌。直次陪焉。家人亦會。

二十七日

二十八日 官次歸塾。

二十九日 塾生饋鯉魚於予及謙吉。招久兵衛。伸平同食。

晦日 門生守歲於塾者。凡四十二人。

二十三日 (疾) 雪。謙吉之隈町。館貫名海屋。在甚左衛門家。

二十四日 貫名海屋與門人及鍋屋甚左衛門來訪

四級上。朔十郎。良助。尙賢加四級下。得髓加三級上。純菴。光耀加三級下。保。謙三加二級上。法英。省造加二級下。圓智。太郎加一級上。

志誠。辰五郎加一級下。靱負。姓榎本。畫工也。入席。隆太郎。行藏除名。凡一百四十三人。官次之博多。元可。得髓還鄉。大歸也。聞貫名海屋來於隈町。

與謙吉議。使來真。玄佳往館焉。夜妻及鉄之助自豐前歸。

醒齋日曆卷十下終



醒齋日曆卷十一

(五十五歲)

天保七年丙申正月元日乙酉。予年五十有五。住堀

田村。晝居。南塙之淡窓。夜臥。長春菴北軒之東

偏。卯時起。吃糕飲屠蘇。受諸生賀。拜祖先

歲神諸神。之西家。拜聖像。試筆賦詩。讀

天保詩。賀客麇至。石井平右衛門。手島于石供

飯。是日天晴而多寒風。全家無事。

二日 詣官府。賀服部權六相見。供屠蘇。遂遍詣諸

僚屬。歸路詣親戚及邨中。午時招玄佳。良助。知

韶。乙太郎。官次。供糕及酒。玄佳書記。四子侍史。

三日 山本吉右衛門來賀。魚町作節。同座中村平

左衛門。招中村氏爲彌六婚也。袋屋善三郎。丸屋與次兵衛。

濱田屋喜右衛門。魚屋助七。直太郎。叔父。猪三郎。

伸平。謙吉。及家眷數人。久兵衛。鉄之助陪客。

四日 伸平作節。同座。叔父。久兵衛。謙吉。鉄之

助。及家眷數人。遂上塚。久兵衛。伸平。謙吉同

行。歸路與久兵衛。憩西家。喫茗。

五日

六日 謙吉率門人詣府而賀。山本吉右衛門以下

數子受謁。歸而觴之。蓋六十一人。

八日 官府有御用始之宴。依例見招。同座。森壯

吾。石井貫市。草野重次。山本。服部。長谷部諸子。

更代接客。殆半日而回。夜嚏而不已。如下感風

邪者。上

八日 發熱涕出。具風邪證。服松菴藥。門惠。久市



來訪。供飯。

九日 疾勢更進。叔父。于石來話。供飯。

十日 疾如昨。夜宿南塢。畫寐焉。遂不回。

十一日 疾：十八日疾。

十九日 自十一日來。疾勢稍退。而痰浮鼻室。聲

啞不出。志氣困怠。懶於筆記。因致日曆曠廢。

及是勉勉脩整以就事。追記往事。事無次第。

合原氏作節見招。以疾不赴。饋膳。鹽屋平右衛

門招貫名海屋。併請予父子。謙吉往焉。予以疾

辭。西家作節。同座。善三郎。叔父。久兵衛。仲平。

鉄之助。予妻。鶯來庭樹。其聲宛轉。每曉必至。于

今十餘日。往年亦至。今年最久。仙石侯國有亂。削地。執政

左京。專權亂國。或傳潛弒先君。事聞東都。有命。削二萬八

千石。爲三萬石。左京首於市。其他處置未聞。其詳實清時

變也。貫名海屋來訪。謝客冬。饗也。牧野廉平。池田春山

來。請再受業。廉平故。稱會林。魚町二似二姪女以下十

餘人過訪。供飯。塾生贈酒肴。會飲南塢。同座。

純加一級上。包含。連加一級下。春山加四級下。鶴藏

入席。泰寂。恕助。一。金男除名。凡一百四十一人。

現在塾生四十六人。外來生十五人。叔父來話。供

飯。

二十六日 西婢回來。家婢歸家。久兵衛之杵築。

二十七日 往謁大原及龍馬森 神祠。訪橋本出

雲。陸奥官次從行。豐前醫生岩田敬篤入門。居

塾。最勝入塾。

二十八日 權藤直來於隈町來訪。圖書入塾。要

人入塾。

二十九日 伯考忌辰。會魚町祭。同座。大超寺繼

僧。叔父。鉄之助。使松菴往館。權藤直。故婢雪來

宿。夜。齧腫喉痛。睡臥不穩。加爲鼠攪。展轉達

曉。疾蓋上衝所致也。或痰症雖退。餘毒猶存。近日食无味。小便不利。蓋其源一也。自失。鼠害稍甚。猫生子家。于茲十年。忽失所在。爲狗所害無疑。嗚乎可憐哉。

二月朔 (疾)詣府而賀。見中村三郎。遂詣諸僚

妻。仲平。謙吉。媳婦。五郎兵衛妻。二婢。爲久兵

衛。開遠思樓詩集講。夜移宿於菴。三松鶴藏入

門。來見。順弟。失猫。

二十日 良助之筑前。

二十一日 金藏爲侍史。代良助也。與知照。乙太郎。官次。凡四

人。仲平來話。供飯。

二十二日 久兵衛。仲平。謙吉來會。供午飯。

二十三日 詣鍋屋甚左衛門家。訪貫名海屋。門惠

來話。供午飯。晚與久兵衛。謙吉會食。

二十四日 謙吉之溫泉。別府或甘繩。久市。門惠。壽八郎

同行。媳婦及婢來我家。予代謙吉講史

記。仲平之古川。來別。是日頭痛。

二十五日 西家婢歸家。改月日評。董一郎。素雄

雁三郎加六級上。仲加六級下。泰聽加五級下。

代吾加四級下。主一郎。直次郎。改稱。元亨加三級上。

宇三郎加三級下。友松。崇愷加二級上。三省。正

屬。繁。秀達入塾。恒三郎。元亨。仲助太郎。修

出塾。外宿。以病濕瘡也。防其傳染也。招來真。供

酒及飯。以其將歸餞之也。服松菴藥。移寢於

南塢。避鼠暴也。婢辭去。

二日 (疾)家婢回來。西婢辭去。

三日 (疾)午時與來真。雁三郎。平三郎。龍助。散

步。謁莊手菅席。歸而小酌。鉄之助饋魚。招供

晚飯。

四日 (疾)雪江。敬篤還鄉。

五日 (疾)包含歸塾。法英入塾。惠周。豐太郎還

鄉。是夜就寢未眠。忽生惡寒。起而歸菴。呼

醒家人。看侍。招松菴調藥。既而寒熱交至。心

下煩惱。近曉略定。汗出故也。以下十日追記。

六日 以疾廢講及諸務。是日惡寒惡心既止。然心

下不和。四肢困怠。終日不能起。進稀粥及小

飯。



七日 (疾)義元和尙過訪。臥而相見。河州僧德雄入門。居塾。午後始起。憩南塲。

八日 (疾)竹太郎還鄉。八六入塾。

九日 (疾)辰五郎入塾。安三郎來。止塾。佐野東菴來訪。留宿。惠美洞春來訪。太仲使玄佳往館之。三吉郎。谷三自秋月一回。來訪。

十日 (疾)仲。研之助還鄉。主一郎之珍珠。菊竹磯八過訪。竹太郎入塾。佐野東菴去之豆田。

十一日 (疾)代吾還鄉。聞掌珠父僧以昨日歿。

父名大梁。予少年時嘗來聽。予日而歿。嗚呼哀哉。使春山吉之助代往而弔。予講。不在弟子之數。疾不經乎哀哉。佐野東菴再來。小集賦詩。來真。隆菴。直次。雁三郎同會。供酒及飯。于石後至。元可。

德滿入塾。夜雷。東菴留宿。

十二日 (疾)東菴去之豆田。

十三日 (疾)保三郎還鄉。佐野東菴來宿。伸平自筑後歸。來訪。

二十日 (疾)移寢於南塲。避鼠暴也。柳川醫生白仁元仙入門。居塾。

二十一日 與妻之魚町助祭。夜大超寺兩僧至。誦經供飯。予陪座。

二十二日 先妣歿後二十五年忌辰。朝與妻之魚町助祭。祭賓上客十餘人。及家人。厮役凡七八十人。申時上塚。伸平。彌六。謙吉。鉄之助同行。

久兵衛在杵築。彌六以是日來。鉄之助先回。予與三人歸憩南塲。供晚飯。話過夜二更而散。嗚乎先妣辭世。宛如昨日。倏忽經紀。屈指妣。伯考妣。古後氏姑。叔妣。先考。相次去世。自顧孑然獨立。悽愴之感交集。言之胸塞。強自寬耳。

二十三日 釋密乘來訪。昨來會祭。供飯。役于石偶至。亦與供焉。

二十四日 與妻應魚町請。會大原山。予與謙吉先往。謁金毘羅神祠。回而宴迴廊。蓋數十人。井吉從母。中村海藏妻。密乘。彌六夫婦爲客。予携繁先歸。是日晴而多風。妻留宿魚町。有恙。故。

十四日 (疾)相良靜壽七回忌辰。元達以祭招。以疾不起。忌實在七月。速之也。魚屋長八來。供飯。佐野東菴歸國。鉄平。幾太郎。來介。西島慶藏。入門。

幾太郎。起史記講。使隆菴代詣服部氏謝。三吉郎。伸平來話。供飯。保次入塾。

十五日 (疾)幾太郎入塾。直次。平三郎。吉之助之彦山。良助歸塾。謙吾入塾。

十六日 (疾)桑屋周平來訪。松吉郎也

十七日 (疾)朝訪諫山安民。請診疾。胸膈不食。小便不利。

使松菴調藥。午後伸平携魚而來。供酒及飯。島子石。來真與焉。直次。平三郎。吉之助歸塾。諫山春安將遊京攝來別。

十八日 (疾)琳平入塾。筑前醫師□□□來見。請其姪祐之入門。壽八郎自別府歸。入塾。

十九日 (疾)研之介入塾。武谷祐之來謁。居塾。謙吉夜自別府歸。媳歸西家。主一郎入塾。

二十五日 密乘來別。巳時與謙吉散步。來真。圖書。平三郎。俊吾從行。過魚町。拉伸平。丑六同往。登城內觀音閣。賞櫻花。酌酒煮茗。移時而同歸。伸平留話。紙屋平右衛門亦會至。皆供飯。是日清明和暖。然亦有風。

二十六日 改月旦評。玄佳。圖書加五級上。金藏加五級下。知照加三級上。謙藏加三級下。官次。省造加二級上。太郎加二級下。修。包含加一級上。龍助。周達加一級下。松菴轉客席。得雄。祐之。元仙。慶造。石眠。秀鶴入席。勳平。元韶。宗甫。甚之助。壽軒。自道除名。凡一百四十一人。現在塾生凡五十二人。外來生凡二十一人。虎屋莊右衛門來訪乞書。供飯。古賀氏從母來訪留宿。是日有微熱。如感風邪。服松菴藥。

二十七日

二十八日 饗彌六妻於長春菴。客吉井從母。善三



郎妻。招其媳。以疾辭。饋膳。彌六夫妻及女。久兵衛妻。伊織。伸平夫妻。予與謙吉爲主。

二十九日 緋白紅諸桃盛開。新柳如烟。春色於是爲美。葢櫻梨亦開。但不便觀覽。赴伸平招宴。北家同座。久兵衛。

晦日 蒲池久市携酒肴。訪謙吉。予亦與宴焉。釋明惠。來真。及西家侍史同座。是日風雨。庭前桃花略盡。昨盛今盡。速哉消長也。

三月朔 爲久兵衛。興遠思樓詩集講。供飯於久兵衛。

二日 雨。詣府而賀。見服部權六。遍詣諸僚屬。以雨不過親族而歸。申時塾生上等者。設宴於西家。予與妻亦與焉。

四日 知韶。於菟太郎。官次。皆以患瘡。出塾外宿。俊吾。省造。崇愷代爲侍史。與金藏四人。

十二日 久兵衛迎至尾箇瀨。觀醮釀花。謙吉。來真。直次。守一。文董。鉄之助。從行。路逢上堰惣右衛門。亦同行。醮釀盛開。久兵衛所裁也。凡三百余步。山吹未。知漢名。姑以醮釀稱。再考可也。憩亭上。發行厨。既而乘舟湖洞者七八町。歸路試穿匿溝者數十步。迨暮而歸。是日天清不熱。勝於九日。

十四日 魚屋長八來話。供飯。釋圓智。廣圓自京歸來訪。午後謙吉。門惠來。小酌。家人亦與焉。飲畢。散步到黑男祠。

十五日 加峯礮梁來別。與謙吉詣府而賀。見郵尾惣左衛門。遍詣諸僚屬。路過相良元達。謝雪之祭。見招也。釋鼓月來訪。供飯。水岸寺老僧過訪。蒲池久市過訪。供飯。夜采蘭留諸東塾。

十六日 與謙吉赴久兵衛招。供鮮。叔父。鉄之助同座。

五日 使良助之筑肥。遠思樓詩集略脫稿。故使齋二部。詣昭陽。瑛川二子乞止。良助將遊長崎。故託焉。

六日 彌六妻及女來別。夜歸宿葺。

七日 彌六來別。加峯礮梁來訪。借儀右衛門家留宿。志在停留。爲之借居。

八日 開論語講。廢史記講。

九日 舉家赴蒲池久市招。已時予與謙吉先發。淳庵從行。過岳林寺。訪長老。謁東照宮。及至才田。妻媳二婢與加峯礮梁。來真同至。十二町藤九郎亦來會。午飯畢。至後山。採薇。移時而歸。開酒宴焉。及暮予與來真先歸。他則至二更方歸。是日天清氣朗。但以山禿无陰。頗覺暄熱。

十日 (疾)久兵衛來聽講。供午飯。長野要人來訪。日夕小酌。妻媳。謙吉皆會。是日浴。入春始浴也。

十一日 (疾)吉井從母過訪。告別。

十七日 謙吉招供晚飯。久兵衛同座。

十八日 聞故婢春死。嘗仕子家二年。爾後往來不絕。病梅毒而歿。哀哉。致奠儀於其家。附麻生氏使。

十九日 與謙吉散步。至三本松。兒玉玄龍將卜居其地。及相良泰葦母亦移焉。因出訪之。從行者數人。

二十日 與謙吉散步。采蘭。雁三郎。壽八郎從行。訪鹽屋平右衛門。留供午飯。移時而出。乘舟涉江。遣壽八郎迎稻員渙度。過高瀨上野。詣村人八右衛門家。觀園。渡石井橋而歸。此路十八年前。陪伯父及清記。益多所過也。追想往昔。宛如昨日。而同遊者无存也。可堪潸然。發行厨於南塢。家人亦陪焉。夜役敬中來宿。

二十一日 與謙吉散步。采蘭。雁三郎。壽八郎從行。訪鹽屋平右衛門。留供午飯。移時而出。乘舟涉江。遣壽八郎迎稻員渙度。過高瀨上野。詣村人八右衛門家。觀園。渡石井橋而歸。此路十八年前。陪伯父及清記。益多所過也。追想往昔。宛如昨日。而同遊者无存也。可堪潸然。發行厨於南塢。家人亦陪焉。夜役敬中來宿。

二十二日 久兵衛來。供午飯。役敬中。謙吉與焉。夜覺困怠。

二十四日 謙吉迎供蕎麥及飯。與敬中俱往。



二十五日 敬中辭去。仲歸<sub>仲位次至</sub>鄉。大歸也。<sub>加六級</sub>

二十六日 堀江茂七郎來訪。謙吉館<sub>之於葦</sub>設<sub>下。亦後</sub>宴。予亦與焉。是日胸背鬱急。夜爲蚊所惱。

二十七日 謙吉改<sub>月且評</sub>。春山。常三郎。尙賢加<sub>二</sub>級上。竹太郎。知照加<sub>二</sub>級下。繁。純菴。光曜加<sub>二</sub>級上。太仲加<sub>二</sub>級下。良平。俊吾。包含加<sub>二</sub>級下。仲助。瑞應加<sub>二</sub>級上。謙三郎。達性加<sub>二</sub>級下。牛之助。<sub>三松牛之助</sub>請再入籍。六之助<sub>若杉氏</sub>入席。凡一百四十二人。<sub>現在數</sub>久兵衛招供<sub>不錄</sub>。與謙吉往焉。夜始設<sub>蚊帳</sub>。

二十八日 堀江茂七郎辭去。

二十九日 與久兵衛。謙吉散步。來真。采蘭。代吾。竹太郎。卯三郎從行。詣<sub>去年掘地所得。蓋明器屬</sub>上馬場。觀<sub>去年掘地所得。蓋明器屬</sub>邨氓家所藏古器。遂過<sub>去年掘地所得。蓋明器屬</sub>城內而歸。

四月朔 代謙吉爲<sub>去年掘地所得。蓋明器屬</sub>塾政。以謙吉東遊期迫也。

發。予與<sub>去年掘地所得。蓋明器屬</sub>數生。先歸。是日暄熱頓甚。始服<sub>去年掘地所得。蓋明器屬</sub>單衣。阿敏自<sub>去年掘地所得。蓋明器屬</sub>中津歸寧。來訪。

七日 阿敏再來訪。留宿。<sub>其兒亦</sub>玉井元純來訪。供飯。夜與<sub>其兒亦</sub>來真。采蘭。崇愷。之<sub>其兒亦</sub>北平觀<sub>其兒亦</sub>螢。是日閉<sub>其兒亦</sub>爐。祐之爲<sub>其兒亦</sub>侍史。<sub>與崇愷。省造。俊吾。四人。</sub>

八日 阿敏辭去。筑後僧雲集。大桃。嶺舍入門。居塾。<sub>雲集父爲擬講師。開龍寺住持。</sub>自本來。卯三郎還<sub>雲集父爲擬講師。開龍寺住持。</sub>鄉。

九日 主一郎。自本入<sub>雲集父爲擬講師。開龍寺住持。</sub>塾。謙吉自<sub>雲集父爲擬講師。開龍寺住持。</sub>筑後歸。孝次歸<sub>雲集父爲擬講師。開龍寺住持。</sub>塾。

十日 竹田僧蘭城。大村入村田濟民。本田久吉郎。福田治作入門。皆居<sub>雲集父爲擬講師。開龍寺住持。</sub>塾。於菟太郎入<sub>雲集父爲擬講師。開龍寺住持。</sub>塾。來真。采蘭。元亨還<sub>雲集父爲擬講師。開龍寺住持。</sub>鄉。來真大歸也。<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>

十二日 始朝捕<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>蚤。合原種男。宮原數馬歸<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>鄉。有事之<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>魚町。謙吉請<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>予及妻。供<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>午飯。爲<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>別未時。動平。元可與<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>良助歸。途<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>云。得<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>艸場珮川。龜

與謙吉詣<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>府而賀。見<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>邨尾惣左衛門。且見<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>服部權六。請<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>東遊事。遍詣<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>諸僚屬。歸路弔<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>升屋。以<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>萬右衛門死也。<sub>萬右衛門初稱武三郎。幼時所識也。年蓋六十七八。</sub>恆三郎。太郎。官次。哲之助。顯藏歸<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>塾。以<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>小瘡愈也。金藏去<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>塾爲<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>三松氏食客。長谷部谷三將<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>遊丹後。來別。

二日 琉助入<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>塾。

三日 末次山葦過訪。筑後人中邨壽作來見。松葦友也。兒玉茂。久兵衛。謙吉會話。供<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>飯。島子石將<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>學<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>醫於肥後。來別。<sub>先是與水岸寺。絕。遂變業學醫。</sub>

四日 平三郎歸<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>塾。瘡愈也。

五日 滿達還<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>鄉。高松人宇野司馬平來。請<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>受<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>業。居<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>鍛冶屋。<sub>自云。八九年前。嘗在塾。余不記憶。</sub>主一郎還<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>家。

六日 謙吉之<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>吉木。勳平。於菟太郎。孝治。秀達從行。予與<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>塾生四十餘人。送到<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>石井橋頭。投<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>一店。發<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>行厨。<sub>行厨。升屋茂七。釋門惠。玄海亦會。及謙吉所享塾生也。</sub>

蘭學醫於佐君則。略有<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>成緒。素雄之<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>長府。<sub>欲於彼降。唯也。</sub>太郎之<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>中津。<sub>送諸子也。</sub>久兵衛招<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>謙吉。勳平。餞<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>之。予亦與焉。久兵衛。仲平。鉄之助同座。<sub>勳平亦東遊也。</sub>使<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>勳平。元可之<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>筑前。<sub>以良助不同。往請龜井氏報也。</sub>兒玉茂招<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>謙吉。餞<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>之。予亦與焉。蒲池久市亦會至。拉<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>之同行。茂。主一郎陪<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>客。及<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>夜二更而歸。合原種男。宮原數馬至。別<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>謙吉也。館<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>之於葦。<sub>與僕三人。</sub>

十三日 伸平招<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>謙吉。餞<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>之。予亦與焉。久兵衛。伸平。鉄之助同座。是日東都信至。報<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>府君轉任。爲<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>二丸御留主居。與<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>謙吉往賀。見<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>服部權六。府君語<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>都之日。頗有<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>詰問。分疏得<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>釋。將<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>赴<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>舊任。息捨五郎君。爲<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>御小納戶。頗見<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>親用。奏請罷<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>其遠官。以便<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>定省。乃有<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>今命。其位次在<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>御郡代之上。其任閑散。待<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>衰老之設云。府中悵然。以<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>失主也。雖<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>予輩。亦屬<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>臣籍。則其感同矣。是日先賀而後相弔。未<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>知<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>新令。夜多<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>蚤失<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>寐。爲<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>何人。人心洵然。

十四日 始朝捕<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>蚤。合原種男。宮原數馬歸<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>鄉。有事之<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>魚町。謙吉請<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>予及妻。供<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>午飯。爲<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>別未時。動平。元可與<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>良助歸。途<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>云。得<sub>來真既以甲午冬大歸。去年以府君命召之。復留塾一年。前後凡十年。此人極有才。文學非其長。蓋篤實遜德令。而知術過之。其在塾人望。略相同云。采</sub>艸場珮川。龜



井鉄次郎報。遠思樓集。二部亦同。乃事考訂。良助居塾。

十五日 休講。不出賀。以考訂也。午時略畢。

招釋聞惠。雁三郎。玄佳。壽八郎。使之謄寫。皆

留食予家。予加訓點批圈。是夜謙吉夫妻。婢雪

去西家而來止菴中。使諸生守西家。以東遊

期迫也。予與妻宿南塢。濟民還鄉。

十六日 玄佳。雁三郎。壽八郎。聞惠。終日謄寫。謙

吉搬家具書籍於予家。請予按籍受之。是日

與謙吉。議刻東發日。以十九日爲期。

十七日 四子來會如昨。隆菴亦來助之。初招之。以疾不來。

申時謄寫畢。附隆菴。裝成之。是日大畑謙作來。

請再受業。止塾。四子來兩日半。隆菴一日。而兼表裝事。

十八日 遠思樓集裝成。再加考訂。附謙吉齋之。

欲託小林安石。上之於梓也。自十四日來。考

訂謄寫交起。加以謙吉託家具諸事。吐哺握髮

拮据交至。勞疲極矣。良助失期。而東發期迫。故匆忙如是。太郎歸塾

十九日 謙吉延東發日。以廿二日爲期。

二十日 落前齒。六七年來前齒稍脫。猶餘中央一齒。至是養齒不慎。致速摧折。雖悔无及。自今以往。宜禁釋法。堅硬物。不食。不然。其致疾不可測也。慎哉。慎哉。

城來訪。丑六烹雞。來餞謙吉。予及伸平與焉。

二十一日 夜釋玄海。惠禪。松本龍山。蒲池久市携

酒肴來餞謙吉。予亦與焉。

二十二日 朝設膳。餞謙吉。勳平。元可。一郎。尙

賢與焉。四子與謙吉東遊者。而一郎獨留廣島。已時謙吉發家。予學家

送之。久兵衛。伸平。亦携家人出餞。其他親朋及

奴婢。凡二三十人。宴於菅相寺。送到邨端而別。

門生別出餞石阪之上。蓋亦四十餘人。及暮至石

阪。者反。其至森實中津。者未反。謙吉有東遊之志。久矣。予亦從之。運徊不果。以至今日。而臨歧惆悵。予乃不墮。潛然吞聲而已。亦老徵也。所待書信常至。吉報春開耳。是日町

田長之助過訪。今改稱仙菴。夜歸寢於菴。

二十三日 良平。慶藏還鄉。良平父病。家信呼反。起論語講。

以壽八郎爲食客。謄遠思樓詩集。佐藤仙吾來

訪。時在肥後深水氏塾。塾生至森實者皆反。法英告別。

夜移寢於南塢。以門外。夜喧也。

二十四日 移座於西家。以南塢幽僻。不可管諸塾也。居南軒西

偏。以西家雞二託兒玉玄龍家。一雌。秀鶴薙髮爲僧。以資糧不給乞食也。

二十五日 始在東塾。檢授讀及推敲之事。自此爲日子之作來。供飯。叔父來話。供飯。西婢辭去。始爲壽八郎講古文真寶。法英入塾。

二十六日 良助之赤馬關。得雄。石眠。秀鶴之筑

後。改月且評。金藏加五級上。琳平。孝次加四

級下。琳平不在塾。以其屬師家事。格外進。文董加二級上。崇愷。省造

加三級下。季松。包含加二級上。圓知加二級下。

惠門。連加一級上。六之助。雲集加一級下。亭作

再司馬平。雲集。大桃。令舍。蘭城。久吉郎。治作入

席。宗仙。董一郎。采蘭。壽八郎。保三郎。順吾。勇。

岩五郎。昇慶。賢次。茂。環音。達明。秀山。壽貞除

名。凡一百三十五人。現在塾生凡四十一人。外來

生凡二十二。以近年例推之。名籍當有百六七十人。塾生當及七十人。甚哉其衰也。抑予之志。

非爲家謀。非爲身謀。唯爲人耳。學之不講。行之不修。是我憂也。人之多少非所論。

二十七日 稻員渙度自中津回。得謙吉書。渙度者。書言。將以留之止宿。供飯。佐藤仙吾來別。廿九日渡船。

二十八日 稻員渙度辭去。賢吾去塾外宿。司馬平

入塾。

二十九日 荒木吉次過訪。命雁三郎開蒙求講。

晦日 親作論語會頭。罰犯夜行禁者九人。爲

輪直。最勝。仲助。安次。哲之助。法英。元仙瑞應。自本。而林平以不在塾除。有事之魚

町。

五月朔 詣府而賀。遍詣諸僚屬。道訪升屋重次。

新自。京歸。一丁目平五郎。新納。密如以前月廿日獲。視。今又自訪。其症。頗重。見人不識。口不能言。斯人予竹馬也。少予一載。蓋以酒房過度。致疾者歟。嗚乎。可不畏慎哉。

遂會魚町饗宴。潤吉始遇。端。同座。丸屋七兵衛。袋屋

善三郎。叔父。直太郎。久兵衛。伸平及家眷數人。



夜送謙吉之<sub>二</sub>中津<sub>一</sub>者。皆反。研之介。平三郎。大吾。琳平。純菴。吉之助。凡人。

六 德雄。石眠。秀鶴歸塾。德雄歸在。一兩日前。秀達入塾。

二日 俊吾去塾外宿。寓<sub>二</sub>儀右衛家<sub>一</sub>。從父居也。

三日 官次之博多。最勝。堅吾還鄉。堅吾外宿。然有<sub>レ</sub>關<sub>二</sub>係於塾<sub>一</sub>。故

記。研之介入塾。大檢改塾生職掌及居處。事煩不記

玉井元純過訪。壽八郎所<sub>レ</sub>騰遠思樓集卒業。辭去。爲<sub>二</sub>食客<sub>一</sub>。凡十一日。

四日 秀鶴出塾。乞<sub>二</sub>食於<sub>一</sub>近村也。得雄出塾。同<sub>二</sub>秀直次。卯

三日 郎入塾。聞謙吉以<sub>二</sub>朔日<sub>一</sub>發船。

五日 詣<sub>レ</sub>府而賀。見<sub>二</sub>服部權六<sub>一</sub>。遍詣<sub>二</sub>諸僚屬<sub>一</sub>。及市中親識。過<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>。久兵衛留供<sub>二</sub>午飯<sub>一</sub>。久兵衛。伸平同座。

六日 始檢<sub>二</sub>塾生假借事<sub>一</sub>。作<sub>レ</sub>簿。得雄歸塾。

七日 賢藏還鄉。吉之助之<sub>二</sub>筑後<sub>一</sub>。

八日 有事之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>。

九日 夏至。釋聞惠將<sub>レ</sub>遊<sub>二</sub>京師<sub>一</sub>來別。

十日 久兵衛招供<sub>レ</sub>鮓。久兵衛。伸平。鉄之助同座。

十一日 代吾之<sub>二</sub>小倉<sub>一</sub>。兒玉茂導<sub>二</sub>柳川儒臣中野彦市<sub>一</sub>來見。供<sub>二</sub>酒及飯<sub>一</sub>。彦市遂留<sub>二</sub>五郎兵衛家<sub>一</sub>。

十二日 琳平還鄉。爲<sub>二</sub>中野彦市<sub>一</sub>。艸<sub>二</sub>詩話數則<sub>一</sub>。

十三日 爲<sub>二</sub>中野彦市<sub>一</sub>講<sub>レ</sub>詩。日講記。始也。蒲池久市來訪。供<sub>レ</sub>飯。

十四日 琳平入塾。官次歸塾。後藤作彌來見。市也。伴

十五日 秀鶴歸塾。

十六日 唐津人山田稱平來謁。與<sub>二</sub>中野彦市<sub>一</sub>同宿。

十七日 伸平來話。供<sub>レ</sub>飯。竹太郎還鄉。

十八日 頭痛胸鬱。服<sub>二</sub>松茸藥<sub>一</sub>。

十九日 叔父來話。供<sub>レ</sub>飯。

二十日 論語講卒業。

二十一日 元仙出塾外宿。

二十二日 鹽屋平右衛門。佐藤壽八郎。來話供<sub>レ</sub>飯。

代吾歸塾。

二十三日 莊子開講。仲助之<sub>二</sub>筑後<sub>一</sub>。

二十四日 官次之<sub>二</sub>筑前<sub>一</sub>。以其家命<sub>二</sub>改<sub>一</sub>。事<sub>二</sub>龜井氏<sub>一</sub>云。安次之<sub>二</sub>長崎<sub>一</sub>。司馬平還鄉。始服<sub>二</sub>絺衣<sub>一</sub>。

二十五日 改<sub>二</sub>月旦評<sub>一</sub>。春山加<sub>二</sub>五級下<sub>一</sub>。要人。於菟太郎加<sub>二</sub>四級下<sub>一</sub>。宇三郎加<sub>二</sub>三級上<sub>一</sub>。六郎。包含加<sub>二</sub>三級下<sub>一</sub>。但順。俊吾加<sub>二</sub>二級上<sub>一</sub>。瑞應加<sub>二</sub>二級下<sub>一</sub>。秀達。雲集加<sub>二</sub>一級上<sub>一</sub>。得雄。大桃加<sub>二</sub>一級下<sub>一</sub>。傳藏。官次除名。凡一百三十三人。現在塾生凡四十九人。外來生凡二十人。比<sub>二</sub>前月<sub>一</sub>。又減<sub>二</sub>二人<sub>一</sub>。

二十六日 龜井鉄次郎書至。報<sub>レ</sub>昭陽先生以<sub>二</sub>本月十七日<sub>一</sub>卒。持齋廢<sub>レ</sub>業。家中並塾過密。嗚乎哀哉。予年十五。始詣<sub>二</sub>筑前<sub>一</sub>。調<sub>二</sub>先生<sub>一</sub>。行<sub>二</sub>束修<sub>一</sub>。今四十一。年矣。爾後往來亦繁。南冥先生之歿。予往弔焉。是相見之終也。今亦二十三年。去歲以來。聞<sub>二</sub>其有疾<sub>一</sub>。而不<sub>レ</sub>慮<sub>二</sub>其及<sub>一</sub>此也。先生視<sub>レ</sub>予猶<sub>レ</sub>子。予不<sub>レ</sub>能<sub>二</sub>事如<sub>一</sub>父。真可愧也。先生名望顯著。固不<sub>レ</sub>待<sub>レ</sub>言。泰山梁木之嘆。世人所<sub>レ</sub>同。不<sub>レ</sub>獨<sub>二</sub>予輩<sub>一</sub>也。嗚乎哀哉。年六十四。

二十七日 太仲出塾外宿。

二十八日 雷。使<sub>レ</sub>玄佳。松菴之<sub>二</sub>福岡<sub>一</sub>。弔<sub>レ</sub>喪。包含。自本。以<sub>レ</sub>疾出塾外宿。山田稱平東去。告別。託<sub>二</sub>與<sub>一</sub>。謙吉<sub>一</sub>書<sub>一</sub>。

二十九日 使<sub>二</sub>塾生起<sub>一</sub>講。予尙持<sub>レ</sub>齋。

晦日 中野彦市來別。太仲。元泉。大桃。令含還鄉。

六月朔 修入塾。吉之助歸塾。法梁入塾。聞<sub>二</sub>謙吉<sub>一</sub>既着<sub>二</sub>大阪<sub>一</sub>。限<sub>二</sub>町<sub>一</sub>今津屋某自<sub>レ</sub>東歸<sub>一</sub>。傳<sub>二</sub>其所<sub>一</sub>聞<sub>二</sub>非<sub>二</sub>面相見<sub>一</sub>云。

二日 雷。

三日 罷齋。雷。夜玄佳。松菴。自<sub>二</sub>筑前<sub>一</sub>回。鉄次郎報<sub>二</sub>至<sub>一</sub>。贈<sub>二</sub>遺物於<sub>一</sub>予。及謙吉。

四日 移<sub>二</sub>座於西家<sub>一</sub>。前月中旬後以<sub>レ</sub>疾歸<sub>二</sub>南塢<sub>一</sub>。起<sub>二</sub>莊子講<sub>一</sub>。

五日 媳之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>留宿。石眠。鶴州。秀雀<sub>二</sub>之<sub>一</sub>筑後<sub>一</sub>。

六日 媳自<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>回。夜之<sub>二</sub>魚町<sub>一</sub>。訪<sub>二</sub>伸平及姪孫本疾<sub>一</sub>。伸平暴病。本麻疹。仲助歸塾。

七日 詣<sub>二</sub>官府<sub>一</sub>。候<sub>二</sub>暑中安否<sub>一</sub>也。遂訪<sub>二</sub>山本院疾<sub>一</sub>。比<sub>二</sub>前日<sub>一</sub>。稍間。雲集有疾。出塾外宿。有田醫生中尾喜市



八日 入門。玄民子也。玄民初稱廣人。予舊門生。

九日 曉雷。

十日 官賜繩牀一。風爐一。詣服部氏而謝。府君服部氏以其不可致。遠貽之於予。大桃。嶺舍。入塾。雷。

十一日 竹太郎入塾。釋無物來。請再受業。留塾。

十二日 雷雨殆終日。溝渠皆漲。平地出水或至三尺餘。田町。

十三日 無物出塾外宿。隸農懇水。南田爲漲所壞。託鉄之助檢之。

十四日

十五日 詣府而賀。放學。祇園會如例。全家赴魚町招。供午飯。同座叔父。久兵衛。拜神輿行幸。晚飯於仲平家。

十六日 媳婦歸寧。婢皆。奴半次郎從行。語錄一卷

脫稿。玄佳筆受用假名字。論作文法。凡十葉。

十七日 晒書。安次入塾。

十八日 晒書。仲來訪。供飯。

十九日 晒書。謙吉及塾藏書預焉。故及三日。婢皆。奴半自吉木歸。鳥子石自肥後歸。來訪。

二十日 雷。平三郎去塾。寓諫山安民家。資糧不給。故去學。石眠。鶴洲歸塾。

二十一日 遷座於東家南軒。以西家熱也。升屋源五來訪。謀鳥子石事也。欲復之於水岸寺也。

二十二日 洞觀。法瑞還鄉。是日胸間停滯。不食。恐發惡寒之症。服藥保持。夜頭痛。采蘭。最勝自甘木來。來見。留鍛治屋。

二十三日 病小愈。采蘭來話。供飯。廢莊子講。

二十四日 仲平。鳥子石來話。供飯。于石告別。再之肥。長崎高木氏屬吏二員到縣。受代也。新令尹稱。

大竹莊九郎。數年前以勘定。檢海西田而增賦者也。公命以本月。使高木氏受代。而後傳之於大竹氏也。新令蓋以八月。

二十七日 采蘭之甘木。使省造送之。夜謙吉大阪信至。

二十八日 官府交代。高木作右衛門君攝郡代事。高木氏自鹽谷府君代三河口君。凡二十一年。在長崎。攝之也。鹽谷之屬。服部長谷部。村尾三子。出府僑居。行之東都也。其他皆居府中。將俟新尹而仕之。叔

父引筑前人廣瀨彌左衛門。來見。雷。

二十九日 法梁還鄉。暴雷。震於千體寺銀杏樹。鉄之介來話。供飯。

之際。來也。服部。長谷部諸子。既出府外宿。

二十五日 病全愈。起莊子講。崇愷。但順。次作。久吉郎還鄉。光耀。自本之長崎。

二十六日 改月日評。代吾。琳平。孝次加四級上。純蒼加四級下。當以前月進。失考。纒一月。安次加三級下。

連。雲集加二級下。一道。六之助加一級上。祐之。法梁加一級下。傳。喜市入席。來真。良助。法

澤除名。凡一百三十二人。又減一人。現在塾生凡四十人。外來生凡十九人。再考加級者二人。主一郎加四

級下。吉之助加三級上。夜采蘭告別。

醒齋日曆卷十一終



醒齋日曆卷十二上

七月朔 法英。雲集。孝治還<sub>レ</sub>鄉。發<sub>下</sub>與<sub>三</sub>謙吉<sub>一</sub>書<sub>上</sub>。

託<sub>三</sub>鉄<sub>一</sub>之助<sub>一</sub>。夜西塾新塾失<sub>レ</sub>財。衣服刀劍諸具。失<sub>レ</sub>之者蓋十人。

二日 與<sub>三</sub>塾生議。託<sub>三</sub>市人<sub>一</sub>搜<sub>レ</sub>盜。夜省造自<sub>三</sub>甘木<sub>一</sub>。

歸。居<sub>三</sub>鍛冶屋<sub>一</sub>。采蘭之來。宜<sub>三</sub>再從<sub>三</sub>佐野氏<sub>一</sub>而爲<sub>レ</sub>人所<sub>レ</sub>欺。有<sub>三</sub>貳心<sub>一</sub>焉。鞠<sub>レ</sub>之伏<sub>レ</sub>辜。再之<sub>三</sub>甘木<sub>一</sub>。故使<sub>三</sub>省造送<sub>レ</sub>之。且謝<sub>三</sub>東菴<sub>一</sub>。東菴待<sub>レ</sub>之如初云。

三日 丑六來話。供<sub>レ</sub>飯。之<sub>三</sub>魚町<sub>一</sub>。謀<sub>三</sub>盜事<sub>一</sub>也。

四日 主一郎。祐之爲<sub>三</sub>常侍<sub>一</sub>。罷<sub>三</sub>西家侍史<sub>一</sub>。以<sub>レ</sub>移<sub>三</sub>座<sub>一</sub>於東家<sub>一</sub>也。

五日 高祖忌辰。會<sub>三</sub>魚町祭<sub>一</sub>。併祭<sub>三</sub>先考<sub>一</sub>及久三郎<sub>一</sub>。同座。大

超寺兩雛僧。叔父。仲平。久兵衛。鉄之助。

六日 造<sub>三</sub>前定錄<sub>一</sub>。儉奢考。前定錄。月初檢<sub>三</sub>塾生資財<sub>一</sub>有無<sub>一</sub>也。儉奢考。月末檢<sub>三</sub>費用多<sub>一</sub>少<sub>一</sub>也。皆治<sub>レ</sub>塾急務也。脩<sub>三</sub>西塾廁<sub>一</sub>。

七日 飄風而雨。午時稍甚。入<sub>レ</sub>夜不<sub>レ</sub>止。不<sub>三</sub>敢出<sub>一</sub>賀。

八日 聞<sub>三</sub>荒木衛兵衛死<sub>一</sub>。年六十七。衛兵衛初稱<sub>三</sub>孫次<sub>一</sub>。家君與<sub>三</sub>其父祖<sub>一</sub>厚

善。故予自<sub>三</sub>童齡<sub>一</sub>熟知。八年前寓<sub>三</sub>田代<sub>一</sub>。更加<sub>三</sub>親昵<sub>一</sub>。其人長者也。一朝溘焉。嗚乎哀哉。

九日 大聽。琳平還<sub>レ</sub>鄉。代吾之<sub>三</sub>博多<sub>一</sub>。發<sub>下</sub>弔<sub>三</sub>荒木<sub>一</sub>。

吉次<sub>一</sub>書<sub>上</sub>。包<sub>三</sub>金<sub>一</sub>一<sub>三</sub>銖<sub>一</sub>。修<sub>三</sub>西塾窓戶<sub>一</sub>。備<sub>レ</sub>盜也。

十日 哲之助還<sub>レ</sub>鄉。是日頭痛胸鬱。四肢困倦。使<sub>三</sub>松菴改<sub>三</sub>調藥<sub>一</sub>。

十一日 乘蓮童女小祥。設<sub>レ</sub>祭。祭賓。大超寺雛僧。

長老有<sub>レ</sub>疾。圓智代來。叔父。仲平。鉄之助。阿良。阿密。阿千

代。婢皆。婢磯。久兵衛有<sub>レ</sub>事不<sub>レ</sub>來。又設<sub>レ</sub>茶作<sub>三</sub>點心<sub>一</sub>。遍贈<sub>三</sub>親識家<sub>一</sub>。

謙吉及媳皆不<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>家。故代行<sub>三</sub>其事<sub>一</sub>也。嗚乎光陰如矢。忽復一暮。追<sub>三</sub>念往事<sub>一</sub>。如<sub>レ</sub>在<sub>三</sub>初沒<sub>一</sub>。言<sub>レ</sub>之斷腸。



蓋亦勿念。

十二日 省造。久吉郎歸塾。久吉郎歸省。實之東肥也。欲改擇師。而無所合。故復來。雁三郎歸鄉。安次。八六還家。

十三日 之官府。先訪山本氏。遂見高木氏二吏。

中田海藏。塚田太一郎。歸路訪服部。長谷部。村尾三子僑居。

自官府更代後。予不敢入府門。昨久兵衛見。且謝厚意。實因會魚町。高祖祭。同座。大超寺服部氏為請也。

雛僧。叔父。久兵衛。伸平。鉄之助。是日主一郎還家。鶴洲去塾。盜變之起。人多疑鶴洲。擄之不服。幼孫沒後。秋祭之始。設祭點燈籠數十於東家。俗所謂初盆也。凡三日。

十四日 祐入塾。將上塚。以疾不果。禁塾生夜行。

十五日 塾生凡二十八人。記少也。塾生不滿三十。十年來所無也。不知此其衰之極耶。抑將甚於此耶。四方張門戶者。轉業。乘謙吉東行。而競興。所以衰也。力疾詣官府。而賀。遂詣街中親識。又遍詣邨中。昨來風興。此

郎入門。久吉郎弟也。居塾。

二十四日 發與謙吉書。託鉄之助。

二十五日 改月旦評。玄佳加六級下。卯三郎加四級下。省造加三級上。順之助加三級下。太郎加二級上。仲助。六之助加二級下。大桃。祐之加一級上。八六。蘭城加一級下。邦五郎入席。一次郎。尚謙。宗太。照壽。鶴洲。謙齋。常慶除名。凡一百二十六人。又減六人。現在塾生凡三十二人。外來生凡二十一人。謁宮太夫。神祠。主一郎。仲助從行。觀新生双竹。挾稻生祠砌而生。行列整然。如栽者然。是日移座於南塲。

二十六日 釋聞惠來訪。供飯。

二十七日

二十八日 之魚町。供飯。久兵衛。鉄之助陪座。深夜心煩胸苦。服丸藥。連食香魚。蹲鴨所中。

二十九日 疇昔疾不已。松菴調藥。春山施針。

日轉甚。不能上塚。

十六日 風。主一郎入塾。起莊子講及諸講。以盆中日也。

十七日 慈等法尼忌辰。請嶺舍誦經。供飯。大吾。琳平來外宿。大吾話次。聞一次郎死。去年與嶺舍。嗚乎哀哉。其人善男子也。且有詩才。惜哉。

十八日 嶺舍有疾。出塾外宿。大吾。琳平入塾。釋聞惠自京師回。過訪。得謙吉本月五日書。方欲借掛古寺。為僑居云。

十九日 伸平來話。供飯。

二十日 雁三郎。藤壽八郎。膳遠思樓集二葉。將試之。謙吉報都下書手。不不佳。故也。暮赴伸平招晚飯。同座。彌六。伸平。滿達將遊東都來別。

二十一日 辰五郎。雁三郎入塾。

二十二日 彌六來別。

二十三日 修還鄉。治作入塾。介鄉人本田邦五。

休莊子講。移座於東家。夜使三生供逐蝗疫。近日村々逐蝗。炬火連宵。

晦日 疾如昨。夜服芎黃丸。是日研之介還鄉。

八月朔 以疾不出賀。瀉下四回。以服芎黃也。兒玉茂來賀。留話供飯。琳平還鄉。祐之。林田。

二日 竹次再來請受業。今秋早涼。不服絺衣。者。既數旬。兩三日。前。襲綿衣。袷衣。及綿外套。是日又熱。再着絺衣。氣候至變也。今年霖雨洪水。米價一升蓋百廿余。

三日 省造還鄉。雲集入塾。

四日 春山出塾。寓於兒玉茂家。先是數日。適齋稱改出塾。寓於兒玉玄龍家。失日。故併記於此。吉之助之筑後。研之介入塾。

五日 移座於西家。琳平入塾。祐之歸塾。□□淳五來。請再受業。外宿。秀達過訪。供飯。



六日 起莊子講。松菴、竹太郎還郷。聞豐水父死。使琳平往弔。父稱和平。童幼所識。年蓋八十五左右。順之助入塾。是日頭痛。

七日 豐前人礪瀨岩三郎。及弟勝三郎入門。居塾。琉助入塾。以於菟太郎。祐之爲常侍。於菟太郎。史。祐之爲東侍史。輪次直日如故。靈鷲寺義元長老過訪。

八日 得謙吉七月二十日書。已時赴蒲池久市詩會。雁二郎。玄佳從行。同座釋玄海。惠禪。聞惠。松本龍山。久市父子。供飯及酒。日暮予與二生先歸。是日使入於吉木。

九日 吉木使回。十日 始行暗記試業。試論語。上半。釋廓然過訪。

十一日 雲集父僧來訪。筑後覺了寺前住。今號□□院。釋天龍來訪。使玄佳往謝□□院。

十二日 三吉郎自秋月一回。來訪。伸平招供午飯。十三日 招伸平饗之。餞其東行也。將之。雲。

二十日 妹携三兒來留宿。二兒歸魚町。德令母使來。留宿。

二十一日 德令母使辭去。采蘭來留塾。夜妹歸魚町。

二十二日 四肢困倦。聞醉屋勘助死。

二十三日 之隈町訊森伊左衛門疾。歸路謁莊手菅祠。又之豆田弔醉屋。勘助自三十載前後。頗熟。近來則疎濶矣。其人有膽氣。略。豆市中之巨擘者也。年六十八云。

二十四日 山行。已牌出門。加峯礮梁。隆菴。雁三郎。采蘭。研之介。琉介同行。上山田原。發行厨焉。移時而去。取路渡里而歸。憩南塢。設茶瓜。蒲池久市來訪。談及暮礮梁。久市供飯。是日天晴無風。山行有趣。次作之筑前。夜伸平來別。

二十五日 光耀。事本。得雄還郷。雲集歸塾。之魚町與伸平別。久兵衛設餞。予亦與焉。同座。伸平。叔父。久兵衛。鉄之助。予送至官府前。

集去塾寓府中村三郎家。井上直次郎使來。留宿。十四日 井上氏使去。釋義道。真道。改稱來訪。供飯。先是其師義元。去之宰府。予因絕之。及是謝。義元歸。予亦待之如初。吉木使來。報清藏死。安藝。守兄也。

十五日 放學。詣府而賀。遂訪村尾。服部。長谷部氏僑居。又訊醉屋勘助疾。寓浦町。嘉吉家。詣龍馬森。拜神輿焉。長谷部衆助過訪。是夜雨。中秋無月。

十六日 下總人□□良佐來見。聖堂。學生。祖考忌辰。會魚町祭。同座。大超寺兩僧。叔父。長八。久兵衛。伸平。鉄之助。

十七日 先是妹携三兒來於魚町。是日伸平饗之於上馬場神祠。予與妻皆往焉。諸家眷婢僕。凡二十餘人。法梁入塾。順榮來請再受業。留塾。長八東遊來別。與伸平同行。先至中津。

十八日 十九日 園田茂三郎來見。伊吉父也。供飯。

二十六日 改三月且評。研之介。金藏加三級下。大吾加五級下。卯三郎加四級上。包含加三級上。俊吾加三級下。瑞應。雲集。六之助加二級上。一道。大桃。祐之加二級下。辰五郎加一級上。久吉郎加一級下。順榮。淳吾。竹次。岩三郎。勝三郎入席。追考。適齋當加二級上。失考。宜追命。淳五再入舊加二級下。追考。當加二級上。宜追命。元可。

滿達。隼人。文哉。増次郎除名。凡一百二十六人。與前。現在塾生凡三十人。外來生凡十九人。大桃以父疾還郷。訪長谷部周助爲別。周助亦來別。之江。戶也。莊子卒業。

二十七日 采蘭之甘木。藝州僧惠龍入門。居塾。已牌將送長谷部周助。與隆菴。琳平。卯三郎。岩三郎。同出。到羽野憩。要人家。發行厨焉。未牌周助至爲別。歸而小酌南塢。周助丹後人。爲鹽谷君吏。至元。予相識殆二十年。以男谷三執贊。往來頗熟。其人恭敬。无挾勢驕人之態焉。

二十八日 開約言講。服部權六。村尾市次郎來別。



以東行迫也。筑後人樋口園生。佐々木貞順來謁。井上直次郎門人也。釋義道來訪。介田代人松隈種次郎入門。居隆菴家。是日遣人於吉木。弔喪也。采蘭途中得疾回塾。妹來宿。

二十九日 吉田龜太郎來別。福原貞齋。立野宗甫來訪。宗甫新自浪華。回寓下關。妹辭去。將歸玖珠也。所遣吉木一人回。知清藏死爲妄。鄉稱吉木使者。實念秧後不可不憤也。宗甫留塾。供晚飯。樋口園生話次。聞牧園進士死。進士初稱文哉。南冥先生入室弟子也。予十一歲家父子始知有予。斯人之力也。來日田者。前後三度。最後之來。今十九年矣。其人質直不渝。龜門弟子。事師有終者。蓋不過斯人數輩。其歿。亦與昭陽先生同。月日云。嗚乎哀哉。壽蓋七十。

九月朔 詣府而賀。且訪邨尾。吉田。增田。服部諸氏爲別。

二日 吉之助歸塾。義道辭去。

三日 已牌出送。府故吏東上。隆菴。直次。采蘭。雁三郎。研之介。卯三郎。俊吾。順吾。琳平。流助從

三郎之魚町。

七日 使恒三郎。吉之助。之筑後。議糴米事也。近日米壘升價。至百四十餘錢。予輩生來所無也。聞衆議將逐旅寓者。故使恒三郎就其父乞糴。事之成否。未可知也。嗚乎可歎耳。岩三郎。勝三郎還鄉。訪兒玉茂。示眼疾。且諷遠思樓集中事。午飯焉而歸。午後之魚町。看鉄之助疾。話酉陽雜俎數則。晚飯而歸。夜二更又之魚町。訪諫山安民。迎其自玖珠歸。且謝之也。安民往診伊織疾。曰治不未可決也。

八日 適齋歸塾。之魚町。訪鉄之助疾。話怪談全書數則。

九日 微恙。不出賀。兒玉茂來。與校遠思樓集。供飯。豐太郎入塾。服立野宗甫藥。胸鬱生。痰咳。

十日 招釋聞惠。與校遠思樓集。供飯。恒三郎。吉之助歸塾。告糴米事不協。筑中方。遇難。

十一日 大聽。元泉入塾。

十二日 主一郎還家。法梁爲常侍。

行。至羽野。與村尾。吉田二子別。村田順藏妻及尾市次郎。吉田龜太郎。皆嘗受業於予。村尾較親善矣。遂至山田原。與服部。增田。竹內。及諸家眷別。發行厨焉。申牌還家。權六至三元。府中人材以此爲冠。久兵衛最與之親善。今也失援。可歎惜矣。三吉郎頗有才氣。段二。英吉。尙么慶耳。增田良作既從。府君而去。重三郎以爲其義子。往而從之。竹內彦六。予與之相識。而先交義焉。肥前僧鳳梁入門。居塾。是日謙吉書至。

四日 采蘭。純菴。服原。貞齋歸鄉。采蘭終去廿木。將別擇師。歸謀也。之魚町。議伊織及鉄之助疾也。伊織疾。報外邪。數日。類陰症。遂詣諫山安民家。議醫藥事。既歸。詣橋本出雲。託禱祠事。夜又之魚町。有酒焉。安民。三松玄達。立野宗甫。久兵衛同座。

五日 大吾。祐之還鄉。包含歸塾。安次入塾。午後之魚町。看鉄之助疾。談虞初新志數則。晚飯焉而歸。

六日 良平。慶藏入塾。義道來訪。午後之魚町。看鉄之助疾。話搜神記數則。晚飯而歸。又與恒

十三日 立野宗甫辭去。元仙還鄉。夜賞三月於南塢。煨栗煎茶。會者。直次。雁三郎。研之介。於菟太郎。淳吾。流介。久吉郎。慶三。是夜月色清明。是日始服蜜蒙飲。兒茂附方。宗甫調藥。

十四日 義道來別。種次郎還鄉。發與謙吉書。十五日 久形環來訪。詣府而賀。聞下森伊左衛門。以昨日一死。約言卒業。

十六日 詣隈町。弔森氏。兩市富商。無與予厚善者。但此人小有情焉。今也溘焉。可歎。毛詩開講。主一郎入塾。代法梁爲常侍。

十七日 十八日 十九日 往謁石井松尾祠。雁三郎。恒三郎。於菟太郎。從行。既歸。發行厨於南塢。直次亦與焉。

二十日 伊吉入塾。鳥子石自肥後歸。來訪。平三郎告別。春山歸塾。

二十一日 之魚町。謀子石伊。吉事也。祐之入塾。松村官次來訪。

二十二日 良平代主一郎爲侍史。



二十三日 猪吉去塾。寓醉屋儀平家。久兵衛携魚羹一至。同食。

二十四日

二十五日 改月且評。琳平。卯三郎加五級下。包含加四級下。俊吾加三級上。順榮。雲集。六之助。適齋加三級下。適齋前月追加二級。上。今又加半級也。淳吾。良平。仲助加二級上。龍助。久吉郎加一級上。豐太郎

加一級下。惠了。風梁入席。谷藏。蒼海。兔毛除名。常三郎。尚賢轉客席。凡一百二十五人。比二月前減一人。現在塾生凡三十八人。外來生凡十三人。晚

久兵衛招供飯。叔父。久兵衛同座。

二十六日 省造入塾。辰五郎還鄉。夜隆葺與加峰礮梁來話。供粥。

二十七日 大吾入塾。

二十八日 發與謙吉書。託鉄之助。

二十九日 研之介。琳平。淳吾還鄉。奧人坂本道逸

叔父。政右衛門。久兵衛。鉄之介。既而上塚。叔

父。久兵衛。以下數人。詣長老室談。移刻而歸

未時歸家。光陰如矢。忽然一暮。不能居。復循禮。自顧缺然。終天之痛。如何忘之。聞

法輪院寂。法輪院名圓什。字一環。俗稱侍從。前廣圓寺住持。其人善男子也。歿年八十三。也。予十餘歲相知。至是四十年。交態不渝。我鄉者宿盡矣。可不嘆哉。適齋還鄉。謙吉書至。蘭谷別府遞之。

六日 之廣圓寺。弔喪。叔父。久兵衛來話。供飯。勳平自京師歸。供飯。得謙吉浪華書。勳平以疾。速歸。謙吉正在浪華。館服部氏云。義道來訪。

七日 豐太郎還鄉。瑞應入塾。

八日 政右衛門來別。先會。供飯。

九日

十日 葬法輪院。使圖書往會。

十一日 廣圓寺以葬祭招。不往。贈奠儀。釋大

寂來。請再受業。居照。蓮寺。介同國僧真龍入門。

居塾。蘭城來。介筑後僧靈通。圓實入門。外宿。

來見。供飯。謙吉在浪華。所相識者。夜吉木使至。報媳婦生男。以書報謙吉。託道逸。

晦日 反吉木使。辰五郎入塾。稻員渙度來話留宿。

十月朔 開爐。圖書入塾。介宇佐僧騰雲入門。

居塾。使二人於吉木。贈生兒衣服及酒肴。詣府而賀。歸路

過魚町。午飯焉而歸。

二日 吉木使回。

三日 治作入塾。介同鄉人本間岩太入門。亦居

塾。法華經書寫卒業。納於魚町神祇。謙吉始業。為先考追

福也。未成而東遊。予代卒。緒。履門生為之。夜會祭魚町同座。大超寺

六僧。叔父。政右衛門。久兵衛。鉄之助。

四日 先考小祥。先忌辰。一日。會祭魚町。全家皆往。祭

賓大超寺六僧以下凡十四五人。凶歲故。殺禮也。子與

叔父。久兵衛同座。未時歸家。豐太郎出塾外

宿。廢毛詩講兩日。種次郎來。居隆。葺宅。

五日 先考忌辰。再會祭魚町同座。大超寺三僧。

春山出塾寓諫山安民家。

十二日

十三日 叔父來話。供飯。

十四日 先是 東都遣御勘定一員。御普請役二

名。檢田斂稅。以歲儉且。府無主也。是日過門。移坐於

東家。釋慶端過訪。

十五日 移諸生在東塾者於新樓。空東塾。專

為講業之所。試業都講監之。句。讀以輪次。監之。順之介還家。

十六日 妻之吉木。看媳及生兒。且謝舅家也。

婢皆及一僕從行。筑前人吉住璉之助入門。居塾。

十七日 直次。卯三郎之筑後。之吉木賀兒生。且。訪加藤虎之丞也。

十八日

十九日 稻員渙度來訪。供飯留宿。

二十日 久兵衛招供午飯。久兵衛。鉄之介同座。夜

妻自吉木回。婢皆及雇僕隨焉。留宿。聞生兒稱

孝之助。託藝州。探圖於神前。得此稱焉。



二十一日 婢皆。雇僕辭去。移座於南塢。  
 二十二日 璉之助還郷。安藝醫生長尾三達入門。  
 居塾。直次。卯三郎歸塾。  
 二十三日 龍助還家。倩隆菴。艸規約。供飯。  
 二十四日 疾作。頭痛身寒胸鬱小便不利。廢詩經講。平臥不能起。防州僧宜貫入門。居塾。夜煩悶失寐。  
 二十五日 疾如昨。招諫山安民診視。且乞藥。  
始服安民藥。北里人□□恒八入門。居大原橋本氏。加峯碯梁自秋月一至。來見。  
 二十六日 疾小愈。離褥依衾爐。初恐其爲外邪。既而不然。蓋連日講規約事。勞思過度故也。以西家借加峯碯梁。與俊吾及其弟子僕來寓。寓居主人儀右衛門夫婦患疫。畏其易也。故移居云。叔父來話。供飯。  
 二十七日 以疾不造。月日評。法梁還家。夜儀右衛門死。  
 二十八日 使人弔儀右衛門氏。且會葬。儀右衛門河野氏。村中。

舊族也。予自幼熟識其父。斯人則二十年來所  
 知也。年未滿四十。邑舊族至是略盡矣。 琳平入塾。  
 招橋本出雲。大禳疫氣。自家及塾。供酒飯。  
 十一月朔 長崎篆刻師。大城源四郎來見。供飯。飴屋德兵衛兒死。使人弔且待事。  
 二日 改月日評。直次。雁三郎加七級下。金藏加六級上。繁。俊吾加四級下。順榮。雲集。六之助。加三級上。連。一道。祐之加二級上。久吉郎加二級下。謙三郎。達性加一級上。傳。嶺含加一級下。種次郎。增次郎。再入。真龍。岩太。騰雲。圓實。靈通。三達。宜貫。常八入席。仲轉。客席。三吉郎。重三郎。得髓。順素。哲平。本教。保。耕三郎。德猛。浥流除名。凡一百二十五人。比前月。先增減。現在塾生凡四十人。外來生凡二十四人。長野要人來訪。供飯。招加峯碯梁。供飯。  
 三日 謙吉書至。十月三日及十日。十三日。聞鹽谷府君物故。未審信否。鄉間人說。今見謙吉書中。

四日 加峯碯梁還郷。嶺含還郷。田邊元春入門。

碯梁弟子。來寓西家者。筑人也。

五日 起三毛詩講。

六日

七日 松菴。大挑入塾。

八日 代吾。六之助。久吉郎。國五郎。岩太還郷。

服諫山氏藥。止於是日。服安民藥。蓋二十五貼。

九日 使春山調藥。抑肝散。煎用治眼疾及上衝。安民方。

十日 讀丙申改正規約。及告諭文於講堂。改東塾。爲講堂。改新塾新樓。爲東塾。東樓。予以二月朔。代謙吉。爲塾政。欲有所更張。荏苒不果。頃聞弊風稍甚。人抱異心。因有此舉。其事存於規約中。今不具載。予之有此舉。非爲門戶計。唯欲利人濟物。以奉天心。而償萬善之責耳。此醒齋進脩中之大舉也。先是脛生瘡。至此稍痛。用三元春膏藥。且服煎湯。大城源四郎來訪。供飯。

十一日 瘡潰痛減。兒茂來訪。釀飲。妻及研之介。主一郎侍席。供晚飯。

十二日 又服春山藥。

十三日 浚井。放學。

十四日 冬至。放學。是日天氣清明。島子石自肥回來見。供飯。

十五日 丑六來賀。供飯。是日頭痛。

十六日

十七日 大吾歸塾。仲助以疾還郷。來別。先是數日外宿。

大吾話次。聞劉穀堂。辛伯葬死。穀堂予未通信。然嘗跋予稿。謙吉則相見。其人才海西之儀表云。伯葬稱才藏。予十二三時。既聞其名。亦一時大老也。穀堂蓋未滿六十。伯葬則逾八十。自昭翁歿。名士相繼而亡。海西寂寥。嗚乎可勝歎哉。

十八日 使圖書往三子山。謙吉祈男於山神。今孝兒生。故使人賽之也。

十九日 聞歡樂院死。山本院父僧。年九十一。先考與之半歲。余爾後尤熟。今也溢焉。亦不堪懷舊之感矣。夜島子石與中島屋某來。議于石會葬事。子石將歸義父家。未果。而值喪。故議其處置。

二十日 使傳弔山本院。且會葬。猪吉歸塾。始講蘇詩。爲塾生數輩。時一爲之。非日課也。